

国立大学法人
高知大学国際・地域連携センター
年報

CRIC

Center For Regional & International Collaboration

Kochi University
October 2013

ごあいさつ

「敬地愛人ー地域発展のために」

国際・地域連携センター
副センター長、産学官連携部門長
石塚 悟史

国際・地域連携センターは、「地域の大学」を標榜する高知大学の営業窓口として、地域の発展のために高知大学が果たす役割を真剣に考え、その実現に向けて精一杯の活動を続けています。地域連携・再生部門では、高知県内の多くの市町村との連携協定に基づく地域活性化事業を展開しています。また、土佐フードビジネスクリエーター人材創出（土佐FBC）は、平成25年度から高知県の寄附講座となり、様々な団体からご寄附を頂くことで食品産業の中核人材の育成に向け取り組んできており、更なる経済的な波及効果が期待されております。産学官連携部門では、平成24年度から高知県内における産学官民の有機的なネットワーク組織「土佐まるごと社中（TMS）」の事務局を担っております。平成25年10月19日（土）には、業種や分野を越えて双方向のコミュニケーションを深めることにより、さらに一層、知の創造やイノベーション創出に結びつける機会となることを期待して、第7回産学官民コミュニティ全国大会&TMS発足1周年記念大会を高知で開催いたしました。知的財産部門では、本学が有する知的財産の保護と活用を支援するとともに、医学部学生向けの知的財産セミナーの開催などの人材育成セミナーも積極的に行っております。国際・連携部門では、国際学術交流の支援等の他に、本学と日本貿易振興機構（ジェトロ）高知貿易情報センターの連携により、高知県内の食品メーカーの海外進出を想定した海外実施研修を実施するなど、地域の国際化に関する新たな取り組みを開始しました。

高知大学は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択され、平成25年度から自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進め、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在（Center of Community：COC）としての大学の機能強化を更に進めることになっていきます。具体的には、高知県内7ブロックにサテライトオフィスを設置し、大学派遣地域コーディネーター（University Block Coordinator：UBC）を常駐させ、高知県の地域産業振興監や地域支援企画員の皆様と共に活動する体制を構築します。UBCを核に大学が地域に深く入り込み、地域活性化に向けて地域の皆様と協働してまいります。

これからもスタッフ一同「敬地愛人ー地域を敬い、人を愛する」精神を持ち続け、地域発展のために邁進してまいりますので、高知大学国際・地域連携センターをお気軽にご利用下さいますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

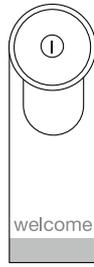
目 次

1. ごあいさつ 副センター長 産学官連携部門長 石塚 悟史	3
2. 高知大学国際・地域連携センター Infomation (リーフレットより)	6
3. 特集	
地域再生人材の創出を目指して ～土佐 FBC の 5 年を振り返る	9
4. 事業報告	17
<地域連携・再生部門>	
平成 24 年度活動報告	19
TOPICS	20
① 高知大学と自治体等との連携事業	20
(1) 生涯学習活動の推進体制	23
(2) 秋の公開講座	24
(3) 出前公開講座「自然と文化」	26
(4) オープンクラス	30
(5) 高大連携事業	32
<産学官連携部門>	
平成 24 年度活動報告	33
TOPICS	34
① 高知大学と企業、研究機関等との連携事業	34
② イノベーション・ジャパン、アグリビジネス創出フェア等の展示会へ出展	37
③ シンポジウム、フォーラム等	39
(1) 研究成果	
黒酵母 β -グルカンの機能性に関する研究	43
(2) 産学官民連携件数等	46
(3) 平成 23 年度 民間企業等との共同研究一覧・受託研究一覧	47
<知的財産部門>	
平成 24 年度活動報告	55
TOPICS	56
① 国際・地域連携センター 知的財産部門の紹介	56
② 各種セミナー等取り組み	58
(1) 知的財産権の活用状況について	60
(2) 平成 24 年度 発明届の処理状況	62

<国際連携部門>

平成 24 年度活動報告	63
TOPICS	64
① 【ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援】に採択	64
② 高知大学中国語センター設置及び安徽大学（中国）からの教員の受入れ	65
③ 表敬訪問・学術交流協定調印式	66
④ 講演会等	69
⑤ 留学生と地域交流	70
⑥ 留学生交流	73
⑦ 高知大学帰国留学生ネットワーク	74
(1) 日本語教育	75
活動の概要	75
① 日本語集中コース	76
② 日本語総合コース	77
(2) 留学生支援事業	82
(3) 高知大学における国際化・国際交流	83
① 国際化戦略経費の設置	82
② 国際交流基金助成事業	82
(4) 国際交流のスキーム及びポリシー	86
① 高知大学における国際交流活動のスキーム	86
② 高知大学における国際交流ポリシー	87
(5) 国際交流協定締結校・国際交流活動	88
① 大学間協定一覧表	88
② 部局間協定一覧表	89
③ 2012 年度海外協定校交流実績一覧	90
5. 資料	93
(1) 高知大学国際・地域連携センター規則・同センター職員名簿	95
(2) 高知大学国際・地域連携センター運営戦略室規則・同室名簿	102
(3) 高知大学国際連携推進委員会規則	104
(4) 高知大学国際・地域連携センター自治体連携室利用内規	107
(5) 高知大学国際・地域連携センターに設置する 高知大学中国語センターの運営に関する取扱い	108
(6) 高知大学教育組織図	109
(7) 科学・技術相談申込書	110
(8) 高知大学国際・地域連携センターアクセス	111

敬地愛人「地域発展のために」



Information

高知大学国際・地域連携センター

例えば、こんな相談を……

企業からは

- 技術的な面での専門家のアドバイスがほしい
- 大学と共同研究をしたい

地方自治体からは

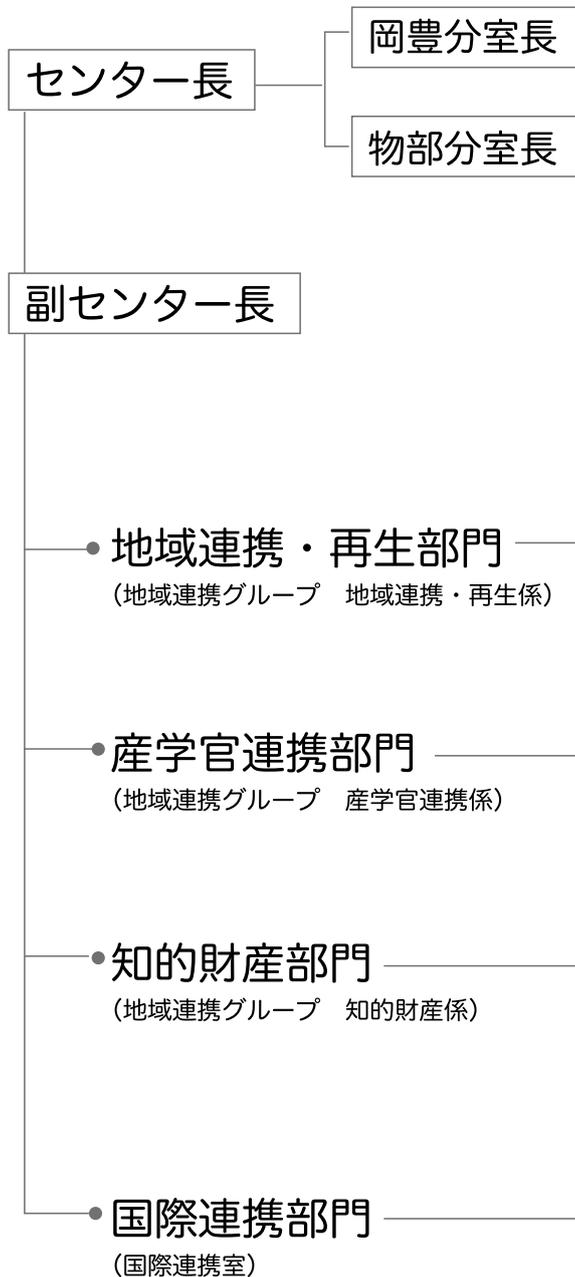
- 市町村のまちづくり計画に有識者として参加願いたい
- 大学と連携して地域活性化の取り組みをしたい
- 大学生と一緒にプロジェクトを行いたい

教育機関からは

- 大学と共同で教育プログラムを開発したい
- 教育の研修や教育上の諸課題を相談したい
- 高校で大学の授業（出前授業）を行いたい

どんなご相談でもお気軽にどうぞ

国際・地域連携センター組織図



● 地域連携・再生部門

高知大学が有する人材・知的資源を駆使することにより、地域との連携を推進し、現場のニーズに応じた課題解決及び地域における人材の育成に貢献するとともに、生涯学習の普及に努め、地域の振興と維持・発展に寄与する。

- * 地域との連携に係る企画立案及び推進
- * 地域のニーズに応じた課題解決及び地域の人材育成
- * 公開講座開設及び大学教育開放事業 等

● 産学官連携部門

企業、研究機関等との共同研究、受託研究を推進するとともに、教育及び研究の成果を通じて、地域イノベーションの創出、技術開発及び産業の活性化に貢献する。

- * 地域イノベーションの創出に係る企画立案及び推進
- * 学内及び他大学との共同研究及び連携
- * 企業、研究機関等との共同研究及び受託研究の受入れ
- * 企業、研究機関等からの科学・技術相談 等

● 知的財産部門

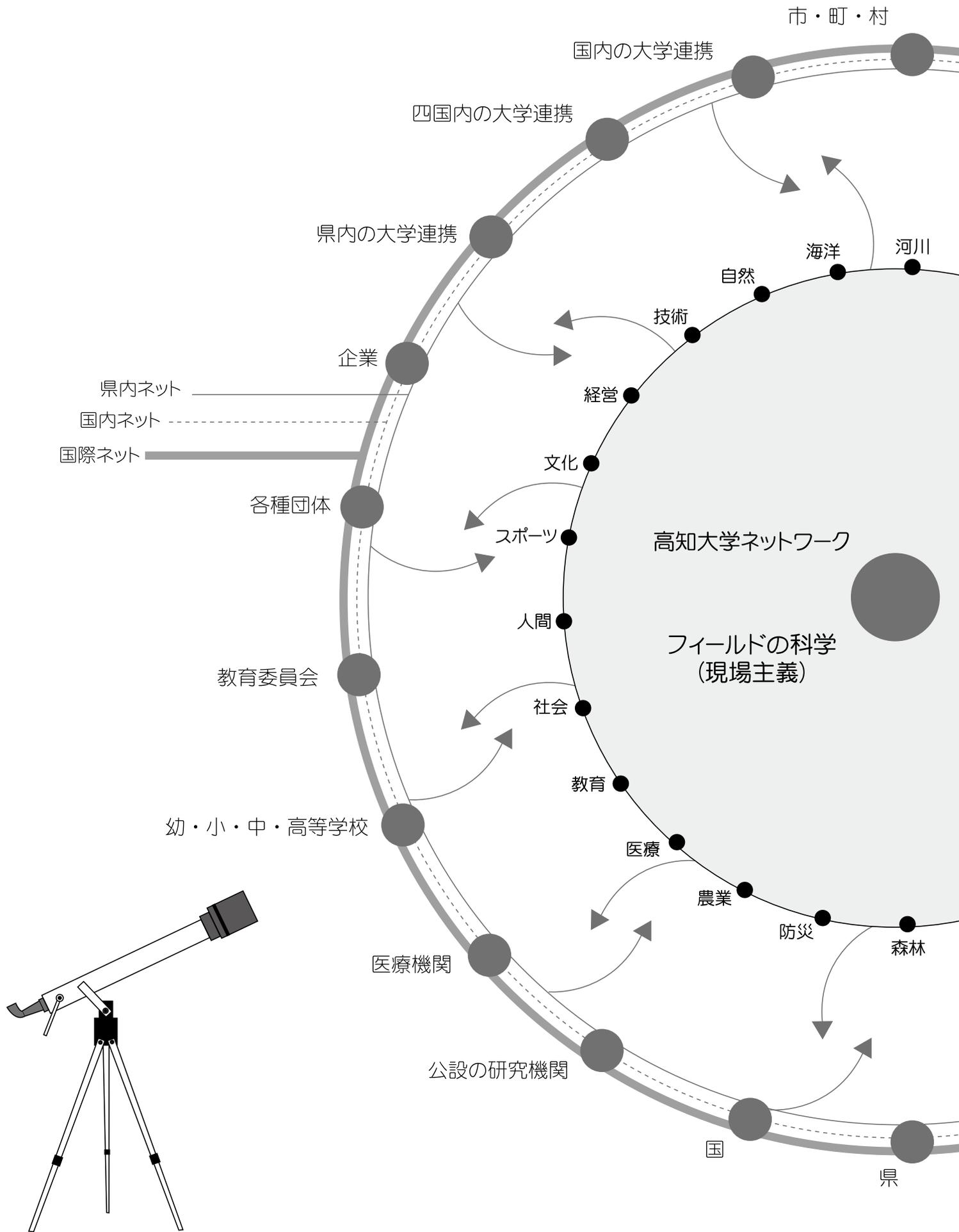
高知大学の創出した知的財産を自らの責任のもとに、保護、管理、活用し、本学の教職員等、学生、地域社会が受ける利益の最大化を目指す。

- * 知的財産に係る情報収集及び広報
- * 特許等の出願、権利化、維持
- * 知的財産の活用 等

● 国際連携部門

教育研究などの国際的な連携、大学間交流及び学生交流を推進するとともに、留学生の支援や地域の国際化に寄与する。

- * 国際交流協定校との学術交流・共同研究
- * 留学生の支援や地域の国際化の推進 等



地域再生人材の 創出を目指して

～土佐FBCの5年を振り返る

Tosa・Food・Business・Creator



平成20年から5年間、高知大学が実施した土佐フードビジネスクリエーター人材創出プロジェクト(土佐FBC)は、自治体や県と連携し、食料産業の中核を担える人材を育成してきた。その取り組みと成果を振り返り、次のステージへ挑む礎としたい。

プロジェクトの背景

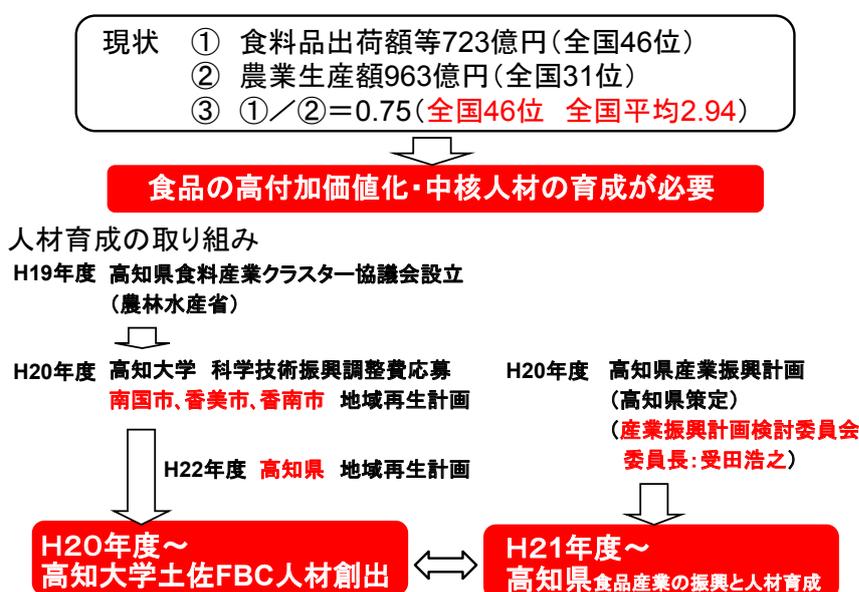
高知県は豊富な農産物を生産している地域でありながら、生鮮出荷に依存した産業構造が原因で、国内、国際競争力に乏しく経済的に脆弱である。この状況を打開するために生産、加工からマーケティングまでの専門的かつ包括的な知識を有する食料産業中核人材を養成することが急務の課題であった。

こうした現状をふまえ、高知大学は地域企業、自

治体と連携し、平成19年度に高知県食料産業クラスター協議会を立ち上げ、地域食材を活用した付加価値の高い加工食品の開発を支援してきた。(図1)

このような背景、連携をもとに、平成20年度、文部科学省の「地域再生人材創出拠点の形成」の採択事業として土佐FBCはスタートした。

高知県の現状(H19年)と人材育成の取り組み [図1]



プログラムの展開

この事業では、食料産業の中核を担える「フードビジネスクリエーター」の育成、さらに経営感覚を身に付けた農業従事者の育成、理系の教育を受けていない食料産業従事者のスキルアップを目標に、3つのコースを設定した。

プログラムは、「食品製造・加工」「マネジメント」など4つの座学、「実験技術」「現場実践学」、また各企業の課題解決や商品開発を支援する「課題研究」などの技術習得メニューで構成した。(図2)

Aコースは、食品産業の経営から開発までを担える中核人材の養成をめざし、2年間のプログラムを設定した。修了後は各企業で中核業務を担うほか、本プログラムの受講生に対する指導や支援も行う。

Bコースは、理系の教育を受けていない食料産業従事者の受講を想定し、自ら商品開発や分析・管理などの技術業務を担えるスキルと考え方を身に付けることを目標にした。

土佐FBCカリキュラム(平成24年度) [図2]

①食品製造・加工

食品プロセス工学	下田 満哉 久塚 智明	九州大学大学院 ㈱FBTプランニング
食品加工学	沢村 正義 保積 幸和 西岡 道子	土佐FBC 高知地域センター 高知県立大学

食品化学	受田 浩之	高知大学
発酵化学	永田 信治	高知大学

②マネジメント

知的財産管理学	岡本 保朗 竹岡 明美	四国TLO アスフィ国際特許事務所
マーケティング	門田 直明 田代 順也 中島 和代 高橋 誠 宮中 仁	コーライフ・クリエイツ(株) ジェトロ高知 ㈱なかじま企画事務所 アグリネットワーク・れいほく㈱ ㈱サニーマート

経営・起業論	中島 和代 石筒 覚	㈱なかじま企画事務所 高知大学
人材管理	小松 弘明 中島 和代	ソフトブレンサービス(株) ㈱なかじま企画事務所
ファイナンス	鈴木 誠	㈱ナチュラルアート

③品質管理

食品分析学	沢村 正義 島村 智子 樋口 慶郎	土佐FBC 高知大学 土佐FBC
食品衛生学	一色 賢司 宮本 敬久 松岡 哲也	北海道大学大学院 九州大学大学院 高知県食品・衛生課

④食品機能

食品学	沢村 正義 伊藤 慶明 中西 正昭	土佐FBC 高知大学 高知大学
食品機能学	永田 純一 松井 利郎 渡邊 浩幸 受田 浩之 針谷 毅	福岡工業大学 九州大学大学院 高知女子大学 高知大学 (株)資生堂
生理・薬理学	杉浦 哲朗 竹内 啓晃 今村 潤 上岡 樹生 山崎 文晴	高知大学 高知大学 高知大学 高知大学 高知大学

⑤実験技術

沢村 正義 八木 年晴 受田 浩之 樋口 慶郎 吉金 優	土佐FBC 高知大学 高知大学 土佐FBC 土佐FBC
--	---

⑥現場実践学

上東 治彦 森山 洋憲 北村 有里 岡本 佳乃 加藤 麗奈 竹田 匠輝 阿部 祐子 近藤 麻矢 下藤 悟 沢村 正義 吉金 優	高知県工業技術センター 高知県工業技術センター 高知県工業技術センター 高知県工業技術センター 高知県工業技術センター 高知県工業技術センター 高知県工業技術センター 高知県工業技術センター 高知県工業技術センター 土佐FBC 土佐FBC
---	---

⑦課題研究

沢村 正義 伊藤 慶明 八木 年晴 永田 信治 樋口 慶郎 吉金 優 上東 治彦 森山 洋憲	土佐FBC 高知大学 高知大学 高知大学 土佐FBC 土佐FBC 高知県工業技術センター 高知県工業技術センター
---	---



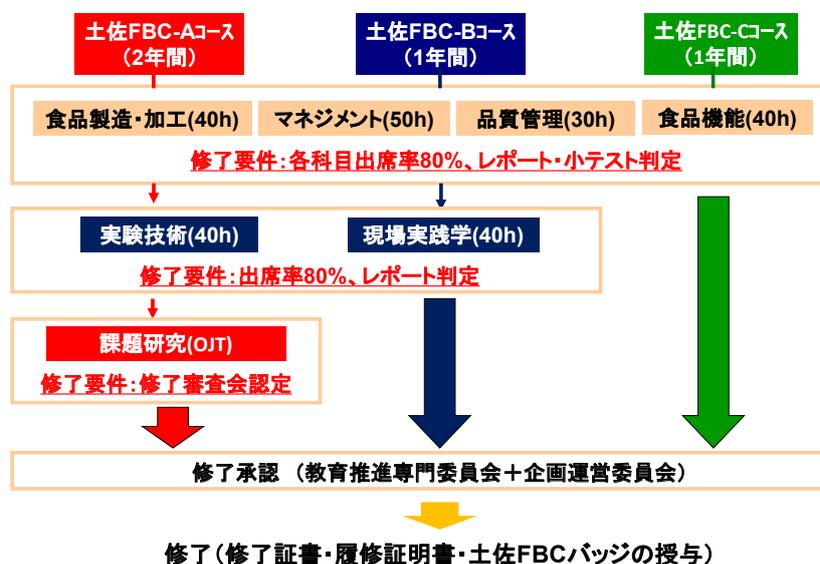
Cコースは、経営的な視点を持った農業従事者の受講を想定した。商品開発の支援から見た一次産業の方向性を示し、地域の営農者を経営的な視点で誘導していく地域のリーダーとして貢献することを目標とした。

このようなプログラムを実施することで、専門人材の不足から課題解決が難しかった農業や食品関連産業に大きな飛躍が見込まれ、地域経済の活性化に寄与すると期待した。これまでの産業構造が変化し、農業分野の高付加価値化の取り組みが整備され、就

農者の減少に歯止めがかかったり、健康食品、機能的食品の開発が活性化し、地域所得の増加や新たな雇用の創出が望める。

養成人材の到達度認定については、座学、実験技術及び現場実践学では、各科目、80%以上の出席率、科目ごとの小テストあるいはレポートの結果などから判定した。課題研究は、受講生ごとに獲得知識・技術を設定し、成果・資料発表を基に審査委員の過半数が目標達成していると判断すれば修了認定した。(図3)

養成プログラムと修了要件 [図3]



土佐FBCの成果

1. 数多くの人材を輩出

平成20年度の事業開始から5年間で、3つのコース全てで目標人数を大きく上回る実績を達成した。食品加工や食品流通、農業自営、JAなど様々な立場の者が受講し、B・CコースからAコースへコースアップする受講生もいた。(図4)

修了者は地域で活躍している。県内の食品関係のイベントには必ず土佐FBCの修了者が参画しており、土佐FBCの存在感は年々高まっている。5年間の修了者131人(コースアップによる重複19人を除く)のうち128人が県内に定着し、98%の定着率である。県内就職を目的に土佐FBCを受講した高知大生は11名中7名が県内企業に就職し、高知大生の県

内就職の促進にも貢献した。この成果により、土佐FBCの継続事業に対する自治体や銀行、JA、企業による運営資金への寄附をはじめとする全面的なバックアップ体制の構築につながった。

また、修了者に対するフォローアップとして、メールでの情報提供や教員・講師による技術相談、アグリフードEXPO参加によるマーケティング支援をおこなっている。

修了者の交流を目的とした同窓会組織「土佐FBC倶楽部」を平成21年度に設立した。これは、受講生、修了者、講師、FBC教職員をメンバーに、2か月に1度定例会を開催している。交流により新商品開発や販路開拓につながる成果が多数生まれている。(図5)

養成人材像および目標達成度 [図4]

コース	養成期間	創出する人材像	習得する知識・スキルの到達レベル	養成目標人数	被養成者数	
					人数	達成度
A	2年 (240h +課題研究)	食料産業の経営から開発まで担える中核人材	・各企業で中核業務を担う ・本プログラムの受講生に対する指導の支援も行う	20名 (10名)	29名 (20名)	145% (200%)
B	1年 (200h)	技術力を有する食料産業従事者	・自ら商品開発や分析・管理などの技術者業務を担えるスキルと考え方を身に付ける	35名 (15名)	64名 (28名)	183% (187%)
C	1年 (160h)	経営的な視点を有する農業従事者	・商品企画の視点から見た1次産業の方向性を指し示し、地域の営農者を経営的な視点で誘導していく	25名 (15名)	57名 (30名)	228% (200%)
計				80名 (40名)	150名 (78名)	188% (195%)

()内は3年修了時

修了生の活躍状況 [図5]

- ①被養成者の地域への定着率96% (126名/131名*) *コースアップによる重複19人除く
- ②被養成者(学生)の地域への定着率 89% (9名/11名)
県内出身者100%(6名/6名)、県外出身者 60%(3名/5名)
- ③被養成者の土佐FBC講師への就任(3名)
- ④被養成者の代表的な活躍状況

修了コース	活 動
A	建設業の多角化として、 袖子の生産・加工・販売の6次産業化を実現 。 単独あるいはコラボにより多数の商品を開発。平成22年度から土佐FBC講師。
A	量販店バイヤーとして土佐FBCを受講。 高知県アンテナショップ「まるごと高知」の物販店長 として出向、地域の食品事業者の商品開発や販路開拓にアドバイス。平成24年度土佐FBC講師。
B	商品開発や販売促進に努め、 2012年モンドセレクション金賞 を受賞。 土佐FBC II 実施準備委員会委員。平成25年度から土佐FBC 倶楽部会長。
C	自社の商品開発・品質管理・製造・販売のプロセスをマニュアル化したいとして受講。 マニュアル化を実現し、 会社での社員研修をリード している。

- ⑤土佐FBCの寄与した売上成果 3.6億円(H20～H24の売上アンケート調査結果)

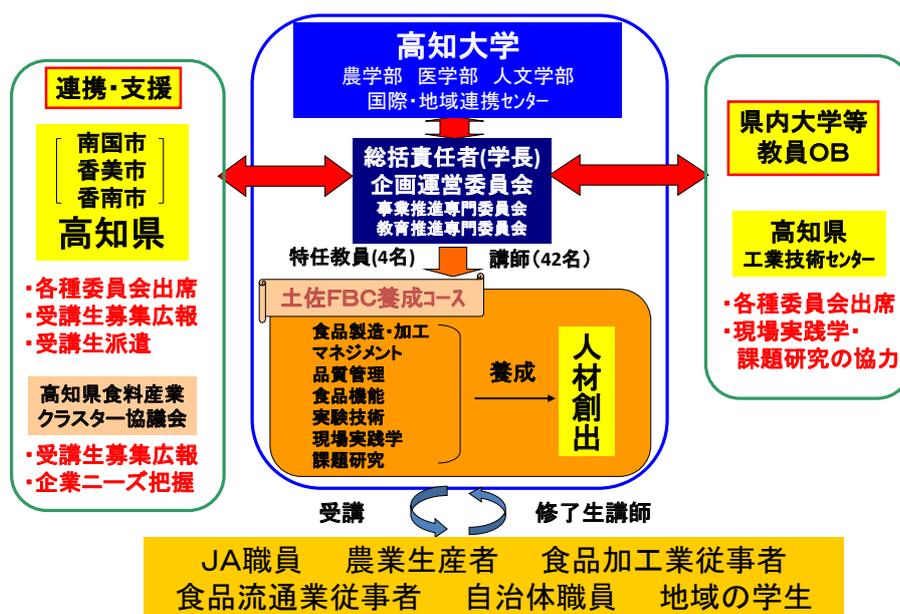
2. 県や自治体との連携

プログラム実施当初から、連携する3市(南国市、香美市、香南市)の広報誌での受講生募集の実施や、開講式・修了式・成果発表会に市長・議長・課長を招待している。また、平成22年度からは、地域の強いニーズから対象エリアが高知県全体に拡大され、企画運営委員に高知県産業推進部計画推進課長が関わった。

こうした連携が後押しになり、高知県、3市、高知県食料産業クラスター協議会会員企業は、平成22年度に設置した土佐FBC II 検討委員会、平成24年度に設置した土佐FBC II 実施準備委員会の主要メンバーとなった。

また、土佐FBC事務局では、高知県の人材育成事業「土佐まるごとビジネスアカデミー」の開設や、地域雇用創出事業などのカリキュラム作成や講師派遣などの支援をおこなってきた。(図6)

実施体制と地域との連携 [図6]

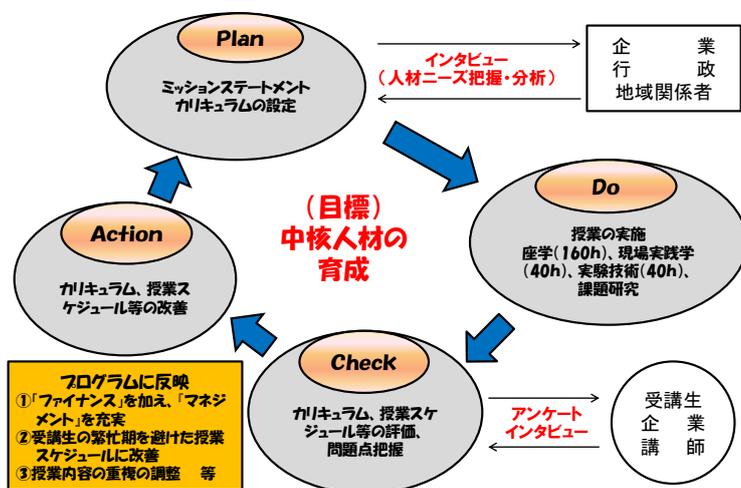


3. プログラムの発展

養成環境や授業内容は、PDCAサイクルに基づき毎年改善をはかった。受講生アンケート調査や特任教員と受講生とのコミュニケーション、各委員会での意見交換や連携自治体・企業訪問、土佐FBC倶楽部などを通じて、受講生および地域・企業ニーズの把握に努めた。

結果は委員会で検討し、次年度のカリキュラム内容や授業スケジュールに反映した。(図7)

土佐FBC人材創出のPDCAサイクル [図7]



● アンケート・インタビューを実施して

- ・「ファイナンス」を追加
- ・「食品加工学」のなかで“調理・加工”の内容を追加
- ・繁忙期を避けた授業スケジュールの調整
- ・土佐FBC倶楽部(OB会)の開催
- ・展示会実習(アグリフード EXPOへの参加)

● 中間評価への対応として

① 一層多く受講できるようなシステム・環境作り

- ・コースアップ受講生(B→Aコース等)の受け入れ
- ・学外教室の実施：通学困難地域で本校の1/4プログラムを実施(H23・H24の2年間で36名が修了)
- ・継続プログラム土佐 FBCII:「選択受講コース」、「企業研修コース」の開設

② 受講者のレベルに即した養成手法の改善を継続、経営感覚を身に付けた農業者の育成

③ 被養成者の素養を前提にした教育カリキュラム構築と課題研究の更なる工夫・フォローアップ

- ・座学・実習：各年度の受講生プロフィールに基づく各講師との授業内容の相談・調整「ファイナンス」の追加
- ・課題研究：土佐 FBC 教員を中心に各受講生にOJTで対応(平均120h/人)修了後の技術相談の継続

4. 地域再生に貢献した成果

土佐FBCの成果の一つは、修了生による提案である。具体的には、学びと実践を活かし、JA内での農業生産法人の設立や小学校での食育授業支援、専門店の開業、食のイベント企画、社員研修制度のマニ

アル化などがあげられる。

また、多数の新商品も生まれている。その多くは、他の受講生や講師とのコラボレーションで形になった。土佐FBCは、食品産業に関わる人と人をつなぐプラットフォームの役割も果たしている。

●●●土佐 FBC 受講生から生まれた新商品 ●●●



土佐にんにくドレッシング

3人の修了生がコラボして生まれた商品。製造を高橋(1期生)、にんにくの提供を濱田(2期生)、デザインを田中(2期生)が担当。



土佐入河内の実生ゆず

土佐入河内の実生ゆずを使ったゆず果汁。島津(4期生)が受講の成果を活かして開発。



ユズリーノ

初の土佐の食後酒として、柚子の果皮を使ったリキュール。沢村特任教授と渡邊(1期生)、そして酔鯨酒造(株)の連携により開発。



土佐リアンジェラートゼロ

砂糖ゼロのヘルシーゼラート。矢野(4期生)が課題研究の成果を活かして開発。



手づくりコンフィチュール

大家(2期生)が受講の成果を活かして開発。デザインを土佐FBC講師が指導。



ハッピートマトジュース

高知県産の高糖度トマトを使ったトマト果汁100%のジュース。萩野(2期生)が受講の成果を活かして開発。



ピンクグアバティー

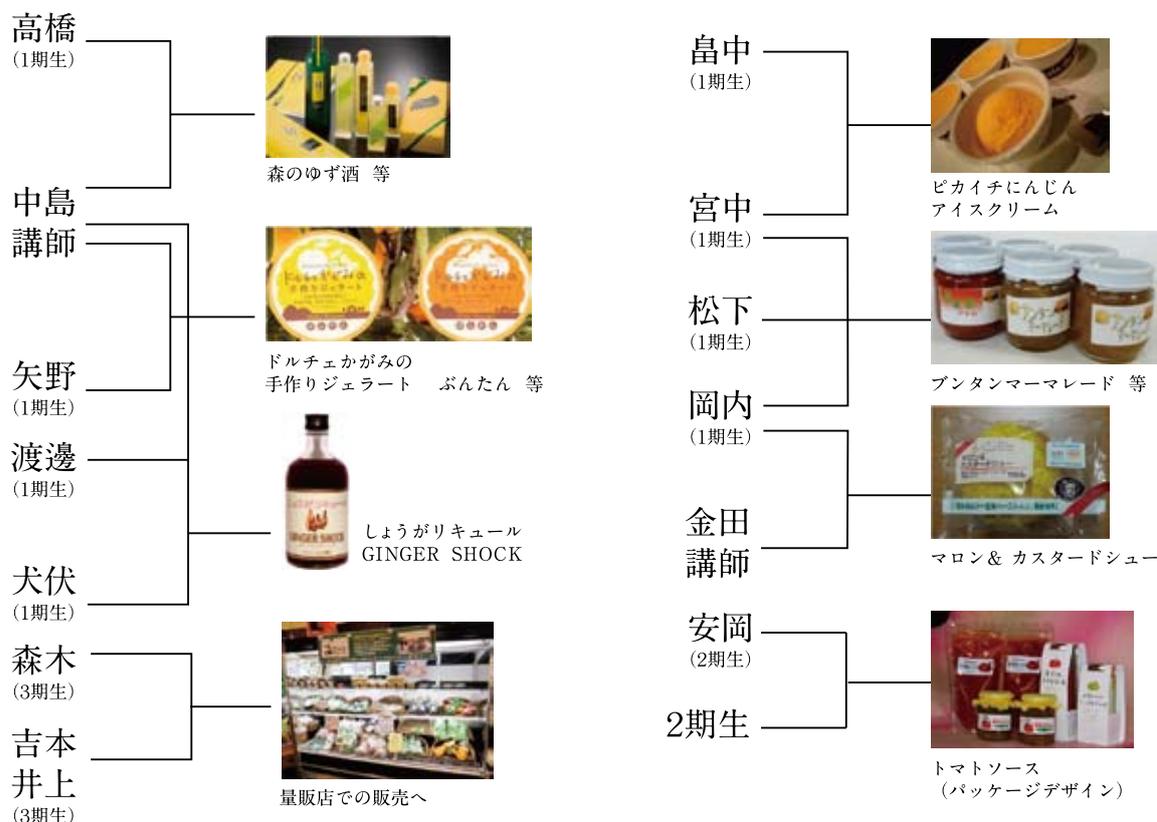
高知県産のグアバ葉を使った野草茶。西川(3期生)が受講の成果を活かして開発。

シカ肉加工品

個体数調整により地元で捕獲されたシカ肉の加工品。西村(3期生)が開発して、H23年土佐の食1グランプリ受賞。



●●● 土佐FBC受講生のコラボレーション ●●●



土佐FBCのこれから

文部科学省がおこなった土佐FBCの中間評価では、目標を上回る修了生の輩出、新商品の開発、連携自治体から県全域に拡大したことなどをあげ、最高評価のS評価を得た。

土佐FBCは、中間評価で指摘された地域の産業従事者がより多く受講できる仕組みや受講者のレベルに合わせたプログラムの改善などの課題に取り組んできた。そして平成24年度の事後評価においても最高評価のS評価を得た。

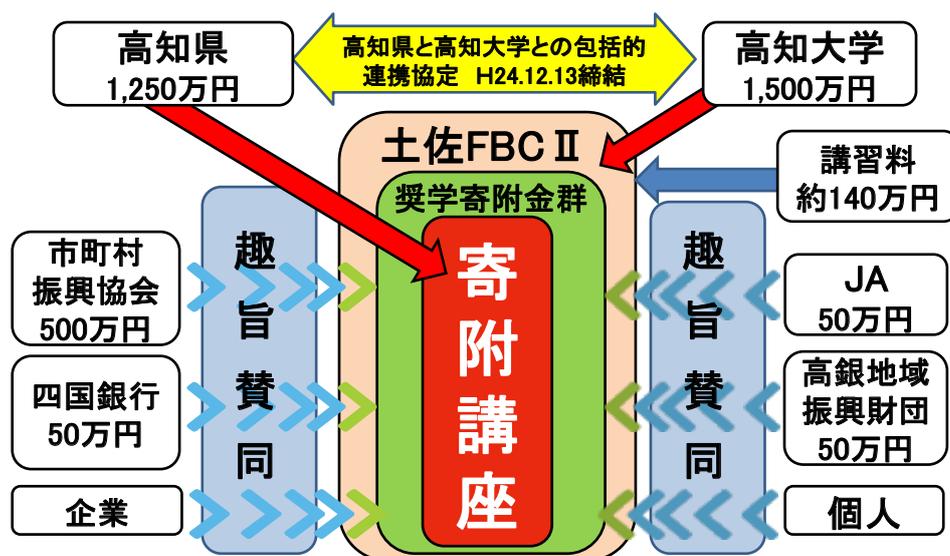
平成22年度からはじまった高知大学第二期中期目標に、土佐FBCを継続する新たなプログラム「土佐FBCII」をスタートさせることが明記され、土佐FBCII検討委員会が立ち上がった。また、平成23年度には高知県が推進する「第2期高知県産業振興計画」(平成24年度～27年度)において、産業人材育成プログラムの専門知識・技術を学ぶ拠点として土佐FBCが位置づけられ、両者の連携が一層深まった。

さらに平成24年度には、あらたに地域の銀行や企業、JAを加え、土佐FBCIIの実施に向けて、予算や運営体制、カリキュラム、受講料など具体的な内容について検討をおこなった。その結果、高知大学が実施主体となり、高知県の寄附講座として「高知県の食品産業の中核を担う専門人材及び高知県の食品産業の裾野を広げる基礎人材の育成」を目的に継続が決まった。

具体的には土佐FBCIIの運営のために、大学からの出資、受講料収入、各機関からの寄附を加えた約3500万円を確保し、事務局として「企画運営室」を設けることになった。(図9)

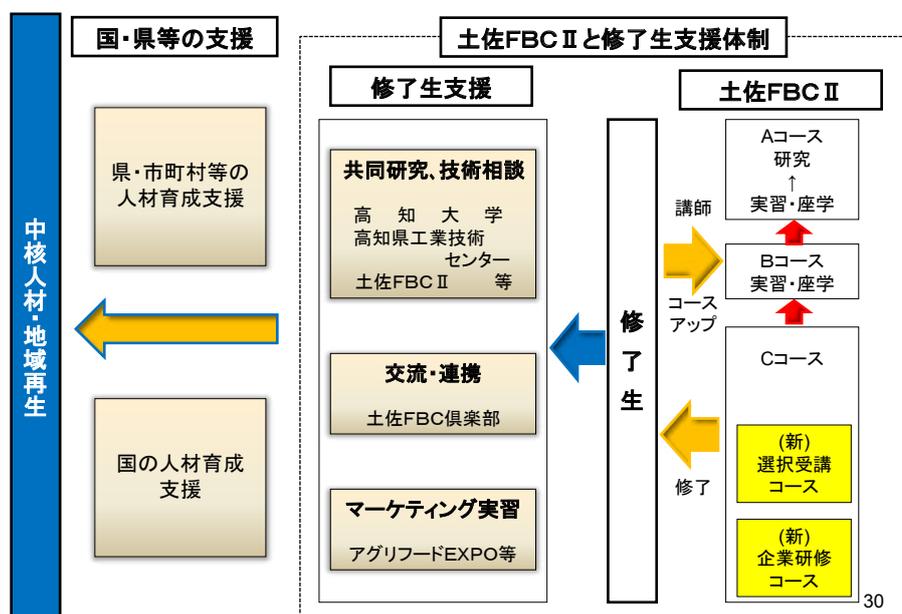
カリキュラムは、これまでの3つのコースに加え、新たに選択受講コース(年間受講時間80時間以下)、企業研修コース(年間受講時間40時間以下)を設け、5年間で215名の人材を育成することを目標としている。(図10)

継続・発展体制(土佐FBC II) [図9]



平成25年度予算総額: 約3,540万円

土佐FBC 修了生の支援 [図10]



おわりに

高知大学が自治体や企業を巻き込み取り組んできた土佐FBCの5年間は、食品産業経営者、従事者、農業従事者など受講生や企業だけではなく、連携する自治体や団体、ひいては高知県にとって大きな一歩

だった。これから5年間、さらに食品産業を支える人材を輩出することで、高知大学は産業振興、雇用創出などの課題解決に挑戦し、高知県の産業振興ビジョンの進展にも大きく貢献することを目指している。

事業報告

地域連携・再生部門

産学官連携部門

知的財産部門

国際連携部門

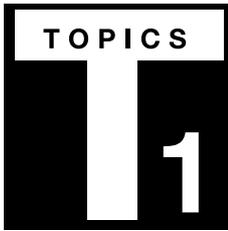
地域連携・再生部門

● 活動報告

平成 24 年

4月5日	大学訪問（香川県立高松東高等学校）		
4月10日	★高知大学オープン・クラス（授業公開）第1学期開始		
5月1日	大学訪問（高知県立中芸高等学校）		
5月7日	第1回土佐FBC II実施準備委員会	10月25日	大学の公開講座「土佐のさきがけ＝衣食住に役立つ発酵のお話！～ヒトの暮らしを醸（かも）し続ける微生物の役割～」第3回
5月12日	第1回カツオセミナー in 高知	10月29日	大学の公開講座「土佐のさきがけ＝衣食住に役立つ発酵のお話！～ヒトの暮らしを醸（かも）し続ける微生物の役割～」第4回
5月15日	第1回生涯学習企画会議		
5月18日	高知大学・芸西村第1回連携協議会	10月31日	大学訪問（高知中学校）
5月23日	高知大学・室戸市連携事業「変形性膝関節症予防・改善のための水中運動プログラム」事前測定会	11月1日	大学訪問（高知県立高知追手前高等学校）
		11月2日	秋の公開講座「書道入門」第1回
6月5日	第9回高知大学・高知市コーディネーター会議	11月5日	秋の公開講座「日本画を描く」第1回
6月7日	平成24年度全国生涯学習研究交流会（第1日）	11月7日	出前公開講座（梛原町）第4回：「高知県における再生可能エネルギーの未来」
6月8日	平成24年度全国生涯学習研究交流会（第2日）		秋の公開講座「実践中国語」第1回
6月14日	大学訪問（高知県立春野高等学校）	11月8日	大学訪問（高知県立嶺北高等学校）
6月20日	出前公開講座（芸西村）第1回：「早寝、早起き、朝ごはんは3つのお得！」を科学する	11月9日	秋の公開講座「書道入門」第2回
6月21日	出前公開講座（土佐町）第1回：「子どもの生活教育と食育に期待することー家庭・学校・地域の連携ー」	11月12日	秋の公開講座「日本画を描く」第2回
6月27日	出前公開講座（芸西村）第2回：「キャッシュレス社会におけるお金の付き合い方」	11月14日	秋の公開講座「実践中国語」第2回
		11月16日	秋の公開講座「書道入門」第3回
6月28日	出前公開講座（土佐町）第2回：「高知県の水産業…カツオ学会の発足」第2回土佐FBC II実施準備委員会	11月19日	秋の公開講座「日本画を描く」第3回
7月4日	出前公開講座（芸西村）第3回：「なぜみんなで食べると楽しいのか」	11月21日	秋の公開講座「実践中国語」第3回
7月5日	出前公開講座（土佐町）第3回：「平和学への招待」	11月22日	秋の公開講座「運動初心者大歓迎！ 中高年のウエストシェイプ」第1回
7月11日	大学訪問（高知県立室戸高等学校）	11月23日	大学訪問（香川県立高松西高等学校）
7月12日	出前公開講座（土佐町）第4回：「高知県における再生可能エネルギーの未来」	11月24日	秋の公開講座「書道入門」第4回
	大学訪問（高知高等学校）	11月24日	秋の公開講座：高知大学・高知市共催（自然編）第1回「高知市地域の地質資源」
7月18日	出前公開講座（芸西村）第4回：「発達段階に応じたスポーツ活動を考える」		秋の公開講座：高知大学・高知市共催（社会編）第1回「防災×地域活性化のまちづくりー田舎も都会もトクするしくみを考えようー」
7月19日	安田町との連携事業打合せ	11月26日	秋の公開講座「日本画を描く」第4回
7月25日	出前公開講座（芸西村）第5回：「子どもとスポーツ ～基本と自立～」		秋の公開講座：高知大学・高知市共催（社会編）第2回「新しいグリーンツーリズムへの挑戦ー一鏡の良さを活かしてー」
7月26日	出前公開講座（土佐町）第5回：「大地の動きがもたらす土佐町の災害と恵み」		秋の公開講座：高知大学・高知市共催（自然編）第2回「南海地震と斜面防災」
8月1日	大学訪問（岡山県立総社南高等学校）	11月27日	秋の公開講座：高知大学・高知市共催（自然編）第3回「津波から命を守る四つの基本」
8月7日	★高知大学オープン・クラス（授業公開）第1学期終了		秋の公開講座：高知大学・高知市共催（社会編）第3回「高知市の産業と若者の雇用」
8月24日	出前公開講座（大豊町）第1回：「中山間地域の防災上の課題」	11月28日	大学訪問（高知県立大方高等学校）
	第3回土佐FBC II実施準備委員会		出前公開講座（梛原町）第5回：「「グローバル人材を考える」ー世界をどう観るのか？ー」
8月31日	出前公開講座（大豊町）第2回：「親がぼけたらどうするか 認知症の早期発見と地域ケア」		秋の公開講座「実践中国語」第4回
9月5日	出前公開講座（梛原町）第1回：「対人関係を円滑にするためのコミュニケーション技術～感情に焦点を当てたかわり方～」	11月29日	秋の公開講座「運動初心者大歓迎！ 中高年のウエストシェイプ」第2回
9月6日	出前公開講座（中土佐町）第1回：「楽に治そう 「がん」」	11月30日	秋の公開講座「書道入門」第5回
9月7日	出前公開講座（大豊町）第3回：「高知県の水産業…カツオ学会の発足」		第5回土佐FBC II実施準備委員会
9月12日	出前公開講座（梛原町）第2回：「対人関係を円滑にするためのコミュニケーション技術～感情に焦点を当てたかわり方～」	12月2日	秋の公開講座「バラタクソノミスト養成講座ー自然の記録を残す人をつくる」第1回
9月13日	出前公開講座（中土佐町）第2回：「楽に治そう 「がん」」	12月3日	秋の公開講座「日本画を描く」第5回
9月14日	出前公開講座（大豊町）第4回：「健康長寿をおくるための秘訣 ～ロコモ体操を実践して元気で長生きしよう～」	12月5日	秋の公開講座「実践中国語」第5回
9月18日	高知大学・安田町第2回連携協議会	12月6日	秋の公開講座「運動初心者大歓迎！ 中高年のウエストシェイプ」第3回
9月20日	出前公開講座（中土佐町）第3回：「東日本大震災の教訓と南海地震への備え」		高知大学・四国銀行連携会議
9月21日	出前公開講座（大豊町）第5回：「近代土佐の国際性」	12月13日	秋の公開講座「運動初心者大歓迎！ 中高年のウエストシェイプ」第4回
9月24日	第4回土佐FBC II実施準備委員会	12月20日	秋の公開講座「運動初心者大歓迎！ 中高年のウエストシェイプ」第5回
9月26日	安田町第1回農業振興セミナー		
10月2日	★高知大学オープン・クラス（授業公開）第2学期開始		
10月4日	出前公開講座（梛原町）第3回：「メタボ対策とロコモ対策 両方そろって元気で長生き」		
	出前公開講座（中土佐町）第4回：「「命と平和」を考える」	1月14日	秋の公開講座「バラタクソノミスト養成講座ー自然の記録を残す人をつくる」第2回
	大学訪問（高知県立宿毛高等学校）	1月27日	秋の公開講座「バラタクソノミスト養成講座ー自然の記録を残す人をつくる」第3回
10月5日	秋の公開講座「土佐のさきがけ＝衣食住に役立つ発酵のお話！～ヒトの暮らしを醸（かも）し続ける微生物の役割～」第1回	2月7日	★高知大学オープン・クラス（授業公開）第2学期終了
10月6日	カツオフォーラム in 宮古島		安田町第2回農業振興セミナー
10月10日	大学訪問（新田高等学校）	2月10日	秋の公開講座「バラタクソノミスト養成講座ー自然の記録を残す人をつくる」第4回
10月11日	出前公開講座（中土佐町）第5回：「大野見地域の防災上の課題」		第6回土佐FBC II実施準備委員会
	秋の公開講座「土佐のさきがけ＝衣食住に役立つ発酵のお話！～ヒトの暮らしを醸（かも）し続ける微生物の役割～」第2回	3月13日	高知大学・安田町連携協定締結
10月18日	第34回全国国立大学生生涯学習センター研究協議会（第1日）	3月25日	安田町第3回農業振興セミナー
10月19日	第34回全国国立大学生生涯学習センター研究協議会（第2日）	3月26日	大学訪問（香川県立高松東高等学校）

平成 25 年



高知大学と自治体等との連携事業

高知大学は、県内自治体との連携協定等に基づき、各自治体を中心とした以下の連携事業等を実施した。

- 【高知県】 高知県食品産業研究会、高知県食料産業クラスター協議会、高知県産学官連携会議、高知県産業振興計画フォローアップ委員会
- 【高知市】 高知市総合調査、高知市総合調査を活用した公開講座、高知市総合調査を活用した小学生用補助教材作成
- 【室戸市】 健康増進事業（シレスト室戸水中運動プログラム、ロコトレ体操）
- 【四万十市】 天然スジアオノリの生産量アップの実証実験事業、天然アユを守る取り組み
- 【香南市】 ヒラメ中間育成施設の活用
- 【安田町】 人材育成事業「農業振興セミナー」
- 【芸西村】 土着天敵昆虫の普及活動、健康増進事業（ロコトレ体操）、出前公開講座
- 【大豊町】 基石茶新需要創造協議会、ブルーベリープロジェクト、出前公開講座
- 【黒潮町】 日本カツオ学会（カツオフォーラム in 宮古島、カツオセミナー in 高知）
- 【土佐町】 出前公開講座
- 【中土佐町】 出前公開講座
- 【梶原町】 出前公開講座

○第2期 土佐フードビジネスクリエーター人材創出

高知大学が県下自治体と共に取り組む食品産業人材育成事業「土佐フードビジネスクリエーター（FBC）人材創出」（詳細は産学官連携部門40頁に記載）について、文部科学省からの補助が終了する平成25年度以降の継続に向けて、関係者が協議する「土佐FBC II実施準備委員会」を立ち上げ、平成24年度に計6回開催した。その結果、平成25年度以降は高知県からの寄附講座として高知大学内に設置すること、必要経費は高知県をはじめとした地域からの寄附金及び受講生からの授業料により賄うことが決定され、第2期土佐FBCの開設に向けた体制整備を行った。



○安田町と連携事業に関する協定書を締結

高知大学と安田町は平成25年3月25日、それぞれが構築してきた知識及び経験を提供し、相互の連携の下、具体的かつ実践的な活動を図り、地域の活性化と振興に寄与するため、連携協力に関する協定を締結した。本学が県内の市町村と連携協定を結ぶのは12例目となる。

同日、高知大学において、脇口学長と有岡町長ら関係者の出席のもと協定書の調印式が行われた。本協定により本学と安田町は、連携協議会を設置し次の連携事業を行う。

- (1) 高知大学の教育及び研究に関すること
- (2) 高知大学に在学する学生の地域学習及び研究機会の拡大に関すること

- (3) 安田町の計画等に関すること
- (4) 安田町の施策等に関すること
- (5) 農林水産業及び地域振興に関すること
- (6) その他目的を達成するために必要な事項



○日本カツオ学会活動

平成 23 年 1 月に黒潮町と高知大学との連携により設立された日本カツオ学会は、地域・領域・学問・立場など様々なレベルを超えて、カツオの価値を問い直すことを目指している。その活動の一環として、平成 24 年度は以下の活動を行った。

・第 1 回カツオセミナー in 高知

カツオに関する学術的な研究・調査を発表する場として、「カツオセミナー in 高知」を開催した。研究者や水産関係者、食品産業従事者等、約 80 名が参加し活発な意見交換を行った。

日時 平成 24 年 5 月 12 日 (土)

場所 高知大学朝倉キャンパス メディアホール

基調講演 「食品としてのカツオ節の未来を考える」

東京海洋大学大学院 教授 和田 俊氏

一般講演 「高知県黒潮町の日戻りカツオに関する調査
－抗疲労物質含量とその効果について－」

高知大学農学部 准教授 島村 智子氏

「カツオ不漁の背景」

高知新聞 記者 福田 仁氏

「カツオ一本釣りまき餌カタクチイワシの養殖に向けた取り組み」

愛媛大学南予水産研究センター教授 松原 孝博氏

企業講演 「かび付けで変化するかつお節のだし感」

マルトモ株式会社 土居 幹治氏

「かつお節に含まれるイノシン酸について」

ヤマキ株式会社かつお節・だし研究所 稲田 明宏氏

「太平洋沿岸カツオ標識放流調査－日本近海への来遊特性の解明－」

味の素株式会社 杉本 信幸氏



・2012 カツオフォーラム in 宮古島

第 3 回目のフォーラムとして宮古島市伊良部島において、カツオ漁の価値を見直すとともに地域活性化へ向けた取り組みが議論され、カツオ漁獲の低迷、後継者不足など現状を踏まえた上で加工、流通、販売などの意見が交わされた。またカツオ資源の保全など宮古島大会宣言も採択した。

日時 平成 24 年 10 月 6 日 (土) 13:30 ~ 17:30

場所 宮古島市伊良部公民館

基調講演 「沖縄のカツオの価値を問う」

沖縄大学 名誉教授 上田不二夫氏



パネルディスカッション

「離島におけるカツオ漁業のこれから」

～持続可能な展開に向けた地理的不利性の克服と人材確保～

コーディネーター	日本カツオ学会 副会長	受田 浩之 氏
パネリスト	沖縄大学客員教授	長崎 節夫 氏
	カツオ船「第5喜翁丸」船長	漢那 一浩 氏
	本部漁協組合長	平安山良修 氏
	株式会社FBT プラニング代表取締役	久塚 智明 氏
	株式会社かわまん商店代表取締役	川満 清隆 氏

特別講演 「カツオ万歳」～カツオ漁業を舞台にしたふるさと物語～

前宮古島市教育長	川上 哲也 氏
----------	---------

○高知市との小学生用補助教材作成

高知大学と高知市との連携において、高知市の自然から社会に至るまで、あらゆる要素を網羅した「高知市総合調査」を平成19～21年度に実施し、その調査結果の活用法の一つとして、高知市を担う子ども達に、地域の可能性を考える手掛かりとなる資料として、こども版高知市総合調査「見て 調べて 考えよう わたしたちの高知市」を作成した。教育学専攻の院生と高知市職員が平成23年度から取り組み、平成24年度に完成、平成25年度から市内小学校49校に設置されることとなった。



1 生涯学習活動の推進体制

平成24年度は、地域連携・再生部門の公開講座等の企画・立案、分析評価等について審議する生涯学習企画会議を1回開催した。主なトピックは次のとおりである。

第1回（平成24年5月15日開催）

○秋の公開講座は、昨年度に引き続き、第1群：一般教養・現代テーマ等【学内公募】、第2群：高知大学・高知市共催公開講座、第3群：「環境」人材育成を目的とする講座、第4群：「地域再生」人材育成を目的とする講座を実施することとされた。ただし、第4群については、不定期開催につき、広報ベースが異なることが確認された。

○出前公開講座及びオープン・クラスは、従前を踏襲することとされた。

○秋の公開講座及び出前公開講座の開講へ向けての進捗状況が報告された。

○平成23年度開催の第3回（平成24年2月23日開催）生涯学習企画会議において、継続審議とされた「公開講座のあり方」に対して、規則案を提示し審議が行われた。

○審議の結果、同規則案に対して、各学部長の意見を伺う必要性の提案があったため、改めて、規則に関する学部長アンケートを実施することとした。

国際・地域連携センター生涯学習企画会議内規

平成22年3月25日

国際・地域連携センター運営戦略室会議 裁定

（設置）

第1条 国際・地域連携センター地域連携・再生部門に国際・地域連携センター生涯学習企画会議（以下「生涯学習企画会議」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 生涯学習企画会議は、次の各号について審議する。

- (1) 国際・地域連携センターの所掌する生涯学習活動の企画・立案に関する事
- (2) 国際・地域連携センターの所掌する生涯学習活動の分析・評価に関する事
- (3) その他学内の生涯学習活動に資すること

（組織）

第3条 生涯学習企画会議の委員は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 国際・地域連携センター長
- (2) 国際・地域連携センター地域連携・再生部門長
- (3) 国際・地域連携センター運営戦略室会議委員 若干人
- (4) 国際・地域連携センター長が必要と認めた者

（座長）

第4条 生涯学習企画会議に座長を置き、地域連携・再生部門長をもって充てる。

- 2 座長は、必要の都度生涯学習企画会議を招集し、その議長となる。
- 3 座長に事故あるときは、座長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

（任期）

第5条 第3条第3号の委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（事務）

第6条 生涯学習企画会議の事務は、地域連携課地域連携・再生係において処理する。

（雑則）

第7条 この内規に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成23年7月12日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成23年7月12日から施行し、平成23年7月1日から適用する。

2 秋の公開講座

秋の公開講座は、次のとおり実施した。

①第1群：一般教養・現代テーマ等：7講座（学内公募）

高知大学 公開講座						
平成24年度 秋の公開講座（3講座群）						
1. 講座内容 ①公開講座（第1群：一般教養・現代テーマ等） ●受講料 5,200円～8,200円 高知大学学生センター						
講座名	講師	開講日	曜日	時間帯	備考	
グラフィックデザインを楽しむ	吉岡 一洋	10月19日～11月16日 (全5回)	金	夜間	募集人員10名	
書道入門	北川 修久	11月2日～11月30日 (全5回)	金	夜間	募集人員10名	
日本画を描く	野角 孝一	11月5日～12月3日 (全5回)	月	夜間	募集人員10名	
実践中国語	王永東	11月7日～12月5日 (全5回)	水	夜間	募集人員15名	
「運動初心者大歓迎！ 中高年のウェストシェイプ」	常行 泰子	11月22日～12月20日 (全5回)	水	昼間	募集人員20名	
高知大学テニスアカデミー	宮本 忠男 他	10月6日～12月22日 (全12回)	土	昼間	募集人員20名 受講対象者：小・中学生及びその保護者	
高知市内会場（イオンモール高知）						
講座名	講師	開講日	曜日	時間帯	備考	
土佐の先駆け＝衣食住に役立つ発酵のお話！ ～ヒトの暮らしを醸（かも）し続ける微生物の役割～	永田信治	10月5日～10月29日 (全4回)	月・木・金	夜間	募集人員30名	
②高知大学・高知市共催公開講座（第2群：高知を中心とした「地域の自然」及び「地域の社会」に関する講座「高知市総合調査」に 対し、高知大学による調査データをテーマとする講座が複数回開催される予定です。この講座は、2011年度から開催されています。この講座は、高知市広報誌「あかるいまち」11月号でもご案内する予定です。						
高知市内会場（緑地区、土佐山地区、豊野地区）						
講座名	講師	開講日	時間帯	備考		
【自然編】高知市地域の地質資源	中川 昌治	11月24日 (土)	14:00～14:50	土佐山地区会場：土佐山多摩地パーク交流館（伊予市内）		
【社会編】防災×地域活性化のまちづくり～田舎も都会もトクするしくみを考えよう～	大槻 知史		15:00～15:50			
【社会編】新しいグリーンツーリズムへの挑戦 一顧の良さを活かして	玉置 恵美子	11月26日 (月)	19:00～19:50	緑地区会場：緑地創造センター2階会議室		
【自然編】南海地震と斜面防災	原 忠		20:00～20:50			
【自然編】津波から命を守る四つの基本	岡村 真	11月27日 (火)	19:00～19:50	豊野地区会場：豊野公民館ホール		
【社会編】高知市の産業と若者の雇用	浜野 秀典		20:00～20:50			
③公開講座（第3群：「地域」に関する人材育成を目的とした「パラタクソノミスト（準分業者）養成講座」 高知大学学生センター ●受講料 9,200円						
講座名	講師	開講日	曜日	時間帯	備考	
自然の記録を残す人をつくる～生物種本作成講座（鳥類樹立資格講座）～	伊藤英二・伊藤美子	12月2日～2月10日 (全4回)	日	昼間(初回3h第2回以降6h)		

②高知大学・高知市共催公開講座：2講座（平成20年度～21年度に策定した「高知市総合調査」を教材とした講座）

③「環境」に関する人材育成を目途とした講座：1講座

○「環境」をテーマとした講座、「パラタクソノミスト養成講座 - 自然の記録を残す人をつくる -」を昨年度に引き続き開催した。

講座名	定員	受講者	備考
グラフィックデザインを楽しむ	(10)	—	中止
書道入門	10	9	
日本画を描く	10	6	
実践中国語	15	8	
「運動初心者大歓迎！ 中高年のウェストシェイプ」	20	7	
高知大学テニスアカデミー	(20)	—	中止
土佐の先駆け＝衣食住に役立つ発酵のお話！ ～ヒトの暮らしを醸（かも）し続ける微生物の役割～	30	8	
高知市総合調査（自然編）【高知大学・高知市共催公開講座】	(30)	Av9	無料講座 延人数 28 / 3回 = 9人
高知市総合調査（社会編）【高知大学・高知市共催公開講座】	(30)	Av10	無料講座 延人数 31 / 3回 = 10人
パラタクソノミスト養成講座	15	11	
合計 6【8】講座（参加率：49【43】%）	100 (60)	49 (19)	() 書きは、無料参加者数で外数

- *参考：平成 21 年度 13 講座（参加率 40.8%）
 :平成 22 年度 7 (9) 講座（参加率 29.5%（第 2 群を含む 45.8%））
 :平成 23 年度 4 (6) 講座（参加率 32.5%（第 2 群を含む 45%））

④「地域再生」に関する人材育成を目途とした講座：3 講座

○人材育成を目的に自治体において実施する公開講座を次のとおり開催した。

講座概要	
1	<p>安田町 名称：第 1 回 安田町農業振興セミナー 開催日：H 24 年 9 月 26 日（水）13 時 30 分から 15 時 00 分 場 所：安田町文化センター 講 師：① 高知大学教育研究部自然科学系農学部門 尾形 凡生 教授 「高知県への熱帯性くだもの導入を考える」</p>
2	<p>安田町 名称：第 2 回 安田町農業振興セミナー 開催日：H 25 年 2 月 7 日（木）13 時 30 分から 15 時 00 分 場 所：安田町文化センター 講 師：① 高知大学教育研究部自然科学系農学部門 安武 大輔 准教授 「光合成アップ&省エネのためのハウス環境管理を考える」</p>
3	<p>安田町 名称：第 3 回 安田町農業振興セミナー 開催日：H 25 年 3 月 25 日（月）13 時 30 分から 15 時 00 分 場 所：安田町文化センター 講 師：① 高知大学教育研究部自然科学系農学部門 荒川 良 教授 「施設園芸における土着天敵を利用した害虫防除」</p>

〈芸西村〉

平成24年度 高知大学公開講座
「自然と文化」のご案内

主 催 高知大学国際・地域連携センター・地域連携・再生部門
 共 催 芸西村教育委員会

○日 時 第1回 6月2日(水) 午後7:00~8:45
 第2回 6月7日(水) 午後7:00~8:30
 第3回 7月4日(水) 午後7:00~8:30
 第4回 7月18日(水) 午後7:00~8:30
 第5回 7月25日(水) 午後7:00~8:45

○場 所 芸西村生涯学習館 2階 学習室

○講座タイトルと講師

第1回 **「早寝、早起き、朝ごはんは3つのお得！」を科学する**
 高知大学 教育学部学校教育教員養成課程(理科教育コース) 教授 原田 哲夫

第2回 **「キャッシュレス社会におけるお金の付き合い方」**
 高知大学 教育学部学校教育教員養成課程(家庭科教育コース) 教授 小島 郷子

第3回 **「なぜみんな食べてると楽しいのか」**
 高知大学 人文学部 国際社会コミュニケーション学科 教授 丸井 一郎

第4回 **「発達段階に応じたスポーツ活動を考える」**
 高知大学 教育学部 学校教育教員養成課程(保健体育コース)、
 生涯教育課程(スポーツ科学コース) 教授 野地 麗樹

第5回 **「子どもとスポーツ ～基本と自立～」**
 高知大学 教育学部 学校教育教員養成課程(保健体育コース)、
 生涯教育課程(スポーツ科学コース) 教授 野地 麗樹

○講義人員 90人
 受講される方にはテキストを頒布し、3回以上出席された方には修了証書を授与します。

○お申し込み 平成24年5月23日(水)までに芸西村教育委員会
 (TEL.0887-33-2400)へお申し込みください。

○受講料 無料
 ○少しだけ、高知大学国際・地域連携センター、地域連携・再生部門では、いろいろな学習の場を提供しています。なんでも、お気軽にご相談下さい。
 お問い合わせ先 高知大学国際・地域連携センター・地域連携・再生部門
 TEL: 088-844-8454 FAX: 088-844-8556
 E-mail: kokaikoza@kochi-u.ac.jp
 ＊ホームページでもね URLは → <http://www.kochi-u.ac.jp/~wwwlife/index.html>

講座題目・講師一覧

月 日	時間	講座の内容と講師
	19:00 ～ 19:15	開 講 式
6月20日(水)	19:00 ～ 20:30	「早寝、早起き、朝ごはんは3つのお得！」を科学する 原田 哲夫 「早寝、早起き、朝ごはん」は言い古された言葉ですが、何か得な事があるのでしょうか。3つあります。「成長アップ」が期待。「美肌と老化防止」。本講座ではこれら3つの科学的根拠を紹介します。例えば、成長ホルモンはしっかりと取って適切な運動と睡眠が、睡眠で成長ホルモンがアップします。早寝で成長ホルモンの分泌量がアップし、民間療法は効果が期待できます。では、どうすれば朝活のスイッチが入れられるのでしょうか。それには、太陽光や朝陽を含めた光環境、食事(朝ご飯)、24時間型社会生活リズム(夜間の睡眠、TV視聴、パソコン、ゲーム等)などについて工夫する必要があります。根拠となる研究データを示しながら、具体的な方策をご紹介しましょう。
6月27日(水)	19:00 ～ 20:30	「キャッシュレス社会におけるお金の付き合い方」 小島 郷子 現金を使わずに口座振替やクレジットカードなどで代金の支払いができるようになった社会のことをキャッシュレス社会といいます。現金を持ち歩く必要がなくなり、振り込みはいつでもやりますという便利な反面、代金も払えずに口座が凍結する、着払いや多量請求などにかかるといった課題もあります。キャッシュレス社会でゆとりを持って暮らすためにはどんな知識やスキルが必要なのか、そのための子どもに対する金融教育は誰が担っているのかなど、お金に関する問題について子どもと考えるのが大切です。
7月4日(水)	19:00 ～ 20:30	「なぜみんな食べてると楽しいのか」 丸井 一郎 何の方でも、誰かから我々の祖先が進化してその過程で、進んで、育ち育ちの積み重ね、その過程から、自分たちがいる世界がある。その一つ一つは、コミュニケーションと料理(食生活)の両方(火のそばの家)で生まれた。人間は、食べ物をもち寄り、火で料理し、共に食べ、穏やかにコミュニケーションする者。我々のコミュニケーションが、これは(昔)は。後に生きたは共に食べること。健康、成長、そして日本人の文化の発展を考える。
7月18日(水)	19:00 ～ 20:30	「発達段階に応じたスポーツ活動を考える」 野地 麗樹 おとな(人間)は、生まれてから成長してゆく中で身体に変化していきます。からだの成長、いろいろな動きができるようになる。言葉も覚えておぼえできるようになる。発達を促して考えることができるようになる。成長を促すように、成長を促すように。また、これまでできてきたことがなくなる。以前より時間がかかるようになるなどの成長を促すような変化があります。こうした変化すべてが「発達」であることとなります。 スポーツには様々な種類があり、わたしたち自身に与える効果も、それぞれ異なります。講座では以上のことを踏まえ、それぞれの発達段階にどんなスポーツをどのように行えばよいのかを、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
7月25日(水)	19:00 ～ 20:30	「子どもとスポーツ ～基本と自立～」 野地 麗樹 高知大学サッカー部の監督は、35年になる。その間、様々な経験を通して学生スポーツの理想を求めた。 その指導のキーワードは、「基本、自立、個性、プライオリティ(優先順位)、フットボール、コミュニケーション」である。 ～ 神経系の発達が一番早い小学生の時期は、「ゴールデンエイジ」と呼ばれ、スキルを身につける最適な時期といえる。特に少年スポーツ指導者は、多くのスポーツ(運動)経験とスポーツを通して子どもたちに、「基本」を習得させ、そこに自立させるように指導することが大切である。 「基本」と「自立」は、スポーツだけでなく教育においても、特に重要なキーワードと考える。
	20:30 ～ 20:45	閉 講 式 (修了証書授与)

〈大豊町〉



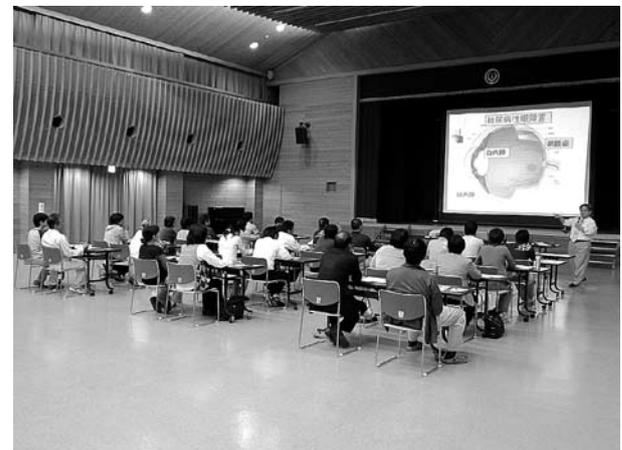
〈中土佐町〉



〈土佐町〉



〈梶原町〉



〈芸西村〉



自治体名	講座名	定員	延人数	備考
大豊町	中山間地域の防災上の課題	20	26	
	親がほけたらどうするか 認知症の早期発見と地域ケア	20	30	
	高知県の水産業…カツオ学会の発足	20	27	
	健康長寿をおくるための秘訣 ～ロコモ体操を実践して元気で長生きしよう～	20	24	
	近代土佐の国際性	20	24	
小計 5 講座 (参加率：131%)		100	131	
中土佐町	楽に治そう 「がん」	30	17	
	楽に治そう 「がん」	30	12	
	東日本大震災の教訓と南海地震への備え	30	23	
	「命と平和」を考える	30	7	
	大野見地域の防災上の課題	30	9	
小計 5 講座 (参加率：45%)		150	68	
土佐町	子どもの生活教育と食育に期待すること—家庭・学校・地域の連携—	30	20	
	高知県の水産業…カツオ学会の発足	30	21	
	「平和学への招待」 —開発途上国の紛争と平和の問題を考える—	30	27	
	高知県における再生可能エネルギーの未来	30	34	
	大地の動きがもたらす土佐町の災害と恵み	30	31	
小計 5 講座 (参加率：89%)		150	133	
梶原町	対人関係を円滑にするためのコミュニケーション技術～感情に焦点を当てたかかわり方～ PART1	30	19	
	対人関係を円滑にするためのコミュニケーション技術～感情に焦点を当てたかかわり方～ PART2	30	17	
	メタボ対策とロコモ対策 両方そろって元気で長生き	30	27	
	高知県における再生可能エネルギーの未来	30	11	
	「グローバル人材を考える」 —世界をどう観るのか?—	30	17	
小計 5 講座 (参加率：61%)		150	91	
芸西村	“早寝、早起き、朝ごはんは3つのお得!” を科学する	30	26	
	キャッシュレス社会におけるお金との付き合い方	30	17	
	なぜみんなで食べると楽しいのか	30	15	
	発達段階に応じたスポーツ活動を考える	30	26	
	子どもとスポーツ ～基本と自立～	30	24	
小計 5 講座 (参加率：72%)		150	108	
合計 25 講座 (参加率：76%)		700	531	

*参考 : 平成 24 年度 延受講者数 531 名、実受講者数 234 名、修了証書授与者数 89 名
 : 平成 23 年度 延受講者数 598 名、実受講者数 283 名、修了証書授与者数 88 名
 : 平成 22 年度 15 講座 (参加率 83%) 定員 450 名、延受講者数 373 名
 : 平成 21 年度 15 講座 (参加率 83%) 定員 500 名 延受講者数 417 名

4 オープンクラス

本学では、学生向けの授業を一般市民にも公開し、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、地域社会と大学との連携を深めることを目途としている。オープン・クラスとは、一般の学生とともに受講するコースで、演習・実習を除く、全ての講義形式の講座を開放している。基本的に、1講座の受講生は3名に限定している。授業を一般市民に開放してはいるが、講義の内容を一般向けに考慮することは行っていない。オープン・クラスの受講にあたっては、受講生として登録している。

授業はあくまでも本学の学生を対象にしたものであるため、授業内容が希望に沿うものであるかを試聴期間（通常第1回目の講義）を通じて申込者が判断する。その上で、担当教員の承認を得て受講を認めている。

○オープン・クラス（1学期）

受付期間：平成24年3月21日（水）～平成24年3月30日（金）

開講期間：平成24年4月10日（火）～平成24年8月7日（火）

開講講座数：42講座（共通教育16講座、専門教育26講座）受講者数：84名

共通教育

授業科目	学部	定員	受講者数
日本語の世界 - 五十音図をめぐって	人文学部	3名	8名
法を学ぶ	人文学部	3名	3名
市民社会論入門	人文学部	3名	2名
博覧会の歴史からみるイギリスと帝国	人文学部	3名	2名
市民生活と法	人文学部	3名	1名
経済を考える	人文学部	3名	1名
現代の企業行動	人文学部	3名	1名
リラクゼーションの哲学	教育学部	3名	3名
言語の探求	教育学部	3名	2名
情報科学概論Ⅱ	理学部	3名	1名
土佐の自然と農業	農学部	3名	2名
フードサイエンスの世界	農学部	3名	1名
生命の科学	農学部	3名	1名
里山・里川環境科学	農学部	3名	4名
森との共生を探る	黒潮圏	3名	1名
法学入門	人文学部	広報科目以外	2名

専門教育

授業科目	学部	定員	受講者数
アメリカ文学概論Ⅱ	人文学部	3名	3名
公共経済学	人文学部	3名	1名
国際マスメディア論	人文学部	3名	2名
倫理学概論	人文学部	3名	2名
市民社会論	人文学部	3名	4名
日本経済史	人文学部	3名	2名
発達障害等の理解と教育	教育学部	3名	2名
生徒指導B	教育学部	3名	1名
英語学特講	教育学部	3名	5名
教科専門演習Ⅰ	教育学部	3名	2名
哲学概論	教育学部	3名	2名
東洋史特講	教育学部	3名	2名
言語文化論	教育学部	3名	1名
風環境工学	理学部	3名	1名
生化学	理学部	3名	2名
火成作用	理学部	3名	2名
形態形成学【集中講義】	理学部	3名	1名
蔬菜園芸学	農学部	3名	4名
暖地園芸学概論	農学部	3名	2名
森林育成学	農学部	3名	1名
医療管理学・医療経済学	医学部	3名	1名
生理学【通年授業】	医学部	3名	1名
生化学【通年授業】	医学部	3名	2名
日本近現代史Ⅱ	人文学部	広報科目以外	1名
国際関係論	人文学部	広報科目以外	1名
日本史特講	教育学部	広報科目以外	1名

○オープン・クラス (2 学期)

受付期間：平成 24 年 9 月 10 日 (月) ～平成 24 年 9 月 21 日 (金)

開講期間：平成 24 年 10 月 2 日 (火) ～平成 25 年 2 月 7 日 (木)

開講講座数：38 講座 (共通教育 16 講座、専門教育 22 講座) 受講者数：69 名

共通教育

授業科目	学部	定員	受講者数
日本語学の基礎	人文学部	3 名	3 名
政治学概論	人文学部	3 名	1 名
政治を考える	人文学部	3 名	5 名
風景と空間の科学	人文学部	3 名	1 名
「史記」の中国古代史	人文学部	3 名	4 名
男女共同参画社会を考える	人文学部	3 名	1 名
哲学を学ぶ	教育学部	3 名	1 名
子どもの発達と生活	教育学部	3 名	3 名
リラクゼーションの哲学	教育学部	3 名	5 名
自然科学の歴史	理学部	3 名	1 名
地球と宇宙	理学部	3 名	2 名
体験する数学	理学部	3 名	1 名
魚と食と健康	農学部	3 名	1 名
自然環境と人間	農学部	3 名	2 名
ライフサイエンスの世界	農学部	3 名	1 名
歴史研究の基礎	人文学部	広報科目以外	1 名

専門教育

授業科目	学部	定員	受講者数
資本主義システム論	人文学部	3 名	1 名
南北アメリカ関係論	人文学部	3 名	2 名
経済法 I	人文学部	3 名	3 名
比較日本社会文化論	人文学部	3 名	2 名
専門演習 II	教育学部	3 名	2 名
英語学基礎演習	教育学部	3 名	6 名
国文学史	教育学部	3 名	1 名
東洋史演習	教育学部	3 名	2 名
無脊椎動物学	理学部	3 名	1 名
古生物学	理学部	3 名	1 名
災害科学	理学部	3 名	2 名
植物資源機能科学	農学部	3 名	1 名
養液栽培学	農学部	3 名	2 名
臨床薬理学	医学部	3 名	1 名
臨床医学総括講義・歯科口腔外科学	医学部	3 名	1 名
医学概論 II 整形外科学、リハビリテーション医学	医学部	3 名	1 名
言語意味論 II	人文学部	広報科目以外	1 名
認知発達心理学	人文学部	広報科目以外	2 名
考古学 II	人文学部	広報科目以外	1 名
日本史演習	教育学部	広報科目以外	1 名
発達障害等心理・生理・病理	教育学部	広報科目以外	1 名
文法論	教育学部	広報科目以外	1 名

5 高大連携事業

高等学校との連携 平成24年度 Cooperation with High Schools 2012

●サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP) 事業 Science Partnership Project

大学、研究機関、民間企業等と中学校、高等学校の連携により、児童生徒の科学技術・理科、数学に関する興味・関心と知的探究心等を一層高める機会を充実させるために実施する(独)科学技術振興機構が行う事業に参画しました。また SPP 事業で採択を受けた高等学校等に教員を派遣しました。

高等学校等	講座型学習活動(高知大学採択分)
本県高等学校	遺伝子組み換えマウスってなんだろう ～生殖工学体験学習～
#	大地誕生の現場に立つ
#	身近の便利を支える物理科学体験講座
高知県指定高等学校	合宿型学習活動(サイエンスキャンプ)
県内外高校生18名	海洋試料から探る地球環境～海洋コアと遺伝子資源～
県内外高校生15名	農業体験～自然を知る、食を知る、生物を知る～

●スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 事業 Super Science High School Program

科学技術、理科、数学教育を重点的に行う高等学校をスーパーサイエンスハイスクールとして指定し、高等学校及び中高一貫教育校における理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策についての研究を推進し、将来有為な科学技術系人材の育成に資するための(独)科学技術振興機構が行う事業に参画しました。

高知県指定高等学校	実施内容
高知小津高等学校	運営指導、科学体験ゼミ、サイエンスセミナー

①出前授業(実績)

月	派遣教員数	備考
24年4月	0	
5月	1	(5/27 高知県高等学校教育研究会理科部会)
6月	3	(6/8、6/13、6/20 高知県立高知南高等学校)
7月	1	(7/13 高知県立高知南高等学校)
8月	0 (1)	サマーサイエンスキャンプ (8/20～8/22)
9月	0	
10月	2	(10/26、10/27～28 高知県立高知小津高等学校)
11月	0	
12月	5	(12/5、12/6、12/8～9、12/15、12/16 高知県立高知小津高等学校)
25年1月	0	
2月	1	(2/14 高知県立高知小津高等学校)
3月		
合計	13 (1)	

平成23年度実績 39人 対前年△26人

※ () は SPP 事業のうち講座型学習活動以外のもの。

②大学訪問(実績)

月	件数	備考
24年4月	1	高松東高校 (4/5)
5月	1	中芸高校 (5/18)
6月	1	春野高校 (6/14)
7月	2	室戸高校 (7/11)、高知高校 (7/12)
8月	1	総社南高校 (8/1)
9月		
10月	4	宿毛高校 (10/4)、愛媛・新田高校 (10/10)、琴平高校 (10/25)、高知中学校 (10/31)
11月	4	高知追手前高校 (11/1)、嶺北高校 (11/8)、高松西高校 (11/22)、大方高校 (11/27)
12月		
25年1月		
2月		
3月	1	高松東高校 (3/26)
合計	15	

平成23年度実績 16件 対前年△1件

産学官連携部門

● 活動報告

平成 24 年

4月6日	四国地区五大学新技術説明会(東京JST別館ホール)
4月19日	土佐経済同友会産学官連携推進委員会(ホテル日航高知)
4月24日	高知県公営企業局再生可能エネルギー利活用事業費補助金審査委員会(高知会館)
4月25日	BIO tech 2012 国際バイオテクノロジー展/技術会議 (東京ビッグサイト)(27日まで)(出展)
5月8日	第3回産学連携学会実行委員会(国際・地域連携センター)
5月9日	第3回四国サイズの研究プラットフォーム実務者会議(高松市)
5月11日	尾崎知事と土佐FBC修了生の意見交換会(高知県庁)
5月11日	平成24年度土佐フードビジネスクリエーター人材創出開講式(高知大学)
5月17日	土佐経済同友会産学官連携推進委員会(ホテル日航高知)
5月31日	産学官連携会議 新エネルギー部会(高知県工業技術センター)
6月14日	産学連携学会第10回大会(高知大会) (高知県立県民文化ホール、高知会館)(15日まで)
6月16日	「土佐まるごと社中(TMS)」設立記念イベント(高知県立大学) 同時開催:第3回KNS in 四国/第2回国産HC定例会/土佐経済同友会定例会
6月21日	土佐経済同友会第6回産学官連携推進委員会(ホテル日航高知)
6月27日	第3回国産・化粧品開発展 アカデミックフォーラム (東京ビッグサイト)(29日まで)(出展)
7月11日	「土佐まるごと社中」世話人会立ち上げの会(高知県立大学)
7月21日	土佐FBC 轄多教室開講式(四万十市)
7月27日	第4回産学連携学会実行委員会(高知会館)
8月1日	第1回「対話と実行」座談会(土佐MBA受講者、土佐TMS関係者)(高知城ホール)
8月2日	第7回アグリフードEXPO東京(東京ビッグサイト)(3日まで)(土佐FBC出展)
8月24日	高知県産学官連携会議 新エネルギー部会(産業振興センター)
8月30日	第25回国立大学法人共同研究センター専任教員会議(山梨大学)(31日まで)
9月2日	四万十ふるさと再生プロジェクト「秋まき小麦品種の現地適用性の検討」(農学部)
9月7日	第6回産学官民コミュニティ全国大会inいわて ~INS20周年記念大会 (岩手大学)(8日まで)
9月12日	高知県産学官連携会議(高知会館) 「土佐まるごと社中」第1回世話人会(高知市)
9月14日	自然免疫賦活技術研究会(高松市)
9月27日	第11回産学官連携推進会議(東京国際フォーラム)(28日まで) イノベーション・ジャパン2012(東京国際フォーラム)(28日まで)(出展)
9月29日	土佐FBC 轄多教室修了式(四万十市)
10月2日	四国サイズの研究プラットフォーム「四国・住みたいまちに生きる」 検討ワーキング(高松市)
10月3日	土佐の日&INF全国大会(高知県民文化ホール)
10月4日	第2回おた研究・開発フェア(大田区産業プラザ)(5日まで)(出展)
10月5日	とっとり産業フェスティバル2012&鳥取環境ビジネス交流会2012 (鳥取県米子市)(6日まで)
10月9日	安芸市メガソーラー設置運営事業公募型プロポーザル審査委員会(安芸市)
10月10日	「土佐まるごと社中」第2回定例会 (土佐まるごとビジネスアカデミー合同交流会)(高知城ホール)
10月13日	「土佐まるごと社中」ときなら交流会(高知市ひろめ市場)
10月17日	四国サイズの研究プラットフォーム「四国・住みたいまちに生きる」 検討ワーキング(高松市)
10月18日	土佐経済同友会産学官連携推進委員会(ホテル日航高知)
10月26日	横浜全国産学官連携推進会議(東京工業大学)

10月28日	NPO 法人食と健康を学ぶ会第5回講演会 高知県の健康食材 ~柚子とβ-グルカンに関して~(高知共済会館)
10月30日	安芸市メガソーラー設置運営事業公募型プロポーザル審査委員会(安芸市)
10月31日	四国経済連合会グローバルチャレンジセミナー(高知大学)
11月1日	第24回国立大学法人共同研究センター長等会議(米沢市)(2日まで)
11月3日	高知大学物産キャンパス一日公開(物産キャンパス)(土佐FBC出展)
11月14日	アグリビジネス創出フェア2012(東京ビッグサイト)(16日まで)(出展) 「土佐まるごと社中」第2回世話人会(高知市)
11月16日	IT農業セミナー(高知城ホール)(土佐まるごと社中後援)
11月28日	四国食品健康フォーラム2012(高松市)
11月29日	全国イノベーションコーディネータフォーラム2012(高松市)(30日まで) ものづくり総合技術展(高知ちばさんセンター)(12月1日まで)(出展)
12月1日	日本地域経済学会2012年高知大会「地域公開シンポジウム」 「農」と「食」のつながりを通じた地域の再生へ(高知県立大学)
12月4日	産学連携学会秋季シンポジウム(東京都大手町)
12月5日	国際画像機器展2012(パシフィコ横浜)(特別講演)
12月6日	四国銀行・高知大学連携協議会(高知市四国銀行本店)
12月7日	産学連携学会関西・中四国支部第4回研究・事例発表会(岡山市) 「土佐まるごと社中」集団移住受入支援研究会(高知市)
12月12日	「土佐まるごと社中」第3回定例会(高知市)
12月21日	土佐経済同友会産学官連携推進委員会(ホテル日航高知)
12月26日	四国サイズの研究プラットフォーム「四国・住みたいまちに生きる」 検討ワーキング(高松市) 「土佐まるごと社中」集団移住受入支援研究会(高知市)

平成 25 年

1月9日	「土佐まるごと社中」第3回世話人会(高知市) 「地域を彩る食物語」(北見市)(土佐FBC参加)(14日まで)
1月19日	「土佐まるごと社中」ときなら交流会(高知市)
1月23日	「全国コーディネート活動ネットワーク」 平成24年度第2回国産四国地域会議(高知大学)(24日まで) 「土佐まるごと社中」集団移住受入支援研究会(高知市)
1月24日	高知県地域産業活性化協議会(オリエントホール高知)
1月25日	地域づくり研修~地域社会に役立つ「役人」づくり~ (高知共済会館)(土佐まるごと社中後援)
1月26日	松崎武彦高知エコ第4回講演会 環境問題とキウイモ2題(高知大学)(共催)
1月29日	土佐FBCシンポジウム 人と知のネットワークで土佐の食品産業を変える! ~土佐FBCの歩みとこれから~(高知会館)
2月2日	第40回KNS発足10周年記念定例会&第12回INS in 関西(大阪大学)
2月4日	土佐経済同友会 通常総会(ホテル日航高知)
2月6日	テクニカルショウヨコハマ2013(パシフィコ横浜)(8日まで)(出展)
2月13日	「土佐まるごと社中」第4回定例会(高知市)
2月15日	平成24年度大学-JST意見交換会(大阪市)
2月21日	第6回アグリフードEXPO大阪2013(大阪市)(22日まで)(土佐FBC出展)
2月27日	第7回産学官民コミュニティ全国大会実行委員会(高知市)
2月28日	「土佐まるごと社中」集団移住受入支援研究会(高知市)
3月13日	「土佐まるごと社中」第4回世話人会(高知市)
3月15日	土佐FBC修了式・成果発表会(高知大学)



高知大学と企業、研究機関等との連携事業

1. 土佐フードビジネスクリエーター人材創出

高知大学が、平成20年度から5年間の計画で取り組む「土佐フードビジネスクリエーター（FBC）人材創出」は、地域の食品産業の中核人材を養成するため、南国市・香美市・香南市の3自治体、3年目からは地域の強いニーズに基づき、対象エリアを高知県全域に拡大し、5年目の事業が実施された。

平成24年度は、コースアップ2名（Cコース→Aコース）と前年度留年の5名（Bコース2名、Cコース3名）を含め、養成期間2年間のAコース受講生4名、養成期間1年間のBコース受講生16名、養成期間1年間のCコース受講生15名が修了要件を満たし35名が修了した。（平成24年度新規受講生34名）



○開講式

日時 平成24年5月11日 14:00～14:30

場所 高知大学農学部3号棟 III-1-11

新規受講生34名（Aコース 5名、Bコース 15名、Cコース 14名）

○幡多教室の開催

高知県西部の幡多地域は農水産業が盛んな地域で、多くの食品関連事業所もあり、食料関連教育のニーズが存在するが、土佐FBCの講義が行われている高知大学物部キャンパスから片道3時間程度の遠距離にあり、土佐FBCとして地域のニーズを満たすことが難しい状況であることから、平成23年度から幡多地域において、通常のカリキュラムとは別に食品の基礎知識を学ぶことに主眼を置いた教育プログラム「土佐FBC幡多教室」を開講し、平成24年度は27名の受講生が参加、うち16名の修了生を輩出した。

○食品関係展示会、商談会等への出展

土佐FBCでは、修了生・受講生の展示商談会への参加や食品市場動向の把握、展示商品の情報収集、事業のPRなどを目的に食品関係展示会「アグリフードEXPO 東京2012」、「アグリフードEXPO 大阪2013」に参加した。

また、事業のPRや受講生が日ごろの授業の成果を生かし開発・生産した製品の販売、また製品化に向けての試食の実施などを目的に、土佐FBC地産地消店として「高知大学物部キャンパス一日公開」に参加した。

○土佐FBCシンポジウム

土佐FBC人材創出事業の5年間及び平成25年度から実施する「土佐FBC II」について、「人と知のネットワークで土佐の食品産業を変える！～土佐FBCの歩みとこれから～」と題してシンポジウムを開催した。

日時 平成25年1月29日 13:00～17:10

場所 高知会館2階「白鳳」

基調講演

ソフトブレイン・サービス(株)会長 小松 弘明

テーマ “成果の出る仕組み作りとは

～FBCの5年間の成果を振り返りながら～”



(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 食品機能研究領域長 山本(前田)万里
テーマ “農産物の機能性を活かした製品開発の応用例”
パネルディスカッション テーマ “高知県食品産業における人材育成のあり方”

○成果発表会

日時 平成 25 年 3 月 15 日 14:00～17:10

場所 高知大学メディアの森6階メディアホール

基調講演 (株)なかじま企画事務所 代表取締役社長 中島 和代

テーマ “地方発、商品開発の課題

～土佐 FBC の成果に見るネットワークの力～”

成果発表 “高知県産小麦の可能性”

“入河内大根のブランド化及び加工に向けた食品化学的特性の把握”

“土佐 FBC より広がる未来”

“地元食材×食品加工×人材 = ∞ (インフィニティ)”



○修了式

日時 平成 25 年 3 月 15 日 13:00～13:20

場所 高知大学メディアの森6階メディアホール

修了生 35 名

(A コース 4 名、B コース 16 名、C コース 15 名)



○土佐 F B C 倶楽部

・本事業に参集し、食品産業の活性化による地域再生という同じ「志」のもとに互いに机を並べた者同士のプラットフォームとして、相互の交流・連携を促進し、もって地域の発展に貢献することを目的とし、原則として、2か月に1回、第3金曜日に開催している。

・倶楽部では、修了生同士あるいは修了生と講師等との情報交換、修了生の試作品の評価などが行われ、いずれの回も活発な活動が続いている。(平成 24 年度は 6 回開催)

2. 土佐まるごと社中 (TMS)

平成 24 年度、高知県における産学官連携プラットフォームとして「土佐まるごと社中」が立ち上がり、地元産業界、自治体、大学、研究機関等多くの土佐に「志」の有る仲間が集っている。

産学官連携の拠点として意見交換できる場であり、地域の科学技術と産業の振興を図るとともに、地域活性化に寄与するものと考えられ、事務局を本学国際・地域連携センターが担っている。

今後、その活動の中から食品関係、情報通信関係等多様なプロジェクト、研究会を立ち上げ、新たな研究開発等の方策を地元企業と共に検討し共同研究へ発展させることにより、収入増加に繋げていきたい。

(設立趣旨)

「土佐に『志』の有る個人が集う『場』があり、そこに集った個人が意気投合する『仲間』を創って『情熱』を燃やす」『土佐まるごと社中 (TMS)』は、土佐における、そんな、産学官連携の拠点としての『サロン』を目指します。」また、地域の自立のために重要な産学官民の有機的なネットワークを形成するため、広範な交流を図り、土佐の科学技術と産業の振興を図るとともに地域活性化に寄与することを目的とします。



○「土佐まるごと社中（TMS）」設立記念イベント

日時 平成 24 年 6 月 16 日（土）

【第Ⅰ部】高知県立大学永国寺キャンパス 13：00～15：00

【第Ⅱ部】高知城ホール 15：15～17：00

○世話人会立ち上げの会

日時 平成 24 年 7 月 11 日（水） 18：00～20：00

場所 高知県立大学永国寺キャンパス

有志による懇親会 20：00～（はりまや天）

○定例会・世話人会

定例会（偶数月第 2 水曜日 18：00～） 4 回開催（講演会等の実施）

世話人会（奇数月第 2 水曜日 18：00～） 4 回開催（土佐まるごと社中の運営に関すること）



○研究会の設置

- ・学生と社会人とのコミュニケーションに関する研究会
- ・集団移住受入支援研究会
- ・新技術事業化研究会

3. 高知県産学官連携産業創出研究推進事業

本事業は県内に新事業・新産業を創出することによって本県の産業振興につなげるため、県内の産学官が連携し、大学等の研究シーズや企業ニーズに基づく実用化研究（実験室で試作品が完成するなど、3年以内に事業化研究に移行することなどが見込まれる研究）を行うことを目的としている。

平成 24 年度は、代表研究機関として 5 件、共同研究機関として 2 件の応募があり、代表研究機関として 1 件、共同研究機関として 1 件が採択された。

研 究 テ ー マ	研 究 機 関	研究開発費 (平成 24 年度)
動脈・静脈穿刺ナビゲーション装置の開発	☆高知大学 (有) 恵比寿電機	13,167 千円
生分解性抗菌ナノ粒子を不織布加工技術と融合させた医療分野への商品開発 および農業水産分野への新規抗菌技術開発	☆チカミルテック(株) 高知大学 横浜市立大学 高知工科大学	1,533 千円



イノベーション・ジャパン、 アグリビジネス創出フェア等の展示会へ出展

平成 24 年度は、以下の展示会等に本学の研究成果を出展し、民間企業等とのマッチングを行った。

【四国地区五大学新技術説明会】

平成 24 年 4 月 6 日 科学技術振興機構 J S T 東京別館ホール

- ・「各種生体分子の固定化に適した金ナノ粒子」複合領域科学部門 教授 渡辺 茂

【BIO tech 2012】

平成 24 年 4 月 25 日～ 27 日 東京ビッグサイト

- ・「すべての核酸塩基と塩基対を形成する人工塩基 PPT」複合領域科学部門 特任講師 片岡正典
- ・「新天然化合物を産生する海洋微生物の探索」複合領域科学部門 特任助教 dana Ulanova

【第 3 回国際・化粧品開発展】

平成 24 年 6 月 27 日～ 29 日 東京ビッグサイト

- ・「V A M 葉抽出物のアトピー性皮膚炎に対する治療効果」連携医学部門 講師 弘田量二

【イノベーション・ジャパン 2012 ー大学見本市ー】（同時開催）第 11 回産学官連携推進会議

平成 24 年 9 月 27 日～ 28 日 東京国際フォーラム

- ・「細胞膜上の集合分子を一括標識できる新規標識方（EMARS 法）」
基礎医学部門 教授 本家孝一

【第 2 回おおた研究・開発フェア】

平成 24 年 10 月 4 日～ 5 日 大田区産業プラザ PiO

- ・「冷凍食品の偽装防止管理技術に関する研究」農学部門 教授 河野俊夫

【アグリビジネス創出フェア 2012】

平成 24 年 11 月 14 日～ 16 日 東京ビッグサイト

- ・「植物資源由来の乳酸菌を利用した動物飼料の開発」生命環境医学部門 教授 永田信治
- ・「機能性植物資源を利用した発酵種による製パン法」生命環境医学部門 教授 永田信治
- ・「地場産品である黒酵母由来の多糖を用いた商品開発」生命環境医学部門 教授 永田信治
- ・「中小規模園芸ハウスを対象とした複合エコ環境制御技術の開発」農学部門 准教授 宮内樹代史
- ・「農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」農学部門 教授 藤原 拓
- ・「養液栽培用新培地」農学部門 准教授 西村安代

【ものづくり総合技術展】

平成 24 年 11 月 29 日～ 12 月 1 日 高知ちばさんセンター

- ・「優れた抗アレルギー効果と抗酸化力をもつ柚子由来の純国産油」
看護学部門 教授 溝渕俊二

（同時開催）平成 24 年 11 月 30 日

～高知県における産学官連携の取り組み事例発表～

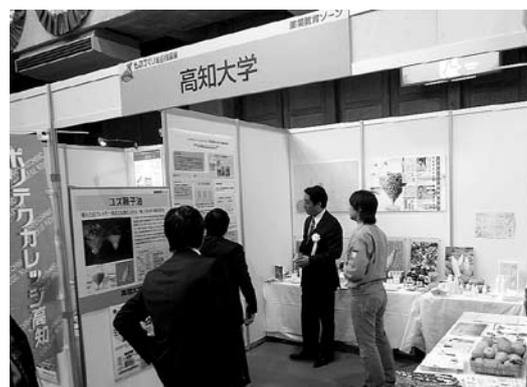
- ・「ウコン近縁種の機能性成分に着目した栽培・加工技術の開発」
農学部門 准教授 宮崎 彰

【国際画像機器展 2012】

平成 24 年 12 月 5 日～7 日 パシフィコ横浜

国際画像セミナー 特別招待講演 12 月 5 日

- ・「注射の悩み解決します：近赤外蛍光インプラントの可能性」
基礎医学部門 教授 佐藤隆幸



【テクニカルショウヨコハマ 2013】

平成 25 年 2 月 6 日～8 日 パシフィコ横浜

- ・「紙と界面重合反応を併用した新しいナノファイバー製造技術の確立」農学部門 准教授 市浦英明
- ・「冷凍食品の偽装防止管理技術に関する研究」農学部門 教授 河野俊夫



シンポジウム、フォーラム等

【産学連携学会 第10回大会】

日時 平成24年6月14日～15日

場所 高知県立県民文化ホール（6月14日9:30～12:30）

高知会館（6月14日14:00～16:30、6月15日9:30～17:00）

主催 NPO 法人産学連携学会

大会事務局（大会実行委員会） 高知大学国際・地域連携センター

平成24年6月14、15日に産学連携学会第10回大会が高知県高知市で開催された。本大会の一般発表の件数はオーラル119件、ポスター48件（高知県内の企業等による当日発表28件を含む）であり、これは佐賀市での第9回大会の発表件数の記録を更新して本学会の大会としては過去最高であった。シンポジウムや基調講演、オーガナイズドセッション等を含めると、全部で187件の研究成果の紹介や活動事例の紹介等が行われ、大変盛況であった。

今回の招待講演には、高知県知事の尾崎正直氏に「産学官連携による地域活性化」というテーマで講演を頂き、課題解決先進県を目指した産学官連携の取り組み等について紹介が行われた。引き続き、「土佐が考える地域活性化の方向性」と題したシンポジウムが開かれ、全国の大学や民間企業から445名の参加者があった。シンポジウムのコーディネータは本学の受田浩之副学長が務め、尾崎知事や高知県工業会の山本吾一会長、土佐経済同友会の野原強・副代表幹事、伊藤正実・産学連携学会長の4人がマイクを握った。また、コメンテータとして文部科学省の里見朋香・産業連携・地域支援課長、経済産業省の佐藤文一・大学連携推進課長、農林水産省の島田和彦・産学連携室長に登壇頂き、貴重なご発言とご助言を頂いた。高知県のものづくりの歴史と将来を見越した1次産業との連携のあり方、土佐経済同友会が取りまとめた高知県の10年ビジョン、高知県における産学官連携のプラットフォーム設立の動きや産学官協働の産業人材育成プログラム「土佐まるごとビジネスアカデミー（MBA）」など、地方の産学官連携による長期的な地域振興、地域活性化について熱心な議論が行われた。

今大会で発表された主なトピックは、地域連携、事業化事例、産学連携プロジェクト、農林水産、産学連携論、知的財産、国際産学連携、人材育成等であり、多岐にわたる。一般発表では、東日本大震災以降の復興支援に関する地域での取り組みや今後復興支援に繋がる産学連携事例、災害対策に関する事例、JST復興支援プログラム等が多く紹介された。震災復興は始まったばかりであり、今後更なる産学官連携による広域的な支援が必要であることを再確認した内容であった。



【「土佐まるごとビジネスアカデミー」オープニングセミナー】

日時 平成24年4月27日 14:00～17:40

場所 高知県立大学永国寺キャンパス

受田浩之センター長がパネルディスカッションのパネラーとして登壇

テーマ 「産学官連携による産業振興と人材育成」

【第32回早明浦湖水祭シンポジウム】

日時 平成24年8月4日 13:00～16:15

場所 土佐町農村環境改善センター

受田浩之センター長がパネルディスカッションのコーディネーターとして登壇

テーマ 「～今こそ問い直そう、「水で活きる」嶺北の価値を！」

【香南市まちづくりフォーラム】

日時 平成24年9月22日 13:00～15:30

場所 香我美市民館ホール

受田浩之センター長がパネルフォーラムのコーディネーターとして登壇

テーマ 「深めよう絆！ つながろう人と人との輪！」

【土佐の日 INF 全国大会】

日時 平成24年10月3日 13:00～17:40

場所 高知県立県民文化ホール

主催 「土佐の日」実行委員会

受田浩之センター長が「INF 第11回全国大会 in 土佐の日大討論会」のコーディネーターとして登壇

テーマ 「心の豊かさを実感できる幸福とは？」

【とっとり産業フェスティバル2012 & 鳥取環境ビジネス交流会2012】

日時 平成24年10月5日 10:00～17:00

場所 米子コンベンションセンタービッグシップ

主催 鳥取県・とっとり産業フェスティバル2012実行委員会

受田浩之センター長が基調講演者として登壇

テーマ 「高知県産学官連携・医農連携の挑戦～力強い食品産業の振興を目指して～」

【四国食品健康フォーラム2012】

日時 平成24年11月28日 13:10～16:50

場所 サンポートホール高松

主催 四国産業・技術振興センター、四国地域イノベーション創出協議会

受田浩之センター長がパネルディスカッションの司会として登壇

テーマ 「『健康支援食品』制度の実現に向けて」

【全国イノベーションコーディネータフォーラム2012】

日時 平成24年11月30日 9:00～12:15

場所 サンポートホール高松

主催 科学技術振興機構

石塚悟史副センター長が分科会にてモデレーターとして登壇

テーマ 「四国におけるコーディネート活動を考える」

※イノベーションコーディネータ表彰
科学技術振興機構理事長賞 石塚悟史



【産学連携学会 関西・中四国支部 第4回 研究・事例発表会】

日時 平成24年12月7日 11:00～17:30

場所 トマト銀行岡山駅前ビル

主催 産学連携学会 関西・中四国支部

石塚悟史副センター長がセッション3の座長として登壇

テーマ「連携の仕組み、ネットワーク」

吉用武史地域連携・再生部門長セッション4の事例発表者として登壇

テーマ「人材育成事業のフォローアップの在り方」

【「全国コーディネート活動ネットワーク」第2回中国四国地域会議】

日時 平成25年1月23日 13:00～17:30

場所 高知大学

主催 文部科学省・日本立地センター

受田浩之センター長が幹事大学代表挨拶として登壇

吉用武史地域連携・再生部門長が本学の産学官連携

活動紹介者として登壇



【アカデミアセミナー 2013 in 高知大学】

日時 平成25年1月26日 13:00～15:05

場所 高知大学物部キャンパス

世話人 高知大学総合科学系生命環境医学部門 教授 金 哲史

受田浩之センター長が講演者として登壇

テーマ「高知の食材で健康未来！」

【和歌山バイオサイエンスフォーラム】

日時 平成25年2月2日 13:00～17:00

場所 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛

受田浩之センター長が講師として登壇

テーマ「土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業」の目的、内容、効果、今後の展開

【食品の表示を考える意見交換会】

日時 平成25年2月20日 13:30～16:00

場所 高知市中央卸売市場

主催 農林水産省

石塚悟史副センター長がパネルディスカッションのコーディネーターとして登壇

テーマ「わかりやすい食品表示と食品表示の信頼性向上のための取組」

【本山町リハビリキッチンシンポジウム】

日時 平成25年3月17日 10:00～13:00

場所 本山町プラチナセンター

主催 リハビリキッチンモデル試行事業実施協議体

受田浩之センター長がパネルディスカッションのコーディネーターとして登壇

テーマ 「リハビリキッチンの成果報告 体験者の感想」

【碁石茶新需要創造協議会研修会】

日時 平成 25 年 3 月 26 日 13 : 00 ~ 17 : 30

場所 高知県工業技術センター

受田浩之センター長が協議会会長として登壇

テーマ「新事業創造への考察」



1 研究成果

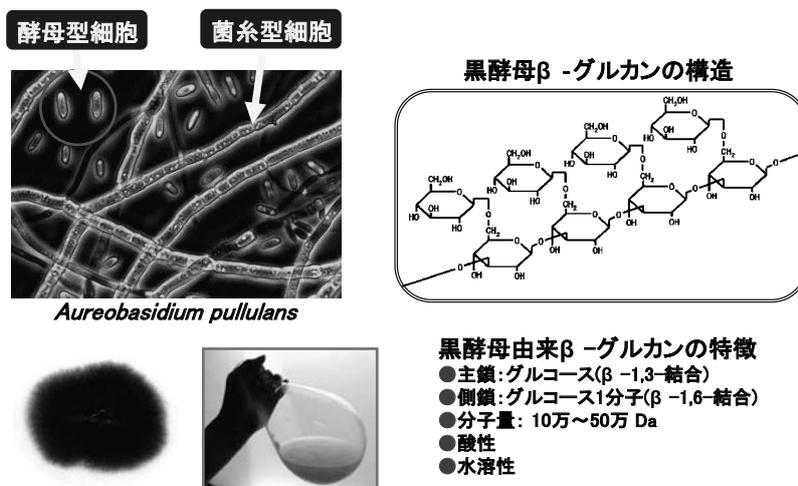
黒酵母 β - グルカンの機能性に関する研究

高知大学医学部 看護学科
臨床看護学 教授 溝渕俊二
特任助教 渡部嘉哉

はじめに

我々はこれまでの約10年間、黒酵母 β - グルカンの機能性に関する研究に携わってきた。黒酵母 β - グルカン (図1) は、*Aureobasidium pullulans* が産生する β -1,3-1,6- グルカンを主成分とする物質で、厚生労働省より既存食品添加物として認可されている。既存食品添加物の認可を受ける際に公的機関による変異原性試験・毒性試験が実施され、経口摂取する上での安全性が担保されている。我々は、黒酵母 β - グルカンの機能性解析を細胞レベルから着手し、マウスモデルでの検証、さらにはヒト介入試験と段階的に実施してきた。これまでに、黒酵母 β - グルカンの経口摂取により、ナチュラルキラー細胞 (NK 細胞) やマクロファージが活性化されること、また黒酵母 β - グルカンの腸管内での認識には、自然免疫で重要な役割を果たす Toll 様受容体-4 が関与していることを発表した。さらに、我々が見出した黒酵母 β - グルカンの機能性は免疫賦活効果に留まらず、血糖値の改善効果や腸管セロトニンの合成促進効果、腸管蠕動運動の促進等多岐にわたっている。今回は、紙面の都合上、平成21年6月より実施した免疫賦活効果に関するヒト介入試験の結果を中心に述べる。

図1



産官学連携による研究組織

ヒト介入試験実施にあたり、平成21年6月、高知大学と土佐市の連携協定に基づき「産・官・学」の連携による『黒酵母 β - グルカンの高齢者並びに疾病患者に対する有用性の検討』に関する共同研究契約を締結した。このプロジェクトには、【官】である土佐市、【学】である高知大学に加え、【産】からは県内企業3社が参加した。私がプロジェクトリーダーを務め、土佐市民病院副院長 (現院長) であり、本学医学部卒業生の田中 肇先生にサブリーダーの任を担っていただいた。治験開始に先駆け、平成21年6月、高知大学及び土佐市民病院で、ヒト介入試験の実施に向け倫理委員会の審査を受けた。高知大学では平成21年6月30日に開催された平成21年度第3回倫理委員会で審査を受け、同日付で治験開始が承認され、我々の研究がスタートした。

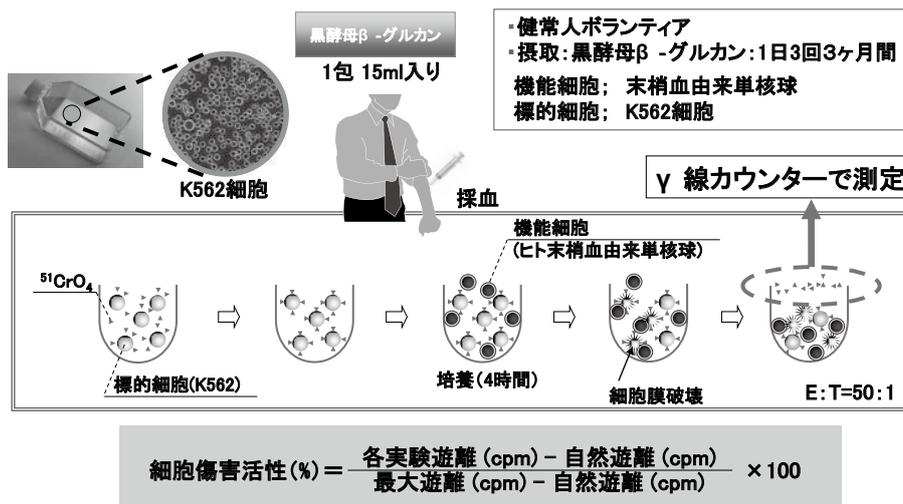
治験対象者および評価方法

被験者は、黒酵母 β - グルカンの経口摂取により恩恵を受けることが予想される、高齢者、担当患者とした。細胞性免疫の指標であるNK細胞活性は20歳をピークに、加齢に伴い低下することが知られている。よって、一般的に免疫力が低下する高齢者が黒酵母 β - グルカンを摂取することは、高齢者の健康維持のために意義があると考えた。

また、担がん患者は一般的に細胞性免疫が弱いことが知られているため、黒酵母β-グルカンによる細胞性免疫賦活は摂取者にとって有用であると考えた。

まず、被験者に、3ヶ月間、一日3回、黒酵母β-グルカンを摂取して頂いた。摂取に伴う効果は、細胞性免疫で重要な役割を担っている、NK細胞の活性化を指標として評価した。黒酵母β-グルカン摂取前及び摂取1ヶ月後、2ヶ月後、3ヶ月後、計4回採血を実施し、密度勾配遠心法を用いてNK細胞を豊富に含む単核球の分離を行った。得られた単核球を機能性細胞とし、予め⁵¹Crで放射線標識を行ったK562細胞（ヒトリンパ腫細胞株）を標的細胞として解析を行った。単核球とK562細胞を50/1の混合比で、5% CO₂、37℃条件下で4時間の共培養を行い、障害を受けたK562細胞から放出される培養上清中の放射線量をガンマ線カウンターで計測し、NK細胞活性値とした（図2）。

図2



高齢者の黒酵母β-グルカン摂取による効果

今回の試験では、高齢者の定義を70歳以上とした。被験者46名に対するNK細胞活性の平均値は、前値が35.5±3.25(±S.E.)%、1ヶ月後36.9±3.15%(p=0.388; VS前値)、2ヶ月後38.7±2.96%(p=0.052)、3ヶ月後42.6±3.34%(p=0.002)と、摂取期間に依存してNK細胞活性の上昇が認められた（図3a）。これまでに行った健康人でのNK細胞活性の推移と比較すると、高齢者ではNK細胞活性上昇が緩やかな傾向にあった。これは、高齢者は加齢とともに免疫系の反応性が低下しているため、NK細胞活性の上昇が緩やかであったと推察している。

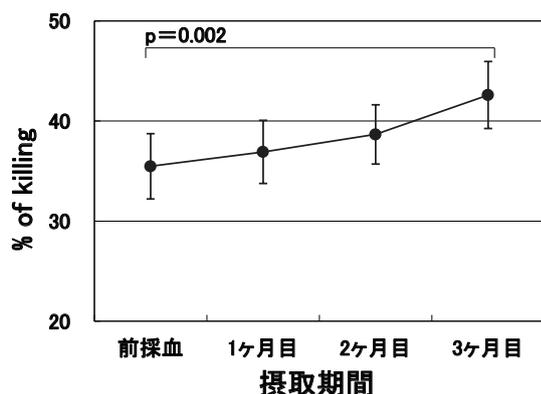
高齢者は若年者と比較して、一般的に免疫力が低下している。そのため感染症に罹患しやすく、罹患した場合には重篤化するリスクが高い。高齢者が罹患しやすい感染症には、インフルエンザや感染性胃腸炎（ノロウイルス、ロタウイルス）などが挙げられるが、これらの感染症には免疫力、特に細胞性免疫を賦活することで罹患率の低下、罹患した場合の予後の改善が期待される。黒酵母β-グルカンの経口摂取による細胞性免疫の活性化は、高齢者の感染症予防の一助となり得る可能性を有している。

担癌患者の黒酵母β-グルカン摂取による効果

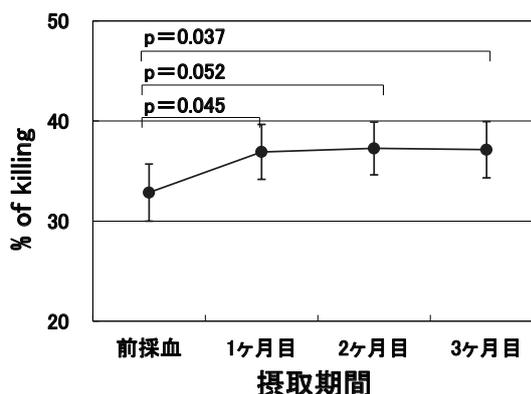
本研究における担がん患者の定義は、これまでにかん診断歴がある方とし、介入試験開始時のがんの有無は絶対条件とはしなかった。被験者35名に対するNK細胞活性の平均値は、前値が32.8±2.85(±S.E.)%、1ヶ月後36.9±2.75%(p=0.045; VS前値)、2ヶ月後37.3±2.63%(p=0.052)、3ヶ月後37.1±2.82%(p=0.037)と、摂取1ヶ月後目にはプラトーに達していた（図3b）。担がん患者は、細胞性免疫能が抑制あるいは低下していることが報告されているが、そのメカニズムについては未だ明確な解答が得られていない。近年、Helper T cellの機能分担つまり、Th1、Th2のアンバランスが細胞性免疫の低下に大きく関与していると言われていた。黒酵母β-グルカンの経口摂取に伴うNK細胞活性の上昇は、被験者の細胞性免疫が賦活していることを示唆している。以上のことから、担がん患者が黒酵母β-グルカンを経口摂取することは、担がん患者の免疫系をTh1つまり細胞性免疫が有意な状態に誘導できる可能性を有し、その結果、がん治療やがん再発予防の一助になり得る可能性が示唆される。

図3

a. 高齢者のNK細胞活性の推移



b. 担がん患者のNK細胞活性の推移



今後の展開

我々はこれまで、黒酵母β-グルカンの評価をNK細胞の活性化を指標に用いてきた。今後の課題は、黒酵母β-グルカン摂取によってNK細胞が活性化された結果、具体的に摂取者にどのようなメリットがあるかの証明である。細胞性免疫が活性化することで、インフルエンザなどの感染症予防の一助となることは仮説として容易に想定される。このことを証明するため、県内のある老人病院の御協力をいただきながら、1年以上の長期間での介入試験を実施する計画である。

また成果の一部を、平成24年2月に金沢で行われた『第28回日本静脈経腸栄養学会学術集会』で『黒酵母β-グルカン経口摂取による高齢者並びに担がん患者に対するNK活性への影響』という演題名で発表した。発表は今回のプロジェクトの参加企業の一つである(株)高南メディカルから我々の教室に研究員として派遣され、研究の中心的な役割を担った宮本美緒氏が研究グループの代表として行った。この発表内容が評価され、平成25年日本静脈経腸栄養学会フェロシップ賞受賞の荣誉に輝いた。受賞に伴い、平成26年2月27～28日に開催される、第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会で表彰式と受賞講演が行われる。また、2016年の国際静脈経腸栄養学会学術集会への投稿も義務付けられている。

学術的評価のみならず、商業ベースでの黒酵母β-グルカン含有商品の実用化も急速に進展している。機能性素材の開発にノウハウのある、在阪の製薬会社の協力を得ながら、黒酵母β-グルカンの弱点を克服した商品の開発が進んでいる。黒酵母β-グルカンの弱点とはその食味と独特な香りにある。さらに、常に安定した機能性を発揮させることも難しい点である。これらの点を、製薬会社の協力で克服し、改良品の完成後には、ヒト介入試験を実施する計画である。介入試験で効果が確認された段階で、高知県内企業から全国展開させる計画になっている。またすでに、完成品は県内のある私立病院で入院患者を対象として導入が内定している。さらに将来的には、前述の製薬会社が独自に技術を有する、黒酵母β-グルカンとは作用機序の異なる他の多糖類と併用することで、機能性をさらに発展させる計画が始まっている。この計画については、今年度から、細胞および動物レベルの基礎研究に着手している。

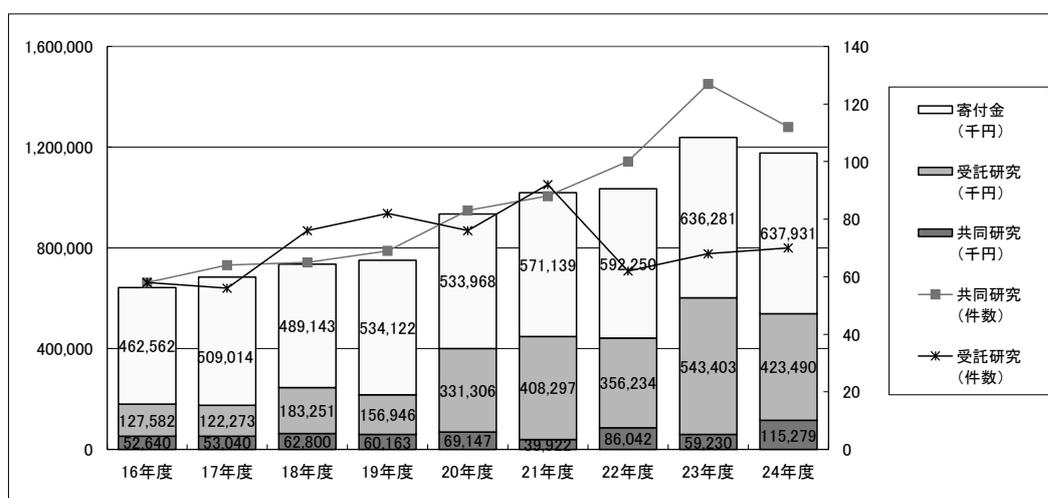
最後に

以上のように、我々は黒酵母β-グルカンの研究を行ってきた。我々の研究結果を、いくつかの県内外の企業が評価してくださり、黒酵母β-グルカン商品の上市も視野に入ってきた。黒酵母β-グルカンの含有食品群の完成で、摂取する人々の健康維持に貢献することは勿論、高知県発の新規地場産業として発展する可能性までもが現実となりつつある。10年前の黒酵母β-グルカン研究に着手したころには、現在の到達点は予想だにできなかった。ここまで来られたのは、我々の力だけではなく、研究に御協力頂いた土佐市民病院内科外来の小松郁子師長ら土佐市の方々、(株)高南メディカルの宮原五彦社長、岡田悟志氏、(株)ソフィの谷脇千穂氏ら、協力県内企業の方々の御尽力によるものが大きかったことを申し述べる。さらに、研究の初期段階から貴重な御助言を頂いた、本学国際・地域連携センター産学官連携部門長の石塚悟史准教授には感謝の念に堪えません。

2 産学官民連携件数等

	16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		計	
	金額	件数	金額	件数										
共同研究 (千円)	52,640	58	53,040	64	62,800	65	60,163	69	69,147	83	39,922	88	337,712	427
受託研究 (千円)	127,582	58	122,273	56	183,251	76	156,946	82	331,306	76	408,297	92	1,329,655	440
寄付金 (千円)	462,562	705	509,014	710	489,143	737	534,122	679	533,968	710	571,139	729	3,099,948	4,270

	22年度		23年度		24年度		計	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数
共同研究 (千円)	86,042	100	59,230	127	115,279	112	260,551	339
受託研究 (千円)	356,234	62	543,403	68	423,490	70	1,323,127	200
寄付金 (千円)	592,250	731	636,281	771	637,931	741	1,866,462	2,243



※JST育成研究は共同研究金額に含まない。
 平成17年度 1件 25,742,418円
 平成18年度 3件 104,296,727円
 平成19年度 5件 134,178,092円
 ※平成16年度より奨学寄付金から寄付金となる。
 ※平成19年度寄付金は医学部寄附講座(5年間)を含む。

・諸活動
 大学シーズと企業等ニーズとのマッチング
 共同研究等契約支援
 各省庁及び自治体・企業等の外部資金獲得事業
 知的財産の創出・活用支援
 シンポジウム、講演会等
 産学官連携関係イベント(シーズ出展等)
 産学官連携に関する調査及び研究
 産学官連携システム(組織化・共同体)の構築
 地域連携事業
 科学・技術相談
 事業化支援
 起業(大学発ベンチャー)支援

3 平成24年度 民間企業等との共同研究一覧 (112件)

	研究題目	大学研究者
1	排便の臭いのコントロールと便秘の緩和に関する研究 一食事療法(おなか活カタブレットとR-1)を取り入れた排便臭のコントロールおよび便秘緩和への取り組み	看護学部門 教授 吾妻 健 講師 野村 晴香
2	ソフィβ-グルカンの免疫賦活効果の作用機序の検討	看護学部門 教授 吾妻 健
3	機能性素材の有効利用に関する研究	看護学部門 教授 溝渕 俊二 医学部 特任助教 渡部 嘉哉
4	黒酵母βグルカンを用いた塗布剤の開発	看護学部門 教授 溝渕 俊二 医学部 特任助教 渡部 嘉哉
5	柚子の機能性についての研究	看護学部門 教授 溝渕 俊二 医学部 特任助教 渡部 嘉哉
6	機能性素材の安全性評価及び有効的な利用方法の検討	看護学部門 教授 溝渕 俊二 医学部 特任助教 渡部 義哉
7	HLA分子結合性ペプチドを用いた悪性腫瘍の免疫療法の開発	基礎医学部門 教授 宇高 恵子
8	抗がん剤による骨髄抑制に対する5-ALAの保護作用	基礎医学部門 准教授 津田 雅之
9	神経回路形成におけるプロトカドヘリンと線条体神経の役割	基礎医学部門 准教授 平野 伸二
10	海洋深層水より調整した高ミネラル飲料の継続飲用による腸内細菌叢・口腔内細菌叢および生体影響に関する研究	医学部先端医療学推進センター 名誉センター長 相良 祐輔 臨床医学部門 准教授 前田 長正
11	採血管準備管理システム新方法の研究	附属病院検査部 部長 杉浦 哲朗 技師長 小倉 克巳
12	医療器具等の研究	附属病院 病院長 杉浦 哲朗 看護部長 楠瀬 伴子 特任教授 宮井 千恵
13	開放規格高機能検体搬送システムの有用性に関する研究	附属病院検査部 部長 杉浦 哲朗 技師長 小倉 克巳
14	検体系検査統合システム構築に関する研究	附属病院検査部 部長 杉浦 哲朗 技師長 小倉 克巳
15	血糖測定用POCTの運用システムの構築に関する研究	附属病院検査部 部長 杉浦 哲朗 技師長 小倉 克巳
16	高知県産ショウガを利用した嚥下機能改善品の開発	附属病院薬剤部 教授 宮村 充彦
17	トロンボモジュリンの上皮増殖因子様構造を用いた血管内皮細胞保護薬の開発	臨床医学部門 講師 池添 隆之
18	泌尿器癌への5-ALA光線力学的診断/治療に用いる装置の開発	臨床医学部門 准教授 井上 啓史
19	泌尿器癌分野における、5-ALAを用いた医療技術に関する研究	臨床医学部門 准教授 井上 啓史
20	泌尿器癌への5-ALA光線力学的診断と治療効果の検討	臨床医学部門 准教授 井上 啓史
21	C型慢性肝炎に対するPEG-IFNα-2aを中心とした併用療法の治療効果とHCV遺伝子変異および鉄代謝の関係の検討	臨床医学部門 准教授 岩崎 信二
22	NASHの病態と鉄代謝に関する検討	臨床医学部門 講師 小野 正文
23	NAFLD/NASH進展に関わる遺伝子群の解析とその治療法への応用	臨床医学部門 教授 西原 利治 准教授 戸田 勝己
24	非アルコール性脂肪性肝炎血清診断マーカーの研究	臨床医学部門 教授 西原 利治
25	The role of pentraxin3 in psoriasis	臨床医学部門 教授 佐野 栄紀 助教 中島 英貴

	研究題目	大学研究者
26	細径内視鏡による尿路の観察	臨床医学部門 教授 執印 太郎 准教授 井上 啓史 学内講師 久米 基彦
27	腫瘍マーカー、ラミニン関連因子の評価研究	臨床医学部門 教授 執印 太郎 講師 鎌田 雅行
28	分子標的薬、ヨード造影剤による腎障害への5-ALAの効果	臨床医学部門 教授 執印 太郎 准教授 井上 啓史 教授 寺田 典生 連携医学部門 教授 降幡 睦夫 准教授 津田 雅之
29	ELISAおよび尿検査試験紙による尿路癌の新たな検査法の開発	臨床医学部門 教授 執印 太郎
30	食品素材が健康に与える効果の確認	臨床医学部門 講師 竹内 啓晃 教授 杉浦 哲朗
31	ピロリ菌由来のタンパクの血小板の活性化機構の研究	臨床医学部門 講師 竹内 啓晃
32	膀胱癌化学療法剤治療におけるBCAA併用での血中アミノグラム解析	臨床医学部門 教授 花崎 和弘
33	電解還元水飲用による周術期の血糖及び感染制御への影響に関する研究	臨床医学部門 教授 花崎 和弘 講師 岡林 雄大 助教 前田 広道
34	大血管への採血アプローチによる血糖測定系の確立	臨床医学部門 教授 花崎 和弘 助教 北川 博之 准教授 山下 孝一 助教 矢田部 智昭 医学部附属病院 外科医員 宗景 匡哉
35	アレルギー性結膜炎に対するOTC点眼剤の作用に関する研究	臨床医学部門 教授 福島 敦樹
36	歯科治療材料の生物学的毒性に対する検討	臨床医学部門 教授 山本 哲也
37	歯科治療材料の物理的・化学的・生物学的機能の臨床評価	臨床医学部門 教授 山本 哲也
38	患者負担低減を達成する『高強度』かつ『フッ素徐放性』を持つ歯科充填用コンポジットレジンの開発	臨床医学部門 教授 山本 哲也 准教授 山田 朋弘 助教 笹部 衣里 助教 北村 直也
39	医療・介護現場のニーズに対応した移乗動作介助機器の実用化	附属病院リハビリテーション部 准教授 石田 健司
40	蛋白電気泳動波形を用いた検査値予測システムの研究	連携医学部門 助教 片岡 浩巳
41	データマイニング技術を用いた診療支援に関する研究	連携医学部門 助教 片岡 浩巳 臨床医学部門 教授 杉浦 哲朗
42	ドライスキンに対するサクラン配合化粧品(市販品)の効果検証	連携医学部門 助教 弘田 量二
43	健康診断ソフトの開発	連携医学部門 助教 宮野 伊知郎
44	下北八戸沖掘削コア試料を用いた地圏と生命圏の共進化に関する共同研究	海洋コア総合研究センター 特任教授 徳山 英一 理学部門 教授 村山 雅史 教授 小玉 一人 准教授 池原 実 助教 山本 裕二 複合領域科学部門 准教授 岡村 慶
45	現場型化学分析センサーシステムの開発	複合領域科学部門 准教授 岡村 慶

	研究題目	大学研究者
46	有用微細藻の大量培養を目的とした培養環境の検討	複合領域科学部門 特任助教 小野寺 健一 教授 津田 正史 特任研究員 清遠 純夫 総合研究センター 特任助教 熊谷 慶子 研究員 赤壁 麻衣
47	海洋深層水大規模培養による海洋性アンフィジニウム属渦鞭毛藻由来の医薬リード化合物の探索と開発	複合領域科学部門 教授 津田 正史 理事(研究担当) 副学長 小槻 日吉三 黒潮圏科学部門 教授 富永 明 基礎医学部門 准教授 津田 雅之 総合研究センター 特任助教 熊谷 慶子 研究員 西坂 太樹 技術専門職員 小西 裕子 技術補佐員 秋丸 陽子 複合領域科学部門 特任助教 小野寺 健一 特任助教 Dana Ulanova
48	東部南海トラフ海域のコア試料を用いた年代推定に関する研究	理学部門 教授 安田 尚登
49	地域活性化におけるデザイン・印刷・商品開発の実践研究	教育学部門 准教授 吉岡 一洋
50	生分解性抗菌ナノ粒子を不織布加工技術と融合させた医療分野への商品開発および農業水産分野への新規抗菌技術開発	黒潮圏科学部門 教授 大島 俊一郎 農学部門 准教授 西村 安代
51	土佐湾における魚類再生産機構に関する研究	黒潮圏科学部門 教授 木下 泉 複合領域科学部門 准教授 岡村 慶
52	地域医療・在宅介護等に関するICT利活用の適用可能性に関する研究	黒潮圏科学部門 准教授 久保田 賢
53	未利用生物資源からの血糖値および脂肪制御作用を持つ物質の探索	黒潮圏科学部門 教授 富永 明 准教授 平岡 雅規
54	安心して子育てができる地域コミュニティ形成支援ICTモデル開発のための共同研究	人文社会科学部門 准教授 遠山 茂樹
55	海洋深層水スジアオノリ・タンク養殖の研究	黒潮圏科学部門 准教授 平岡 雅規
56	海洋深層水を利用したアワビと海藻の増養殖に関する研究	黒潮圏科学部門 准教授 平岡 雅規
57	人工藻礁設置による褐藻類繁茂促進に関する研究	黒潮圏科学部門 准教授 平岡 雅規
58	RNA大量合成法の開発	複合領域科学部門 特任講師 片岡 正典
59	新規マイクロ波高活性化固体触媒の開発と、海藻バイオマスからのラムノース製造への応用	複合領域科学部門 特任助教 椿 俊太郎 准教授 上田 忠治
60	農業用電解水の機能特性の検証と機能発現メカニズムの解明	農学部門 教授 石川 勝美
61	バイオ新素材ポリグルタミン酸の量産化とバイオジェル吸水部材の応用研究	生命環境医学部門 教授 芦内 誠
62	食品および食品成分が体内放射性物質の排出に与える効果の確認	生命環境医学部門 教授 受田 浩之 准教授 島村 智子 黒潮圏科学部門 准教授 石塚 悟史 准教授 平岡 雅規 基礎医学部門 教授 谷口 武利 助教 坂本 修士
63	地産地消商品の開発に関する研究	生命環境医学部門 教授 受田 浩之 准教授 島村 智子 准教授 柏木 丈拵 地域協働教育学部門 准教授 石筒 寛

	研究題目	大学研究者
64	乳および乳製品の品質とメイラード反応に関する研究	生命環境医学部門 教授 受田 浩之 准教授 島村 智子 准教授 柏木 丈拵
65	新規Aureobasidium sp.単離株を用いたβ-1,3-1,6-グルカンの産生およびその加工	生命環境医学部門 教授 永田 信治
66	甘酒乳酸菌飲料の開発	生命環境医学部門 教授 永田 信治
67	柑橘系搾汁残渣の処理技術の開発	生命環境医学部門 教授 永田 信治
68	小型浄化槽における微生物相と処理水質との関連性解明に関する研究	農学部門 教授 足立 真佐雄
69	インテリジェント性を有する紙および不織布の開発	農学部門 准教授 市浦 英明
70	南海地震による津波被害軽減と浸水継続時間を短縮する対策技術の開発	農学部門 教授 大年 邦雄 准教授 原 忠
71	斜面工事における労働災害防止のための計測機器設置方法の検討	農学部門 教授 笹原 克夫
72	転換畑における異なる水分条件下での作物根の発達特性とAM菌の感染実態の解明	農学部門 准教授 佐藤 泰一郎
73	資源循環型土エコクレイを利用する農地保全技術開発に関する共同研究	農学部門 准教授 佐藤 泰一郎
74	人工環境ボックスを使用した栽培試験	農学部門 教授 島崎 一彦
75	木材搬出時の残存木の保護と損傷軽減実用化研究	農学部門 准教授 鈴木 保志
76	強度間伐施業等に対応した森林管理技術の開発	農学部門 教授 塚本 次郎 講師 野口 昌宏
77	甘味料を用いた保存食品害虫防除技術の開発	農学部門 准教授 手林 慎一
78	万願寺とうがらし葉の有効利用に関する研究	農学部門 准教授 手林 慎一
79	健康食品成分を利用した保存加工食品の害虫防除技術の開発	農学部門 准教授 手林 慎一
80	酢ビ系材料を用いた農業部材の開発	農学部門 准教授 西村 安代
81	簡易動的コーン貫入試験(PDCPT)による液状化対策効果評価法の丸太打設液状化対策地盤への的的要請に係る研究	農学部門 准教授 原 忠
82	養殖魚の配合飼料に関する研究	農学部門 准教授 深田 陽久
83	養魚用飼料における魚粉の品質に関する研究	農学部門 准教授 深田 陽久
84	面的水管理・カスケード型資源循環システムの統合評価に関する研究	農学部門 教授 藤原 拓
85	オキシゲーションディッチからの亜酸化窒素の排出に関する調査研究	農学部門 教授 藤原 拓
86	固体触媒を用いた乳酸からのアクリル酸合成	複合領域科学部門 助教 恩田 歩武
87	アパタイト触媒を用いたアルコール類の有用化学品への転換反応	複合領域科学部門 助教 恩田 歩武
88	温和な水熱条件下におけるバイオアクリル酸の製造プロセス及び製造用触媒の開発	複合領域科学部門 講師 恩田 歩
89	水熱合成法による単結晶材料の創生に関する基礎研究	複合領域科学部門 教授 柳澤 和道
90	水熱条件における金属粉製造に関する研究	複合領域科学部門 教授 柳澤 和道
91	電子線を用いた無機-有機ハイブリッド化合物の固定化技術に関する研究	複合領域科学部門 教授 米村 俊昭
92	自動配置配線ツールの研究	理学部門 教授 豊永 昌彦
93	ミニマルファブに組み込まれる自動配置配線ソフトウェアの改良	理学部門 教授 豊永 昌彦
94	THzを用いた安心センシングセンサーの研究	理学部門 教授 西岡 孝
95	高知大学方式 ³ HeGM冷凍機の高効率化	理学部門 教授 西岡 孝
96	論理回路のビットマップ表現変換手法の研究	理学部門 教授 村岡 道明
97	GTLを用いた新たなハウス加温法の開発	理学部門 教授 安田 尚登
98	GTLを用いた新たなハウス加温法の開発とその実証試験	理学部門 教授 安田 尚登

外 14件

3 平成24年度 民間企業等との受託研究一覧 (70件)

	研究題目	大学研究者
1	23-A 特-44肉腫及び膠芽腫等の難治性がんに対する(個別化)がんワクチン療法の確立 分担研究課題名「HLA class II 結合性ペプチド反応性T細胞誘導法の開発」	基礎医学部門 教授 宇高 恵子
2	腫瘍内へT細胞を動員する次世代免疫療法の開発	基礎医学部門 教授 宇高 恵子
3	平成24年度高知県産学官連携産業創出研究推進事業委託業務 「動脈・静脈穿刺ナビゲーション装置の開発」	基礎医学部門 教授 佐藤 隆幸
4	平成24年度子どもの健康と環境に関する全国調査高知ユニットセンター委託業務	基礎医学部門 教授 菅沼 成文
5	トロンボモジュリンの上皮増殖因子様構造を用いた血管内皮細胞保護薬の開発	臨床医学部門 講師 池添 隆之
6	医療・介護現場のニーズに対応した移乗動作介助機器の実用化	臨床医学部門 准教授 石田 健司
7	尿路上皮腫瘍の光動力学的スクリーニングシステムの確立	臨床医学部門 准教授 井上 啓史
8	【23-4】 (研究課題名)高齢者の自立支援に資する総合的研究:認知症高齢者を含む高齢者の移動・外出支援 (分担する研究題目)認知症高齢者の自動車運転と家族に対する心理教育のあり方に関する検討	臨床医学部門 講師 上村 直人
9	ERISAおよび尿検査試験紙による尿路癌の新たな検査法の開発	臨床医学部門 教授 執印 太郎
10	「第10回抗菌薬感受性年次別推移の検討」	臨床医学部門 教授 杉浦 哲朗
11	新規尿中バイオマーカーを用いた慢性腎臓病患者での急性腎障害の早期診断法の開発	臨床医学部門 教授 寺田 典生
12	虚弱高齢者のための児童・生徒参加型高齢者健診と運動器リハモデルに関する研究	臨床医学部門 助教 永野 靖典
13	眼表面の炎症反応に対するレバミピドの抑制効果の検討	臨床医学部門 教授 福島 敦樹
14	高知県産ショウガを利用した嚥下機能改善品の開発	臨床医学部門 教授 宮村 充彦
15	循環器疾患(虚血性心疾患や心不全)の予後や危険因子の研究	連携医学部門 講師 宮野 伊知郎
16	在宅医療実態調査結果分析業務	連携医学部門 講師 宮野 伊知郎
17	「平成23年高知県県民健康・栄養調査」分析・評価について	連携医学部門 教授 安田 誠史
18	23-A-31(特) 多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究 分担研究課題名「高知地域におけるコホート構築」	連携医学部門 教授 安田 誠史
19	安芸市国保ヘルスアップ事業の評価	連携医学部門 教授 安田 誠史
20	パーティカルサイズミミックケーブル方式反射法地震探査(VCS)と講習は音源を組合わせた接地型高解像度探査システムの開発	海洋コア総合研究センター 特任教授 徳山 英一
21	海底熱水鉱床探査の為に化学・生物モニタリングツールの開発	複合領域科学部門 准教授 岡村 慶
22	「熱帯多島海域における沿岸生態系の多重環境変動適応策」 (研究代表者:東京工業大学 灘岡和夫教授)中の「生態学的アプローチによる熱帯沿岸生態系の生物多様性・生態系機能維持機構と多重ストレス応答評価」	黒潮圏科学部門 講師 中村 洋平
23	アグリ・グリーンイノベーションを実現する生分解性抗菌ナノ粒子による農業用抗菌剤の研究開発	黒潮圏科学部門 准教授 石塚 悟史 他
24	平成24年度エツの産卵環境調査	黒潮圏科学部門 教授 木下 泉
25	天然アユを守る取り組み	黒潮圏科学部門 教授 木下 泉
26	スジアオリの有効成分による健康増進効果の実証実験事業	黒潮圏科学部門 准教授 平岡 雅規
27	大島に適した高級海藻の増養殖に関する研究	黒潮圏科学部門 准教授 平岡 雅規
28	大豊町振興に向けたCO2削減野菜クルベジの認知度向上のためのキャラクターデザイン	地域協働教育学部門 准教授 大槻 知史
29	抗アレルギー海洋微細藻カロテノイドの開発	複合領域科学部門 特任助教 小野寺 健一
30	新規マイクロ波高活性化固体触媒の開発と、海藻バイオマスからのラムノース製造への応用	複合領域科学部門 特任助教 椿 俊太郎
31	遺伝子改良型海産珪藻による有用バイオ燃料生産技術開発	農学部門 教授 足立 真佐雄

32	課題(1)「海洋生物毒による魚介類の毒化状況実態調査及び原因藻類の分布実態調査」 ②魚類原因藻類の分布実態調査 (独立行政法人水産総合研究センターと共同提案)	農学部門 教授 足立 真佐雄
33	世界初のアオリイカ人工受精・孵化技術の確立	農学部門 准教授 足立 亨介
34	イオン液体を用いた製紙スラッジの分離技術の確立	農学部門 准教授 市浦 英明
35	界面重合反応を活用した新しいナノファイバー合成製技術の確立	農学部門 准教授 市浦 英明
36	「地域住民のREDDへのインセンティブと森林生態資源のセミドメスティケーション化」委託業務のうち「移住-定着関係と生態資源利用における住民参加」	農学部門 教授 市川 昌広
37	南海地震による津波被害軽減と浸水継続期間を短縮する対策技術の開発	農学部門 教授 大年 邦雄 准教授 原 忠
38	豪雨・急傾斜地帯における低撓乱型人工林管理技術の開発	農学部門 教授 後藤 純一 准教授 鈴木 保志 准教授 原 忠 准教授 松岡 真如
39	国土交通省 平成24年度河川砂防技術研究開発公募地域課題分野(砂防)採択課題 <平成23年度採択課題の継続実施> 斜面動態モニタリングに基づく土砂災害発生子予測技術の高度化に関する調査研究	農学部門 教授 笹原 克夫
40	新農薬実用化試験に関する研究	農学部門 准教授 手林 慎一
41	健康食品成分を利用した保存加工食品の害虫防除技術の開発	農学部門 准教授 手林 慎一
42	フッ素樹脂フィルムを使用した栽培・環境試験	農学部門 准教授 西村 安代
43	香南市の地域防災対策を目的とした堆積地盤の揺れやすさマップの構築に関する研究	農学部門 准教授 原 忠
44	クラフト菌漬けショウガのマダイの発育成績に及ぼす影響	農学部門 准教授 深田 陽久
45	クラフト菌漬けショウガの低濃度飼料添加がブリの発育成績に及ぼす影響	農学部門 准教授 深田 陽久
46	クラフト菌漬けショウガの低魚粉飼料への添加がブリの発育成績と腸管絨毛に及ぼす影響	農学部門 准教授 深田 陽久
47	気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築	農学部門 教授 藤原 拓
48	ヒラメ・マダイの中間育成等に関する研究	農学部門 教授 益本 俊郎
49	中小規模園芸ハウスを対象とした複合エコ環境制御技術の確立	農学部門 准教授 宮内 樹代史
50	高保温性能で暖房燃料使用量を大幅に削減する次世代型パイプハウスの開発	農学部門 准教授 宮内 樹代史
51	新農薬実用化試験に関する研究	生命環境医学部門 教授 荒川 良
52	オオバに発生する病害虫の新規防除剤を活用した総合防除体系の確立	生命環境医学部門 教授 荒川 良
53	飛翔性微小昆虫を捕食する土着天敵メスグロハナレメイエバエの大量増殖法の開発	生命環境医学部門 教授 荒川 良
54	生体調節機能成分を活用した野菜生産技術の実証研究 (1)-3「オスモチン大量精製法の確立とナス科野菜の栽培条件、加工条件別オスモチン含有量の変動解析」	生命環境医学部門 教授 受田 浩之 准教授 柏木 丈弘 准教授 島村 智子
55	県産未利用有用植物の活用に向けた農商工医連携基盤の構築と事業化モデル	生命環境医学部門 教授 金 哲史
56	種雄牛の現場後代検定	生命環境医学部門 准教授 松川 和嗣
57	簡便な抗酸化力評価用の電気化学センサー開発に関する研究	複合領域科学部門 准教授 上田 忠治
58	南大洋における新規掘削提案の検討～南極寒冷圏変動史プロジェクト～	理学部門 准教授 池原 実
59	『東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究』に関する「過去の地震発生履歴から見た地震サイクルの多様性の評価」	理学部門 教授 岡村 眞
60	宝石サンゴの持続的利用のための資源管理技術の開発	理学部門 教授 鈴木 知彦 生命環境医学部門 教授 大西 浩平 人文社会科学部門 准教授 中西 三紀

61	テクトニクス変換に伴う地質断層の再活動性評価手法の検討	理学部門 助 教 藤内 智士
62	泥質層のコア層解析ならびに貯留層特性の評価	理学部門 教 授 安田 尚登
63	有機不斉触媒反応の最適化による実用的不斉合成技術の開発	理事(研究担当) 副学長 小槻 日吉三 外 7件

知的財産部門

● 活動報告

平成24年

4月6日	新規採用職員向け職務発明制度説明会
4月16日	平成24年度第1回弁理士による発明相談会（3件）
4月18日	平成24年度第2回弁理士による発明相談会（2件）
4月19日	平成24年度第3回弁理士による発明相談会（4件）
4月25日	BIO Tech 2012 出展（東京ビッグサイト）（27日まで）
5月14日	臨床試験セミナー「医学研究と知的財産」
5月22日	平成24年度第1回医学部倫理委員会
5月29日	平成24年度第1回「知財サロン」会議
5月31日	平成24年度第4回弁理士による発明相談会（1件）
6月13日	平成24年度第5回弁理士による発明相談会（1件）
6月18日	2012 BIO INTERNATIONAL CONVENTION 出展（ボストン）（21日まで）
6月20日	平成24年度知的財産セミナー
6月21日	第85回知的財産専門委員会
6月26日	平成24年度第2回医学部倫理委員会
6月27日	国際・化粧品開発展 アカデミックフォーラム 出展（東京ビッグサイト）（29日まで）
7月11日	第86回知的財産専門委員会
7月23日	平成24年度第1回特許等取得活用支援連絡会議
7月31日	平成24年度第3回医学部倫理委員会
8月2日	平成24年度第1回夏播き小麦プロジェクト会議
8月27日	平成24年度第6回弁理士による発明相談会（4件）
8月28日	平成24年度第7回弁理士による発明相談会（3件）
9月5日	第87回知的財産専門委員会
9月10日	平成24年度第6回医学部倫理委員会
9月27日	イノベーション2012 大学見本市 出展（東京国際フォーラム）（28日まで）
9月28日	第88回知的財産専門委員会
10月16日	平成24年度第5回医学部倫理委員会
10月26日	平成24年度第8回弁理士による発明相談会（1件）
11月14日	アグリビジネス創出フェア2012 出展（東京ビッグサイト）（16日まで）
11月19日	第89回知的財産専門委員会
11月20日	平成24年度第6回医学部倫理委員会
11月26日	平成24年度第2回夏播き小麦プロジェクト会議
11月28日	第90回知的財産専門委員会
12月5日	平成24年度第2回「知財サロン」会議
12月18日	平成24年度第9回弁理士による発明相談会（1件）
12月19日	第91回知的財産専門委員会
12月27日	平成24年度第7回医学部倫理委員会

平成25年

1月10日	医学部学生向け知的財産セミナー「医学研究と知的財産」
1月16日	第92回知的財産専門委員会
1月25日	夏播き小麦等の6次産業化に向けたプロジェクト推進のための協議
2月5日	平成24年度第8回医学部倫理委員会
2月6日	夏播き小麦等の事業化推進のための協議
2月7日	平成24年度第10回弁理士による発明相談会（5件）
2月26日	第93回知的財産専門委員会
3月1日	平成24年度第9回医学部倫理委員会
3月4日	平成24年度第2回特許等取得活用支援連絡会議
3月4日	平成24年度第3回「知財サロン」会議
3月28日	平成24年度第10回医学部倫理委員会
3月29日	第94回知的財産専門委員会



国際・地域連携センター 知的財産部門の紹介

1. 機能

本部門は、高知大学知的財産ポリシーに則り、教職員の研究成果である発明の相談・保護・管理・活用を実施する部門として設置されたものである。

主要な活動として、発明相談会開催、特許等のライセンス契約・管理、特許関係の各種セミナー及び対話型特許調査事業の開催、共同研究契約等の知的財産条項の交渉・検討、及び各種展示会出展等の技術移転活動を行っている。

2. 体制

I. 知的財産部門

平成 24 年度の体制は、部門長は国際・地域連携センター長の受田副学長が兼務し、四国 TLO 安田客員准教授（平成 24 年 8 月から）が教員組織として、また、事務組織としては、地域連携課の係長及び係員がそれぞれ 1 名配置されている。

II. 他部門等との連携

当部門の業務内容と密接に関連する、産学官民連携部門（コーディネイト機能）及び研究推進課（平成 25 年 1 月から共同研究契約等の実務窓口）との連携が必須であることから、合同ミーティング及び情報交換を実施し、案件のステージにあわせて最適な教職員を当該教職員の担当者とすることで、効率的に業務を行えるように配慮している。

III. 四国 TLO との連携

当部門の業務に関して、四国 TLO との連携強化を図っている。具体的には、研究者から発明の相談があった場合において、弁理士とともに発明相談会に出席し、特に市場性の観点からの目利きを依頼することができる体制を確立している。また、技術移転段階においては、手続を文書化することにより、明確な意思表示の下での、委託関係を構築している。

IV. 県内機関との連携

高知県商工労働部新産業推進課・高知県商工会議所・高知県商工会連合会・財団法人高知県産業振興センター・一般社団法人高知県発明協会・高知工科大学・高知工業高等専門学校及び県内企業等と連携して実施する「知財サロン」に会員として参画し、県内での知的財産に関する取り組みの活性化を図るとともに、情報交流ネットワークを構築した。

3. 実績

特許出願に関しては、第 2 期中期目標・中期計画等を踏まえ、大学帰属出願案件についてはより一層の質的充実を図るため、特許の実施許諾契約等におけるライセンス等収入（直接的収入）や特許等をシーズとした共同研究等の外部資金及び競争的資金（間接的収入）の獲得に当たっての数値目標を設定するとともに、新たに「退職教員が発明者となっている特許等の取扱い基準」、「発明者に対する技術移転の状況報告に関する指針」、「国際出願・外国出願の取扱いに関する指針」の策定を行った。また、知的財産権の有無に影響されない「成功報酬型共同研究」の制度を導入した。

平成 24 年度における特許出願等件数については、発明届出件数は 43 件（前年度比 9 件増）、特許出願件数は 31 件（前年度比 9 件増）であった。なお、出願件数（31 件）のうち、共同研究等に基づく企業等との共同出願件数については、

23件（前年度比10件増）であった。

平成24年度における特許等の知的財産の活用による大学への収入又は外部資金等の獲得状況は、実施許諾契約等に基づく収入（直接的収入）が1,637千円であった。

また、特許をシーズとし、これと密接に関連した共同研究、受託研究及び競争的資金等の受入（間接的収入）は、322,428千円であった。

4. 成果物（16－24年度）

- ・ 高知大学知的財産ポリシー
- ・ 高知大学国際・地域連携センター規則
- ・ 高知大学国際・地域連携センター運営戦略室規則
- ・ 高知大学国際・地域連携センター推進委員会規則
- ・ 高知大学国際・地域連携センター知的財産専門委員会規則
- ・ 高知大学発明規則
- ・ 職務発明における補償金に関する細則
- ・ 高知大学技術移転規則
- ・ 高知大学成果有体物取扱規則
- ・ 企業との共同研究等から生じた知的財産権の取扱いについての基本方針
- ・ 高知大学国際・地域連携センター知的財産部門特許助成制度について
- ・ 共同研究・受託研究・特許権の取扱いについて（平成19年9月10日改訂）
- ・ 国立大学法人高知大学特許出願方針
- ・ 特許の審査請求及び拒絶理由通知等対応方針
- ・ 国立大学法人高知大学知的財産権活用・放棄基準
- ・ 国立大学法人高知大学発明フロー
- ・ 発明届けの審議手順
- ・ 発明から特許取得までの手続きと費用
- ・ 高知大学共同研究取扱規則
- ・ 共同出願契約書（ひな型）
- ・ 実施許諾契約書（ひな型）
- ・ 有体物譲渡契約書（企業用）（ひな型）
- ・ 有体物譲渡契約書（研究用）（ひな型）
- ・ 商標使用権設定契約書（有償版）
- ・ 商標使用権設定契約書（無償版）
- ・ 「研究ノート」の活用について
- ・ 高知大学安全保障輸出管理規則
- ・ 共同研究の成果に係る特許出願及び譲渡指針
- ・ 退職教員が発明者となっている特許等の取扱い基準
- ・ 発明者に対する技術移転の状況報告に関する指針
- ・ 国際出願・外国出願の取り扱いに関する指針
- ・ 成功報酬型共同研究について



各種セミナー等取り組み

1. 発明相談会

伊藤浩彰 弁理士（アスフィ国際特許事務所：大阪市）、中野睦子 弁理士（三枝国際特許事務所：大阪市）、長谷川俊宏 弁理士、貴志浩充 弁理士（八田国際特許業務法人：東京都）を延べ10回招聘し、累計24件の相談を行い、出願明細書の打合せや、研究の方向性や必要なデータの確認等を行った。

2. 展示会（知的財産部門が主となるもの）

名称：国際・化粧品開発アカデミックフォーラム
 開催日時：平成24年6月27日（水）～29日（金）
 開催場所：東京都 東京ビッグサイト
 主催：リードエグジビションジャパン株式会社

名称：イノベーションジャパン2012・大学見本市
 開催日時：平成24年9月27日（木）～28日（金）
 開催場所：東京都 東京国際フォーラム
 主催：独立行政法人科学技術振興機構（JST）
 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）

名称：アグリビジネス創出フェア2012
 開催日時：平成24年11月14日（水）～16日（金）
 開催場所：東京都 東京ビックサイト
 主催：農林水産省

その他の取り組み

1. 知財活動の個人評価への反映（特許を論文と同等に評価することへの取り組み）

高知大学では、教員の活動を教育、研究にとどまらず地域貢献等を含めて点数化（評点）して評価するシステムを他大学に先駆けて構築した。平成17年度は試行期間とし、平成18年度から本格的に導入している。この中で特許出願、特許登録についても論文と同等以上の価値を認めることになった。このシステムは、今後、大学に知的財産活動を定着化するのに非常に大きな力になると考えられる。

素点の一覧表（講義時間1時間との比較）

研究		素点		時間換算（授業相当）	
		文系(x2)	理系	文系	理系
論文	著書 欧文	30	15	200.0	100.0
	邦文	12	6	80.0	40.0
	総説 欧文	30	15	200.0	100.0
	邦文	12	6	80.0	40.0
	原著論文 欧文	30	15	200.0	100.0
	邦文	12	6	80.0	40.0
活動		文理－共通		文理－共通	
	受賞 件数	25.00		166.7	
	特許出願（公開） 件数	5.00		33.3	
	取得 件数	30.00		200.0	

【平成17年度「教員の総合的活動自己評価」に関する報告書】より抜粋（平成18年12月 国立大学法人高知大学評価本部）

2. 研究助成制度

特許出願を行ったが、知的財産の観点からさらに追加の研究を行えばより強い発明にブラッシュアップできる潜在的価値が高い案件がある。しかし若手研究者等では研究費が少なく研究が進まない場合も考えられ、少額ではあるが知財部門の判断で知財部門予算から助成できる制度（0～2件／年、総額100万円）を発足させた。この制度は、定期的に募集するものではなく、真に必要なと知財部門が判断した場合に行う助成制度として設定したものである。

3. セミナー事業

日本弁理士会の協力を得て、本学と高知県との共催事業による新たな知的財産セミナー、個別相談会事業を開催した。

1 知的財産権の活用状況について

【中期目標】

研究拠点プロジェクト、学系プロジェクト、個人・グループ等が行う研究活動の質的向上や社会還元に向けた全学的支援体制を充実するため、センター機能をより一層強化する。

【中期計画】

国際・地域連携センターにおいて、1) 共同研究、受託研究、2) 数値目標を設定した特許出願を推進する。

【H24 年度計画】

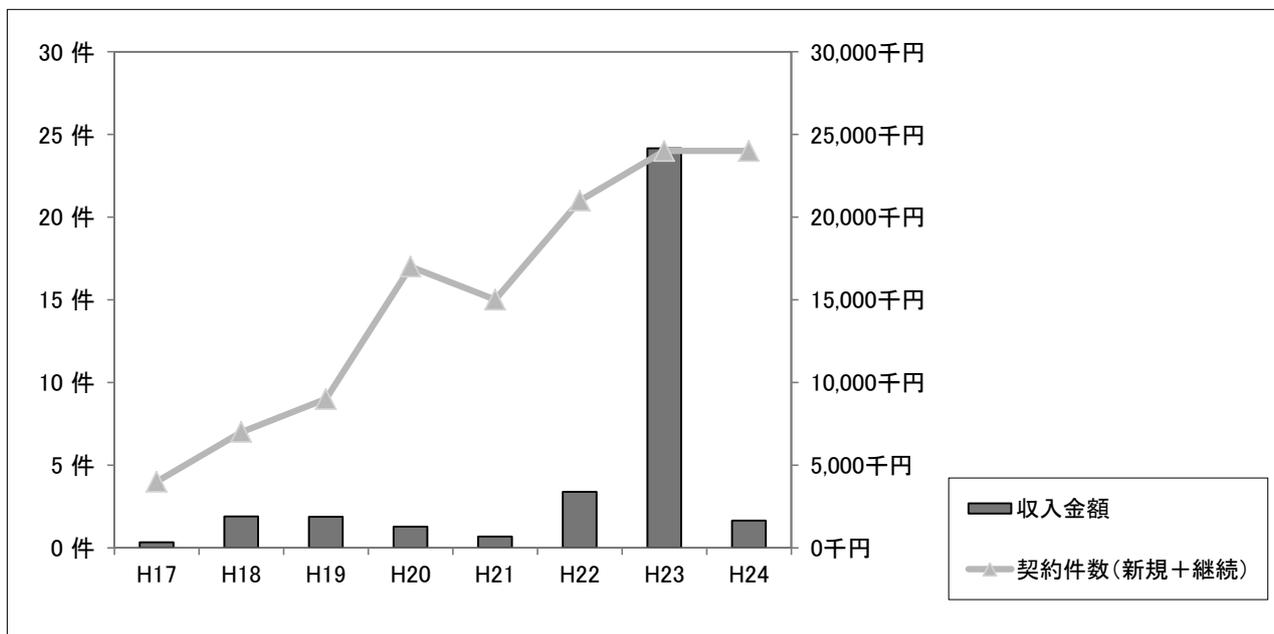
共同研究及び受託研究の推進に向け、産学官連携ネットワークを拡大する。また、大学帰属出願案件の質的な充実を図った上で、知的財産の出願・管理を行うとともに、当該知的財産を活用したライセンス収入・競争的資金獲得の増加を目指す。併せて、平成 22 年度に策定した新基準に基づいて、知的財産出願状況・収入状況等の中間評価を行う。

【数値目標】

知的財産を活用した直接的収入(ライセンス収入等)300 万円以上、間接的収入(知的財産をシーズとする競争的資金・共同研究等の外部資金の総額) 1 億円以上を目標とする。

(1) 発明活用(直接的収入)状況の推移

【直接的収入】：特許等実施許諾契約・研究成果有体物提供契約・特許等譲渡契約等の件数・収入実績



事項 \ 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
契約件数 (新規+継続)	4 件	7 件	9 件	17 件	15 件	21 件	24 件	24 件
契約件数 (新規)	2 件	3 件	4 件	12 件	3 件	6 件	4 件	5 件
収入件数	2 件	4 件	8 件	11 件	8 件	11 件	16 件	12 件
収入金額 (千円)	327 千円	1,904 千円	1,871 千円	1,281 千円	676 千円	3,388 千円	24,164 千円	1,637 千円

(2) 発明活用（間接的収入）状況（平成24年度）

【間接的収入】：特許等と密接に関係した共同研究・受託研究・科学研究費補助金獲得状況

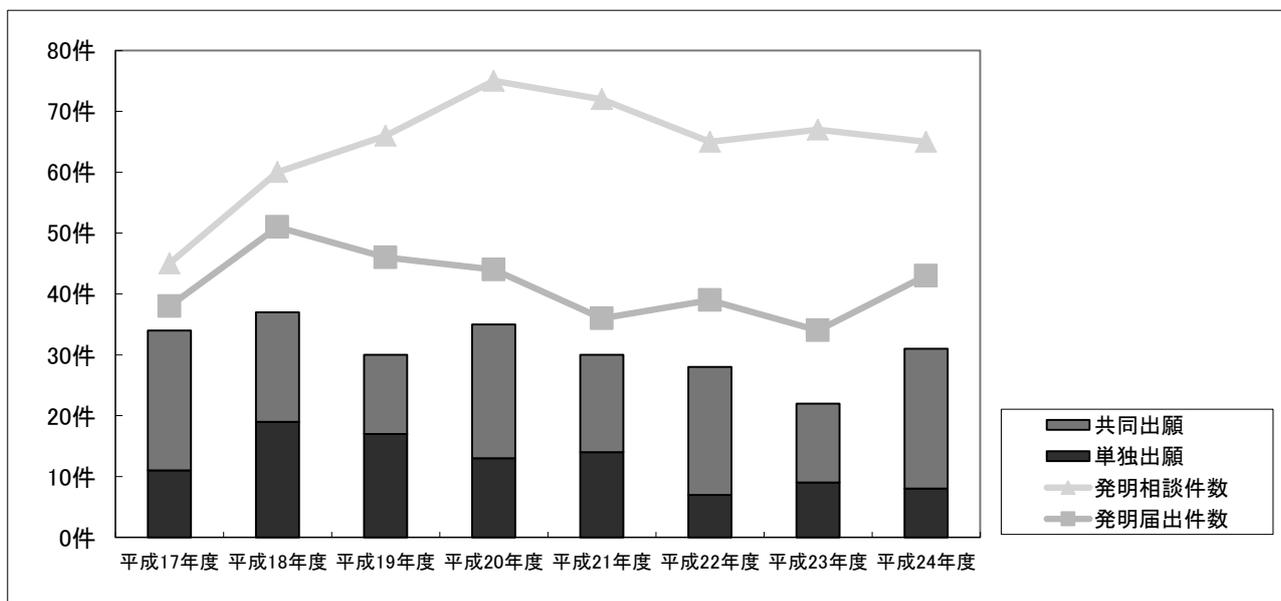
(i) 特許等と密接に関連した共同研究等の総件数に占める比率

	関連件数	総件数	対総件数比
共同研究	53件	112件	47%
受託研究	12件	70件	17%
科学研究費補助金（文科省）	32件	279件	11%
科学研究費補助金（厚労省）	2件	27件	7%
合計 （）内は平成23年度	99件 (108件)	488件 (491件)	20% (22%)

(ii) 特許等と密接に関連した共同研究等の総額に占める比率

	関連金額	総額	対総額比
共同研究	68,307千円	115,279千円	59%
受託研究	83,946千円	423,490千円	20%
科学研究費補助金（文科省）	73,970千円	538,821千円	14%
科学研究費補助金（厚労省）	96,205千円	129,209千円	74%
合計 （）内は平成23年度	322,428千円 (220,542千円)	1,206,799千円 (1,178,899千円)	27% (19%)

(3) 発明相談件数・発明届出件数・出願件数の推移



	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
発明相談件数	45件	60件	66件	75件	72件	65件	67件	65件
発明届出件数	38件	51件	46件	44件	36件	39件	34件	43件
単独出願件数	11件	19件	17件	13件	14件	7件	9件	8件
共同出願件数	23件	18件	13件	22件	16件	21件	13件	23件

特許保有件数（平成24年度末 現在）

	大学保有特許	うち共同保有特許
日本国特許	66件	37件
外国特許	30件	24件

2 平成24年度 発明届の処理状況

事項		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1.特許出願件数	【計画】	30件	33件	36件	39件	42件	45件			
	【実績】	33件	34件	37件	30件	35件	30件	28件	22件	31件
2.発明届出件数	【計画】		38件	41件	44件	47件	50件			
	【実績】	45件	38件	51件	46件	44件	36件	39件	34件	43件
3.発明相談会 (知的財産部門)	【計画】		38件	41件	44件	47件	50件			
	【実績】	未記録	45件	60件	66件	75件	72件	65件	67件	65件
4.発明相談会 (弁理士)	【計画】		8回	10回	10回	10回	10回			
	【実績】	5回	8回	11回	11回	14回	7回	9回	8回	10回
	【実績】	26件	28件	27件	40件	34件	21件	20件	31件	24件
5.特許実施許諾等 契約(新規)	【計画】		2件	2件	2件	2件	2件			
	【実績】	1件	2件	3件	4件	12件	3件	6件	4件	5件
6.特許実施許諾等 契約(新規+継続)	【計画】		4件	6件	8件	10件	12件			
	【実績】	2件	4件	7件	9件	17件	15件	21件	24件	24件
7.セミナー開催	【計画】		2回	2回	2回	2回	2回			
	【実績】	3回	2回	4回	6回	4回	3回	2回	0回	3回
8.共同研究等の知的財産 条項検討・交渉	【計画】		31件	34件	37件	40件	43件			
	【実績】	未記録	31件	81件	94件	64件	42件	47件	46件	63件
9.大学院生への特許調査 方法教育	【計画】		58名	23名	23名	23名	23名			
	【実績】		58名	1名	18名	7名	1名	0名	0名	1名
10.研究戦略企画 プロジェクト会議	【計画】		2回	2回	3回	3回	4回	0回		
	【実績】		2回	2回	3回	2回	5回	2回	0回	1回
11.特許フェア等 (産学官民が主となるものを除く)	【計画】		1回	1回	1回	1回	1回			
	【実績】		1回	1回	2回	2回	3回	3回	3回	1回
12.職務発明説明会 (新規採用者)	【実績:回数】	対象外	1回	3回	16回	5回	1回	1回	1回	1回
	【実績:確認書】	対象外	33人	23人	28人	25人	12人	26人	29人	30人
13.研究ヒアリング	【実績:人数】				15人	19人	5人	2人	2人	3人
14.J-STORE、特許流通DB 登録件数	【実績】			23件	23件	28件	39件	39件	39件	40件
15.上記照会件数	【実績】			0件	2件	2件	1件	0件	0件	1件
16.特許等による収入実績			327千円	1,904千円	1,871千円	1,281千円	676千円	3,388千円	24,164千円	1,637千円
17.特許出願支援(JST)実績		498千円	3,140千円	3,790千円	2,342千円	4,639千円	3,288千円	6,178千円	5,269千円	6,686千円

国際連携部門

● 活動報告

平成24年

- 4月1日 平成24年度高知大学国際交流基金助成事業実施
(3事業、予算規模10,000千円)
- 4月4日 チェンマイ大学を表敬訪問
- 4月5日 新入留学生対象オリエンテーション実施
- 4月9日 平成24年度第1学期日本語予備教育コース開講式実施
- 4月17日 平成24年度第1学期チューターオリエンテーション実施(物部)
- 4月20日 安徽省教育訪問団(中国)高開華副庁長他3名学長表敬訪問
- 4月24日 陝西科技大学(中国)の李树晖党副書記以下5名学長表敬訪問
- 4月25日 平成24年度第1学期チューターオリエンテーション実施(朝倉)
- 5月9日 安徽大学(中国)の黄書記他5名学長表敬訪問
高知大学中国語センター開所式挙行にて看板上掲
- 5月14日 第1回留学生専門委員会(計7回開催)
- 5月23日 第8回国際連携推進委員会(計6回開催)
- 6月6日 チューター講習会実施
- 6月9日 部門主催による講演会およびワークショップ実施
- 6月27日 ブトラ大学(マレーシア)との大学間交流協定更新調印式
- 7月3日 第1回高知地域留学生交流推進会議幹事会(計3回開催)
第2回SUJUIセミナー開催(インドネシア・ボゴール)
- 7月4日 入管法改正説明会実施
- 7月14日 JASSOによる外国人学生のための進学説明会参加(大阪)
- 7月15日 JASSOによる外国人学生のための進学説明会参加(東京)
- 7月18日 平成24年度海外留学説明会実施(朝倉・岡豊)
- 7月19日 外国人留学生進学相談会参加(岡山)
- 7月20日 外国人留学生進学相談会参加(高松)
- 7月24日 平成24年度海外留学説明会実施(物部)
- 7月30日 平成24年度第1学期日本語予備教育コース閉校式実施
- 8月6日 平成24年度高知大学国際交流基金助成事業決定通知書交付式
- 8月29日 日本留学フェア・セミナーに参加(北京)
常州大学(中国)の史国東書記他2名学長表敬訪問
- 10月1日 新入留学生オリエンテーション実施(朝倉)
- 10月2日 平成24年度第2学期日本語予備教育コース開講式実施
- 10月5日 嶺南大学の国際交流担当副総長他2名意見交換実施
- 10月11日 新入留学生オリエンテーション実施(物部)
- 10月17日 平成24年度第2学期チューター対象オリエンテーション実施(朝倉・岡豊)
- 10月23日 平成24年度第2学期チューター対象オリエンテーション実施(物部)
- 10月27日 外国人留学生課外研修実施(室戸)
- ～28日
- 11月3日 上海海洋大学百周年記念式典出席
地域交流行事として大豊町星神社大祭留学生参加
- 11月9日 部門主催FD・SD研修会実施
- 11月22日 高知地域連絡会・部門主催シンポジウム・留学生支援事業四国推進連絡会実施
- 11月28日 外国人留学生交流懇談会実施
- 12月2日 地域交流事業として非難訓練と災害時シミュレーション留学生参加
- 12月3日 国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会出席(盛岡)

平成25年

- 1月12日 留学生との交流会参加(教育学部附属特別支援学校)
- 1月18日 朝倉地域のお年寄りとの交流会行事留学生参加
- 1月22日 中国語センター主催による中国文化講座実施(計5回)(2月19日まで)
- 1月26日 朝倉ふれあいセンター主催事業国際・C級グルメ大会へ留学生参加
- 2月4日 平成24年度第2学期日本語予備教育コース閉校式実施
- 2月5日 平成24年度高知地域留学生交流推進会議総会開催
- 2月9日 NPO法人高知県日中友好協会主催春節を祝う会参加
- 2月10日 朝倉ふれあいセンター主催による留学生と中学生の交流会参加
- 2月12日 チェンマイ大学を表敬訪問、学術交流協定調印式実施
- 2月21日 平成24年度カルチャーカーフェ実施
- 3月8日 平成24年度留学生交流総合推進会議出席
- 3月9日 インドネシア・日本6大学合同実務者会議出席(バリ)
- 3月30日 高知大学帰国留学生ネットワーク(中国地域)総会開催



文部科学省平成 24 年度「大学の世界展開力強化事業」

【ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援】に採択

構想名：日本・インドネシアの農山漁村で展開する 6 大学協働サービ斯拉ーニング・プログラム

インドネシア 3 大学（ボゴール農業大学、ガジャマダ大学、ハサヌディン大学）と高知大学、愛媛大学（代表申請）、香川大学による熱帯農業における SUIJI コンソーシアムのもとで、サービ斯拉ーニング・プログラムを実施します。（平成 28 年度まで）

【第 2 回 SUIJI セミナー】平成 24 年 7 月 3 日（火）

インドネシアのボゴールで開催された第 2 回 SUIJI (Six University Initiative Japan Indonesia) セミナーに脇口学長、櫻井理事ほか 6 名が参加しました。SUIJI は、インドネシアの 3 大学（ボゴール農業大学 (IPB)、ガジャマダ大学 (UGM)、ハサヌディン大学 (UNHAS)）と日本の 3 大学（高知大学、愛媛大学、香川大学）で構成され、共同研究や共同教育などを通じて各大学が持つ教育研究拠点を連携させることにより、熱帯地域の農業発展及び生物資源の保全、ひいては地球規模の環境問題に貢献することを目的としています。

セミナーは、「日本とインドネシアにおける高等教育ネットワークを通じた持続可能な熱帯農業の促進」をテーマに基調講演、一般講演、学長フォーラム、研究者フォーラムなどが行われました。学長フォーラムでは、将来の連携に向けた政策と戦略について議論がなされ、脇口学長をはじめ各大学からの提案や報告発表の後、活発な意見交換が交わされました。また、インドネシアの学生による民族舞踊や民族衣装の Batik も披露され、最後に平成 25 年度開催当番となる本学から櫻井理事が閉会挨拶を行いました。



6 大学長等による記念撮影
(左から UGM、愛媛、IPB、高知、UNHAS、香川)



SUIJI セミナー参加者による記念撮影



高知大学中国語センター設置 及び安徽大学(中国)からの教員の受入れ

「国立大学法人高知大学と安徽大学との間の中国語センター開設に関する覚書」に基づき、中国語センターを設置(開所式:平成24年5月9日実施)するとともに、安徽大学から初めて教員を受入れ(1年間、高知大学客員講師の名称付与)、中国語及び日本語の授業、中国語講座、中国文化講座等を実施しました。

【高知大学中国語センター開所式】平成24年5月9日(水)

大学間協定校である安徽大学(中国)の黄書記ほか5名、並びに安徽省と友好提携を締結している高知県から職員等を招き、高知大学中国語センター開所式を開催しました。開所式では、脇口学長、安徽大学黄書記、高知県大崎文化・生活部長から、中国語センターを通じて両大学の友好交流活動が発展することを願った挨拶が述べられた後、看板の上掲を執り行いました。またその翌日には、黄書記による国際学術交流講演会「中国古文字学の未来と国際交流」も実施されました。

高知大学中国語センターは、平成23年7月に安徽大学と締結した「高知大学中国語センター開設に関する覚書」に基づき、国際・地域連携センター内に設置しています。本年4月から当センターに受入れている安徽大学外国語学院の王永東講師は、中国語の教育をはじめ、中国留学希望者の相談に応じる等の業務を担います。本学からも安徽大学日本語教育センターへ井上智子客員助教を派遣しており、日本語の授業を担当しています。今後、両センターを通じて、学生の語学力養成のほか、留学支援活動、学術・学生交流等を行っていく予定です。



中国語センター開所式



中国語センターの看板上掲

【高知大学中国語センター主催「中国文化講座」開催】平成25年1月22日(火)～2月19日(火)

高知大学中国語センター王永東客員講師による中国文化講座を全5回開催しました。

中国語センター開設に伴い、学生・教職員をはじめ地域の方々に中国の文化・生活を知り、中国に関する理解を深めてもらうことを目的とし、仕事と社会、恋愛と結婚、子育て、教育、食文化と幅広いテーマを設けて行われました。

参加者:第1回(子育て)20名、第2回(教育)16名、第3回(仕事と社会)12名、第4回(恋愛・結婚・家庭)14名、第5回(中国の食文化)18名 全5回参加者6名



講座の様子

表敬訪問・学術交流協定調印式

【チェンマイ大学（タイ）】平成24年4月4日（金）

受田国際・地域連携センター長がチェンマイ大学（タイ）を表敬訪問し、お互いの大学について概要説明や研究分野についての意見交換が行われ、今後の協定締結を目指した研究交流や学生交流について話し合いました。



表敬訪問の様子（受田センター長）



記念撮影

【安徽大学（中国）】平成24年4月20日（金）

安徽省教育庁（中国）の高開華副庁長他3名が来学。菊地副学長（国際・地域連携担当）、遠藤教育学部長と学生交流及び地域交流等についての意見交換が行われました。



意見交換の様子



記念撮影

【陝西科技大学（中国）】平成24年4月24日（火）

大学間協定校である陝西科技大学（中国）から李党副書記他5名の表敬訪問がありました。大学概要の説明を相互に行った後、人事、予算、管理運営方法等のほか両大学の学術・友好交流について意見交換を行いました。同大学は、現在、学部に対応する15の学院を有し、修士課程を7分野、博士課程を5分野設置しており、交流がより深まることが期待されます。



意見交換の様子



記念撮影

【プトラ大学（マレーシア）】 平成 24 年 6 月 27 日（水）

大学間協定校であるマレーシア・プトラ大学の Aini Ideris 国際担当副学長ほか 2 名が来学し、協定書の調印式を行いました。

同大学は、1931 年に農科大学（短大）として創設され、1971 年にマレーシア農科大学、1997 年に現在のマレーシア・プトラ大学となり、農学、林学などの学部や大学院を有する総合大学です。

本学とは、平成 19 年 5 月 18 日に学術交流協定を締結し、農学部が推進するアジア・フィールドサイエンス・ネットワークの基幹校として、研究者や学生の派遣・招聘による交流、共同研究を活発に行っていました。この度、学生交流に関する覚書を盛り込んだ学術交流及び学生交流に関する協定書として更新しました。今回の協定更新により、教育・研究面での交流活動の発展が期待されます。



交流協定書の調印



記念撮影

【常州大学（中国）】 平成 24 年 8 月 29 日（水）

大学間協定校である常州大学（中国）から史国東書記他 2 名の来学があり、学長表敬訪問のほか、理学部長との会談や DC セミナーを実施しました。

同大学は、1978 年に南京化工学院無錫分院として創設され、1992 年に江蘇石油化工学院、2002 年に江蘇工業学院、2010 年に現在の常州大学となり、工学、理学、文学、経済学、法学などの学科を有する総合大学です。表敬訪問では、両校の概要説明や交流の現状のほか、今後の学術研究や学生交流の増加などについて積極的な意見交換が行われました。



学長表敬訪問（脇口学長から歓迎挨拶）



記念撮影

【嶺南大学校（韓国）】 平成 24 年 10 月 5 日（金）

韓国の嶺南大学校から朱祥佑国際交流担当副総長ほか国際交流担当職員 2 名が本学を訪れ、菊地副学長（国際・地域連携担当）、国際連携室職員と両校の紹介及び教育環境に対する取組みについて意見交換を行いました。

同大学は、1947 年に創設され、1967 年に嶺南大学校となり、14 単科大学、6 つの独立学部、10 の専門大学院を有する大学です。日本の大学との交流として、「ジャパン・プロジェクト (Japan Project)」による交流・協力及び学生交換プログラムを実施しています。

現在、本学と交流協定は未締結ですが、学術交流を新たに計画する上で有意義な機会となりました。



表敬訪問の様子

【チェンマイ大学（タイ）】 平成 25 年 2 月 12 日（火）

脇口学長、受田国際・地域連携センター長がチェンマイ大学（タイ）を表敬訪問し、学術交流協定の調印式が行われました。

同大学は、1964 年にタイ王国チェンマイ市に設立された国立大学。タイ北部地域で最重要大学の位置づけにあり、世界約 30 カ国 170 を超える大学との国際交流協定を締結しています。今回の協定締結により、農学部、理学部、医学部を中心とした全学レベルの交流活動の発展が期待されます。



調印式の様子



会談の様子

TOPICS
T
4

講演会等

【国際連携部門講演会】平成24年6月9日（土）

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授で劇作家の平田オリザ氏を講師に迎え、「変わりゆく日本語 変わらない日本語」と題した講演会を開催しました。高知県内の日本語教育関係者をはじめ本学日本人学生や外国人留学生、地域住民121人が参加しました。「非常に分かりやすく、日本語の歴史や特徴について説明されていたと思う。普段気がつかなかった何気ない日本語の違和感などを客観的に見るいい機会になった」などの意見が聞かれました。



講演会の様子

【国際連携部門FD・SD講習会】平成24年11月9日（金）

米ロードアイランド州立大学名誉教授 Dr. Agnes G. Doody 氏を講師に迎え、「異文化コミュニケーションを楽しむ」と題したFD・SD講習会を開催しました。本学教職員をはじめ、日本人学生や外国人留学生、地域住民など82名が参加し、「物事の違いを認め、勝手に自分の価値観で判断しないことを学びました」、「世界には違った文化があり、それぞれの価値観がある。好奇心を持って外の世界に行くべきだと感じました」などの意見が聞かれました。



講演会の様子



講師を囲んで

留学生と地域交流 (高知地域留学生交流推進会議地域交流事業等)

【星神社秋季大祭】平成24年11月3日(土)

高知地域留学生交流推進会議の地域交流事業の一環として、高知県長岡郡大豊町にある星神社の秋季大祭に高知県内3大学で学ぶ7カ国18名の留学生(高知大学8名)と引率者9名が参加しました。地元からの要望もあり、留学生が参加することで日本古来の伝統文化(神事、神輿行列)が国際色豊かなものとなりました。

神事後、地域の方々と昼食を共にした留学生は、御神輿や弓矢などの担ぎ手役として、神社から約1キロ離れた山の上の広場(御旅所)を練り歩く「おなばれ」を体験。又、文化祭で賑わっている町内も練り歩きました。初めてはかまや烏帽子を身につけて御神輿を担いだ留学生は、汗を噴き出しながら「わっしょい、わっしょい」と練り歩き、地域住民の温かい声援や拍手を受けていました。参加した留学生にとって、日本の伝統的なお祭りに触れる貴重な機会となりました。



御神輿を担ぐ留学生たち



参加者による記念撮影

【災害対策研修会】平成24年12月2日(日)

高知地域留学生交流推進会議の地域交流事業の一環として南国市吾岡山で開催された災害対策研修会に外国人留学生12名と引率者5名が参加しました。この研修会は、災害時のシミュレーションとして避難訓練、応急処置訓練、炊き出しの実践などを中心に防災意識を高めることを目的に実施されたものです。

研修会は、地域住民も含めた参加者約70名の山への一斉避難から始まり、避難時の身近なものを利用した防災グッズの紹介、参加者によるテントの設営が行われました。また、災害時を想定した炊き出しの実践では、大鍋に入った炊き込みご飯やすいとん汁の前に牛乳パックで作った皿を手に持った参加者の行列ができました。さらに班別での応急処置訓練では、南国市消防署員の指導のもと「出血の際の応急処置」、「がれきの撤去」や「怪我人の搬送」など災害に遭った時に役立つ実践的な研修が行われました。

参加した留学生にとっても、災害に対する心構えと団体行動の大切さを学ぶ貴重な機会となりました。



搬送訓練の様子



がれきの撤去訓練の様子



応急処置訓練の様子



炊き出しの実践

【留学生との交流会】平成 25 年 1 月 12 日（土）

教育学部附属特別支援学校にて交流会が開催され、在校生・保護者・教員 43 名と、セルビア・メキシコ・ホンジュラスからの留学生 3 名及び国際交流課職員 1 名が参加しました。留学生はそれぞれ自国の地理や文化について紹介した後、参加者全員が 3 つのグループに分かれて、留学生指導のもと各国の家庭料理を調理し、その後一緒に会食しました。交流会の最後には、子供たちから手作りのプレゼントをもらい、留学生にとっても貴重な体験となりました。



交流会の様子 1



交流会の様子 2

【地域のお年寄りとの交流会】平成25年1月18日（金）

朝倉ふれあいセンター主催で開催された地域のお年寄りとの交流会行事「ミニサービスデー」に留学生4名が参加し、習字、切り絵、踊りなどを通じて交流しました。



交流会の様子1



交流会の様子2

【国際・C級グルメ大会】平成25年1月26日（土）

中国・韓国・台湾・タイ・メキシコ・ホンジュラス・セルビア・スウェーデンの留学生13名が参加し、自慢の母国料理を披露しました。また地域の方々の手作りによる日本料理も紹介されました。それぞれの食文化を通して交流を行い、有意義な1日となりました。



交流会の様子

TOPICS
T
6

留学生交流

【外国人留学生交流懇談会】平成24年11月28日(水)

高知商工会館にて留学生、留学生支援団体、関係教職員を招いて、外国人留学生交流懇談会を開催しました。交流懇談会には約140名が参加し、昨年12月以降に入学した留学生の紹介、各キャンパスを代表した留学生のスピーチ、アトラクションなどが行われました。アトラクションでは、脇口学長の尺八による「木枯らし」、「北国の春」の演奏が行われ、櫻井理事の演奏に合わせた「もみじ」と学歌の合唱が行われました。さらにはインドネシア、モンゴル、メキシコ、ホンジュラスの留学生らによる伝統的な歌や踊りなどの披露で、懇談会は大いに盛り上がりました。最後に「幸せなら手を叩こう」を留学生が順番に各国の母語で歌い上げ、日頃会う機会の少ない3キャンパスの留学生や地域の留学生支援団体、教職員との交流が深まりました。



留学生の紹介



踊りを披露する留学生

【外国人留学生課外研修】平成24年10月27日(土)～28日(日)

平成24年度入学の留学生を対象に、高知県東部への1泊2日の課外研修を行い、留学生48名・教職員10名が参加しました。内原野陶芸館(安芸市)での絵付け体験、赤岡絵金蔵、室戸ジオパーク見学では、高知の文化や自然に触れ、貴重な体験となりました。また、国立室戸青少年自然の家で寝食を共にし、互いに協力することで学生同士、また教職員との交流を深めることができました。



見学先での記念撮影



集合写真



高知大学帰国留学生ネットワーク

【高知大学帰国留学生ネットワーク（中国）総会】平成 25 年 3 月 30 日（土）

中国（上海）において高知大学帰国留学生ネットワーク総会（中国）を開催しました。帰国留学生 33 名、来賓 1 名（高知県上海事務所西川所長）、本学関係者 8 名の計 42 名が参加しました。第一部では、本学の菊地副学長及び上海海洋大学鐘教授の挨拶、本学の木下教授による講演が行われました。第二部では、同窓会会則の改定、同窓会役員の選出や出席者全員による自己紹介や近況報告があり、盛大に懇親会が行われ、相互交流を深めました。

2009 年に設立された高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）は、今回、中国全土の高知大学帰国留学生を対象とし、名称も「高知大学帰国留学生ネットワーク（中国）」と改称しました。今後、引き続き、対象者の情報収集に努め、同窓会会員名簿の作成に取り組むたいと上海海洋大学教授鐘会長からお話をいただき、本学としても今後継続して新しい卒業生の情報提供をしていく予定です。



講演会の様子



記念写真

【高知大学帰国留学生ネットワーク（北欧）プレミーティング】平成 25 年 3 月 4 日（月）

イエーテボリ大学（スウェーデン）において、高知大学帰国留学生ネットワーク（北欧地区）を立ち上げるためのプレミーティングを開催しました。帰国留学生 5 名および留学中の高知大学の学生の他、イエーテボリ大学教職員 2 名、本学関係教職員・学生 8 名の計 16 名が参加しました。会では北欧地区にて高知大学帰国留学生ネットワークを立ち上げるための意見交換が行われ、Facebook を活用してネットワーク活動を行っていくことが決定されました。その後出席者全員による自己紹介や近況報告が行われ、相互交流を深めることができました。



記念写真

1 日本語教育

【国際・地域連携センター国際連携部門日本語教育関係】

留学生支援関係における活動の目的は、本学の留学生に対して、日本語・日本文化の教育、修学上・生活上の指導助言、ならびにそのための調査研究を行うことです。本部門の前身である留学生センターは学内共同施設として2003年4月に設置されました。日本文化と諸外国の文化の交流と知識・経験共有のために、学内の教育、研究の国際化・情報化に向けての支援活動、ならびに地域における中核的な大学として地域の国際化への支援活動を目的としています。また、日本人学生の海外派遣についても、海外協定校への交換留学制度を中心に情報提供やアドバイスを実施しています。

【活動の概要】

◎教育

日本語集中コース（日本語予備教育）

文部科学省国費留学生（研究留学生等）を対象に、大学院へ進学するために必要な日本語教育を6ヶ月間集中的に行います。

日本語・日本文化研修留学生教育

日本語・日本文化研修留学生に対して、日本語科目の授業を行います。

日本語総合コース（日本語課外補講）

高知大学に在籍する全留学生を対象に、課外補講として日本語を教えています。受講者のニーズやレベルに応じたクラスを朝倉・物部・岡豊の3キャンパスで開講しています。

◎相談

留学生に対する指導・助言

留学生の修学・生活上の問題について指導・助言を行います。

留学情報提供・助言

海外留学を希望する学生に対して、情報提供や相談などの支援を行います。

◎交流

日本人学生によるチューター制度の導入、入学時のガイダンスによる修学上・生活面で指導、カウンセラーの配置等、留学生がより充実した留学生活を送れるようサポートを行うと同時に学生間の交流も積極的に促進しています。

実地見学旅行

高知県近隣の風土や文化を生で感じ理解してもらう目的で、毎年留学生を対象とした実地見学旅行を企画しています。

地域社会との交流

地域の国際交流団体・ボランティアグループの協力や地域の人々との連携により、積極的に留学生が参加できる地域独自の行事を企画・実施しています。

◎調査研究・教材開発

国際連携部門の教育・交流・相談に関する調査研究及び教材開発を行います。研究の成果は、毎年年度末に発行される『高知大学留学生教育』に発表されます。

1 日本語集中コース(日本語予備教育)

I. 授業の概要

大使館推薦の文部科学省国費留学生のためのコースです。4月第2週から始まり、週15コマ(30時間)の授業が15週間行われます。授業内容は「基礎文法」と「聴解・会話」に分かれています。全体の構成は「基礎文法」10コマ、「初級漢字・語彙」2コマ、「聴解・会話」2コマ、「初級作文」1コマです。

II. 授業レベルについて

初めて日本語を学習する学習者を対象とし、日本語の基本的な「話す、聞く、書く、読む」の4技能の習得と大学院での研究及び日常生活に必要な日本語の運用能力の習得を目指します。また、日本で生活していく上で必要な日本に関する知識を習得します。本コースの到達目標は、日本語能力試験N4レベルです。

III. クラス内容

授業科目	授業内容	テキスト
基礎文法	日本語学習の経験のない学習者を対象に、ひらがな・カタカナ五十音の読み書きと、日本語の実用的な日常会話と基本表現および生活必須語彙を、場面に即して実践的に習得する。日本語能力試験N4レベルの会話、聴解能力を目指す。	『日本語かな入門』 『みんなの日本語初級I・II本冊』 『みんなの日本語初級I・II翻訳・文法解説 英語版』 『みんなの日本語初級I・II書いて覚える文型練習帳』 『みんなの日本語初級I・II練習C・会話イラスト集』 『みんなの日本語初級I・II導入・練習イラスト集』
初級漢字・語彙	入門レベルの学習者を対象とし、初級レベルの漢字・語彙能力の向上を目指し、150字程度の漢字とそれに関連する語彙を、文レベルの練習を通して学習する。	『BASIC KANJI BOOK vol.1』
初級聴解・会話	入門レベルの学習者を対象とし、入門から初級レベルまでの総合的な日本語を学習する。日本語によるコミュニケーション能力の習得を目指す。	『みんなの日本語初級I・II 聴解タスク25』 『書いて覚える文型練習帳I・II』 『みんなの日本語初級I・II 標準問題集』
初級作文	入門レベルの学習者を対象とし、入門から初級レベルまでの総合的な日本語を学習する。日本語による読解及び作文能力の向上を目指す。	『みんなの日本語初級 やさしい作文』 『絵入り日本語作文入門』 『みんなの日本語初級I・II 初級で読めるトピック25』

IV. 時間割

時限 \ 曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 (09:00 ~ 10:30)	基礎文法 (神崎道太郎)	基礎文法 (今井多衣子)	基礎文法 (池 純子)	基礎文法 (神崎 道太郎)	基礎文法 (大塚 薫)
2 (10:40 ~ 12:10)	基礎文法 (神崎道太郎)	基礎文法 (今井多衣子)	基礎文法 (池 純子)	基礎文法 (神崎 道太郎)	基礎文法 (大塚 薫)
3 (13:10 ~ 14:40)	漢字・語彙 (吉田 鈴香)	聴解・会話 (林 翠芳)	作文 (尾中美代子)	聴解・会話 (石川 啓子)	漢字・語彙 (吉田 鈴香)
4 (14:50 ~ 16:20)					
5 (16:30 ~ 18:00)					

2 日本語総合コース(日本語課外補講)

【2012年度第1学期時間割】

時限	キャンパス	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 (09:00 ~ 10:30)	朝倉					
	物部					
	岡豊					
2 (10:40 ~ 12:10)	朝倉	初中級文型 (王 永東)				
	物部		初級Ⅱ (大塚 薫)		初級Ⅱ (林 翠芳)	
	岡豊					
3 (13:10 ~ 14:40)	朝倉		中漢字・語彙Ⅱ (石川啓子)	中級作文 (神崎道太郎)	アカデミック日本語Ⅰ (大塚 薫)	中級聴解・会話Ⅱ (尾中美代子)
	物部		初級Ⅳ (大塚 薫)		初級Ⅳ (林 翠芳)	初中級聴解・会話 (今井多衣子)
	岡豊					
4 (14:50 ~ 16:20)	朝倉					
	物部					
	岡豊					
5 (16:30 ~ 18:00)	朝倉					
	物部					
	岡豊			日本語初級・日本事情 (東條美紀)		

* 岡豊キャンパス夏季集中講座「サバイバル日本語講座」(東條美紀)開講

<朝倉キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学朝倉キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースです。4月第2週から始まり、プレースメントテストを受けた受講生を対象とします。科目名は中級レベル対象の「初中級文型」、「中級漢字・語彙Ⅱ」、「中級作文」、「中級聴解・会話Ⅱ」、中上級レベル対象の「アカデミック日本語Ⅰ」です。

II. 授業レベルについて

中級レベルは、初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの4技能の実力アップを図ります。到達目標は日本語能力試験N2レベルです。中上級レベルは、日本語能力試験N2レベルの学生を対象とし、上級レベルへの4技能の実力アップを図り、到達目標は日本語能力試験N1レベルです。

III. クラス内容

授業科目	授業内容	テキスト
初中級文型	初級日本語を確実なものとし、徐々に中級文法や語彙を獲得しながら中級学習への橋渡しをする。	『どんどん使える!日本語文型トレーニング』
中級漢字・語彙Ⅱ	同じ部分のある漢字や難しい訓読みなど漢字と漢字で書く言葉(約2,300語)を学習する。	ハンドアウト
中級作文	さまざまな機能表現を学ぶと同時に、短文から段落作成、体験報告などの一般文章の作成、そして資料を利用したレポートの書き方へと文章構成を段階的なトレーニングで論理的な日本語が書けるようになることを目指す。	ハンドアウト
中級聴解・会話Ⅱ	日々のニュースの中から選ばれたトピックを聞き、タイムリーな話題を理解する。また意見交換を通じて会話能力を高める。	ハンドアウト等 (主にNHK「手話ニュース」から題材を取り上げる)
アカデミック日本語Ⅰ	初中級で学習した文法の運用能力を高め、日本語の4技能「話す・聞く・読む・書く」の養成を目指す。	『中・上級者のための速読の日本語』 『ニュースで増やす上級への語彙・表現』 『ニュースで学ぶ日本語パートⅡ』

<物部キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学物部キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースです。4月第2週から始まり、日本語初級前半を習得している学習者を対象とする「初級Ⅱ」、日本語初級を修了した学習者を対象とする「初級Ⅳ」を週2コマずつ設けます。また、既習者で初中級レベルの学生を対象とした「初中級聴解・会話」を週1コマ開講します。

II. 授業レベルについて

「初級Ⅱ」は日本語初級前半を学習している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指します。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルです。

「初級Ⅳ」は日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指します。到達目標は日本語能力試験 N4 レベルです。

「初中級聴解・会話」は、初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの聴解・会話能力の向上を図ります。到達目標は日本語能力試験 N3 レベルです。

III. クラス内容

授業科目	授業内容	テキスト
初級Ⅱ	初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。	『みんなの日本語初級Ⅰ 本冊第14課～第25課』 『みんなの日本語初級Ⅰ 翻訳・文法解説』
初級Ⅳ	初級後半の学習半ばの学習者に対し、引き続き初級の日本語学習を行う。初級後半の基本的な文型・文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。	『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊第37課～第50課』 『みんなの日本語初級Ⅱ 翻訳・文法解説』
初中級聴解・会話	初級の学習を終えた学習者に対し、初中級の日本語学習を行う。日常的な日本語表現を聴き取り、必要な情報を得て、適切な会話ができるようになる。	『初級からの日本語スピーチ—国・社会・文化についてまとまった話をするために—』

<岡豊キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学岡豊キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースです。「日本語初級・日本事情」を週1コマ設け、4月第2週から15週間開講します。また、「サバイバル日本語講座」を短期交換留学生を対象として8月末に5日間15コマ実施します。

II. 授業レベルについて

「日本語初級・日本事情」は、初級レベルの学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指します。原則として留学生がいつ参加しても授業に主体性をもってかかわれる内容とします。

「サバイバル日本語講座」は、渡日直後で日本の生活に慣れていない短期交換留学生を対象とし、高知県での生活環境に慣れ、今後生活していく上での様々な情報を習得し、地域の人々とも円満な関係を築けるようになることを目指します。

III. クラス内容

授業科目	授業内容	テキスト
日本語初級・日本事情	初級レベルの日本語を使ってコミュニケーションをとる楽しさを日本事情（日本の歌、坂本龍馬、黒潮町入野海岸砂浜美術館研修ツアー、茶道・折り紙体験等を含む）や相互文化理解を通して学習する。	『語学留学生のための日本語Ⅰ』

サバイバル 日本語講座	① ひらがな ② 日本語で簡単な挨拶と自己紹介 ③ 日常会話 ④ 生活習慣の理解	『Kochi Medical School's Survival Japanese Course 2011』
----------------	---	---

【2012 年度第 2 学期時間割】

時限	キャンパス	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 (09:00 ~ 10:30)	朝倉		中級聴解・会話 (池 純子)			
	物部					
	岡豊					
2 (10:40 ~ 12:10)	朝倉	初中級文法 (王 永東)		中級読解 (神崎道太郎)	アカデミック日本語Ⅱ (林 翠芳)	中級漢字・語彙 (吉田鈴香)
	物部	初級Ⅲ (林翠芳)	初級Ⅰ (石川啓子)		初級Ⅰ (大塚 薫)	
	岡豊					
3 (13:10 ~ 14:40)	朝倉			初中級会話 (今井多衣子)		
	物部	初中級聴解・会話 (林翠芳)	日本事情 (東條美紀・今井多衣子)		初級Ⅲ (大塚 薫)	
	岡豊					
4 (14:50 ~ 16:20)	朝倉					
	物部					
	岡豊					
5 (16:30 ~ 18:00)	朝倉					
	物部					
	岡豊			日本語初級・日本事情 (東條美紀)		日本語初中級 (東條美紀)

<朝倉キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学朝倉キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースです。10月第1週から始まり、プレースメントテストを受けた受講生を対象とします。既習者で中級レベルの学生を対象とした「初中級会話」、「初中級文法」、「中級読解」、「中級聴解・会話」、「中級漢字・語彙」、中上級レベルの学生を対象とする「アカデミック日本語Ⅱ」を設けます。

II. 授業レベルについて

中級レベルは、初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの4技能の実力アップを図ります。到達目標は日本語能力試験 N2 レベルです。中上級レベルは、日本語能力試験 N2 レベルの学生を対象とし、上級レベルへの4技能の実力アップを図り、到達目標は日本語能力試験 N1 レベルです。

III. クラス内容

授業科目	授業内容	テキスト
初中級会話	初級日本語を確実にものとし、徐々に中級文法や語彙を獲得しながら中級学習への橋渡しをする。受講生の興味によって、取り上げるトピックを決定する。	『いつかどこかで』
初中級文法	初級日本語を確実にものとし、徐々に中級文法や語彙を獲得しながら中級学習への橋渡しをする。	『初級日本語文法総まとめポイント 20』

中級読解	中級レベルの学習者を対象とし、文章全体の構造を考えながら分析的に読む練習を行い、読む能力と語彙力の養成を目指す。	ハンドアウト
中級聴解・会話	会話場面におけるリスニング能力を高め、場面に応じて適切に話す能力を身につける。	『会話に挑戦 中級前期からの日本語ロールプレイ』
中級漢字・語彙	漢字（約300字）と漢字で書く言葉（500語）を学習する。漢字のどのようなところに注目すれば新しい漢字や新しい言葉を覚えやすくなるのかが分かるような能力を身につける。	ハンドアウト
アカデミック 日本語Ⅱ	大学の講義・演習をこなすための日本語能力を習得するとともに、学生生活を送る上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、考える力を養い、「スピーチ」、「討論」などの発信型スキルを伸ばす	『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』

＜物部キャンパス＞

I. 授業の概要

高知大学物部キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースです。10月第1週から始まり、日本語未習者を対象とする「初級Ⅰ」、日本語初級前半を習得している学習者を対象とする「初級Ⅲ」、既習者で中級レベルの学生を対象とした「初中級聴解・会話」、2012年に来日した学生を対象とする「日本事情」を設けます。「初級Ⅰ」、「初級Ⅲ」は週2コマ、「初中級聴解・会話」、「日本事情」は週1コマです。

II. 授業レベルについて

「初級Ⅰ」は初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指します。到達目標は日本語能力試験N5レベルです。

「初級Ⅲ」は日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指します。到達目標は日本語能力試験N4レベルです。

「初中級聴解・会話」は、初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの聴解・会話能力の向上を図ります。到達目標は日本語能力試験N3レベルです。

「日本事情」は、日本の生活に慣れていない学生を対象とし、高知県での生活環境に慣れ、今後生活していく上での様々な情報を習得し、地域の人々とも円満な関係を築けるようになることを目指します。

III. クラス内容

授業科目	授業内容	テキスト
初級Ⅰ	①ひらがな、カタカナの読み、書き ②動詞のフォームを使った基本的な文型 ③生活必須語彙・表現	『みんなの日本語初級Ⅰ本冊第1課～第13課』 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』
初級Ⅲ	初級前半の学習半ばの学習者に対し、引き続き初級の日本語学習を行う。初級前半から後半にかけての基本的な文型・文法項目の学習により、日常生活に必要な最低限の会話力の養成を目指す。	『みんなの日本語初級Ⅱ本冊第26課～第37課』 『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』
初中級聴解・会話	日常よく接する場面における会話の聞き取り能力を高めること、また、そういった場面で話をする能力がつくことを目標とする。	『日本語生中継 初中級篇1』

日本事情	高知県及び高知市、南国市(日本)での生活環境に慣れ、これから数年間生活していく上でのいろいろな情報を得て、地域の人々とも円満な関係を築けるようになること。 ① オリエンテーション、自己紹介 ② 高知情報と大学一日公開日の準備 ③ 大学一日公開日「日本語カフェ」での日本語実習 ④ 高知市へ行き、日本人と待ち合わせ ⑤ 日本の年間伝統行事と年賀状 ⑥ 日本の正月体験 ⑦ 日本事情の感想と各国事情の比較	ハンドアウト
------	---	--------

<岡豊キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学岡豊キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースです。「日本語初級・日本事情」、「日本語初中級」を週1コマずつ設け、2012年10月第1週から2013年1月まで15週間開講します。

II. 授業レベルについて

「日本語初級・日本事情」は、初級レベルの学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指します。原則として留学生がいつ参加しても授業に主体性をもってかかわれる内容とします。

「日本語初中級」は、初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの4技能の実力アップを図ります。到達目標は日本語能力試験N3レベルです。

III. クラス内容

授業科目	授業内容	テキスト
日本語初級・日本事情	初級レベルの日本語を使ってコミュニケーションをとる楽しさを日本事情や相互文化理解をとおして学習する。	『にほんご これだけ!』
日本語中級	自然な話ことばのスタイルがわかる。まとまった文章を読み、日本の社会と文化を知る。	『日本語中級からのスキルバランス』 自主教材

2 留学生支援事業（「アジア人財資金構想」高度実践留學生育成事業自立化後）

平成 19 年度から実施してきた日本企業への就職を希望する留學生に留學生育成プログラムを実施することにより、企業の求めるグローバル人材の育成と留學生の円滑な就職を支援する「アジア人財資金構想」高度実践留學生育成事業について、事業終了後も得られたノウハウや人的ネットワークを活かし、グローバル人材の育成に努めていくために、次の事業を実施しました。

○平成 24 年度高知地域連絡会

平成 24 年 11 月 22 日（木）13:15～（人文学部棟第 4 会議室）

「アジア人財資金構想」高度実践留學生育成事業を高知地域において効果的かつ円滑に推進するために、各関係機関の協力・連携を図る場として設置された高知地域連絡会を本年度においても引き続き実施し、事業で構築されたネットワークの維持及び情報交換等を行いました。

概要：高知大学からは平成 22 年度生 2 名（平成 24 年 3 月卒業）が高知県内企業に就職したこと等の進捗状況が報告されました。各団体・機関（高知県、高知県商工会議所連合会、高知県中小企業団体中央会、高知県工業会、日本貿易振興機構高知貿易情報センター等）からも現況報告され、意見・情報交換等が行われました。（参加者 25 名）

○シンポジウム「アジア人財資金構想からグローバル人材構想へ」

平成 24 年 11 月 22 日（木）14:25～（人文学部棟第 1 会議室）

概要：話題提供者による土佐さきがけプログラム国際人材育成コースの報告やコースの学生による質疑・討論等が行われました。（参加者 40 名）

○平成 24 年度留學生支援事業四国推進連絡会

平成 24 年 11 月 22 日（木）15:35～（人文学部棟第 4 会議室）

自立化後も、各大学を中心に「アジア人財資金構想」高度実践留學生育成事業「四国発グローバル人材創出を目指した留學生支援プログラム」で培った産学官連携による外国人留學生支援の仕組みを各地域に残すとともに、各地域間のネットワークを維持するための情報交換等の場として設けられた留學生支援事業四国推進連絡会（当番大学：高知大学）を行いました。

概要：各地域の参加大学（徳島大学、香川大学、愛媛大学、松山大学、高知大学）から、自立化後の取組状況について報告があり、質疑応答を行いました。また、四国経済産業局から、留學生の就職支援方法と企業の採用動向及び「アジア人財資金構想」に関するアンケート結果（四国分）について情報提供がありました。（参加者 27 名）



高知地域連絡会



シンポジウム



留學生支援事業四国推進連絡会

3 高知大学における国際化・国際交流

国際化戦略経費の設置

本学の国際化を全学的・戦略的に推進することを目的として平成23年度より新設。下記の公募事業を実施。

(1) 「ネットワーク型教育研究プログラム」推進事業 4件

No	申請者等	プログラム名
1	総合科学系 地域協働教育学部門 准教授 大槻知史	コミュニティ防災・再生における自律協働型人材育成国際教育拠点プログラム
2	農学部長 石川 勝美	6大学コンソーシアム(SUIJI)による「日本/インドネシアにおける今後の農林水産業のあり方」についての学生フォーラムと熱帯農業の体験プログラム
3	総合科学系 黒潮圏科学部門長 飯國 芳明	黒潮圏S状帯における持続型社会構築のためのネットワーク育成
4	農学部長 石川 勝美	拡大アジア・フィールド・サイエンス・ネットワークを基盤とした海外フィールドサイエンス実習の発展

(2) 「国際交流活動支援」事業 5件

No	申請部局	大学名
1	理学部	タマサート大学科学技術学部(タイ王国)
2	理学部	パドバ大学理学部(イタリア共和国)
3	農学部	マレーシアプトラ大学(マレーシア)
4	農学部	国立嘉義大学(台湾)
5	農学部	陝西科技大学(中華人民共和国)

国際交流基金助成事業

<高知大学国際交流基金とは>

本学における組織的で特色ある国際交流活動を支援

<目標>

本学の基本目標である「先端的で国際的な教育研究拠点の形成」及び「アジア・太平洋地域を中心とした発展途上国との教育研究協力活動を通じて世界の文化の発展に貢献」の実現に寄与する。

平成24年度国際交流基金助成事業採択一覧

1. 外国人留学生への奨学事業

①一般型

学部等	申請者氏名	留学生国籍
人文学部	肖 紅燕	中華人民共和国
	鈴木 啓之	中華人民共和国
理学部	森 雄一郎	中華人民共和国
	高田 直樹	中華人民共和国
	加藤 治一	ベトナム
	森 雄一郎	中華人民共和国
農学部	森岡 克司	中華人民共和国
	宮崎 彰	中華人民共和国
総合人間自然科学研究科人文社会科学専攻	田村 安興	中華人民共和国

総合人間自然科学研究科人文社会科学専攻	田村 安興	中華人民共和国
総合人間自然科学研究科教育学専攻	遠藤 隆俊	中華人民共和国
総合人間自然科学研究科理学専攻	豊永 昌彦	中華人民共和国
	野間口 謙太郎	中華人民共和国
愛媛大学大学院連合農学研究科	島崎 一彦	バングラディッシュ
	關 伸吾	バングラディッシュ
小計		15名

②戦略型

学部等	申請者氏名	留学生国籍
理学部	砂永 毅	マレーシア
総合人間自然科学研究科人文社会科学専攻	中川 香代	中華人民共和国
総合人間自然科学研究科教育学専攻	谷口 雅基	中華人民共和国
	渡邊 春美	中華人民共和国
総合人間自然科学研究科農学専攻	村井 正之	ネパール
愛媛大学大学院連合農学研究科	村井 正之	パプアニューギニア
	松本 伸介	大韓民国
小計		7名

2. 外国へ留学する学生への奨学事業

申請者所属	申請者等	留学先
人文学部	周 雲喬	安徽大学(中華人民共和国)
	小澤 萬記	イエーテボリ大学(スウェーデン)
小計		2名

3. 大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業

申請者所属	申請者等	大学院生派遣先
自然科学系理学部門	橋本 善孝	アメリカ合衆国
自然科学系農学部門	島崎 一彦	オランダ王国
自然科学系理学部門	橋本 善孝	アメリカ合衆国
自然科学系農学部門	足立 真佐雄	大韓民国
自然科学系農学部門	市川 昌広	タイ王国
自然科学系理学部門	田部井 隆雄	アメリカ合衆国
小計		6名

合計	30名
----	-----

競争的資金 採択一覧

日本学術振興会（J S P S）外国人特別研究員（平成 24 年度採択分）

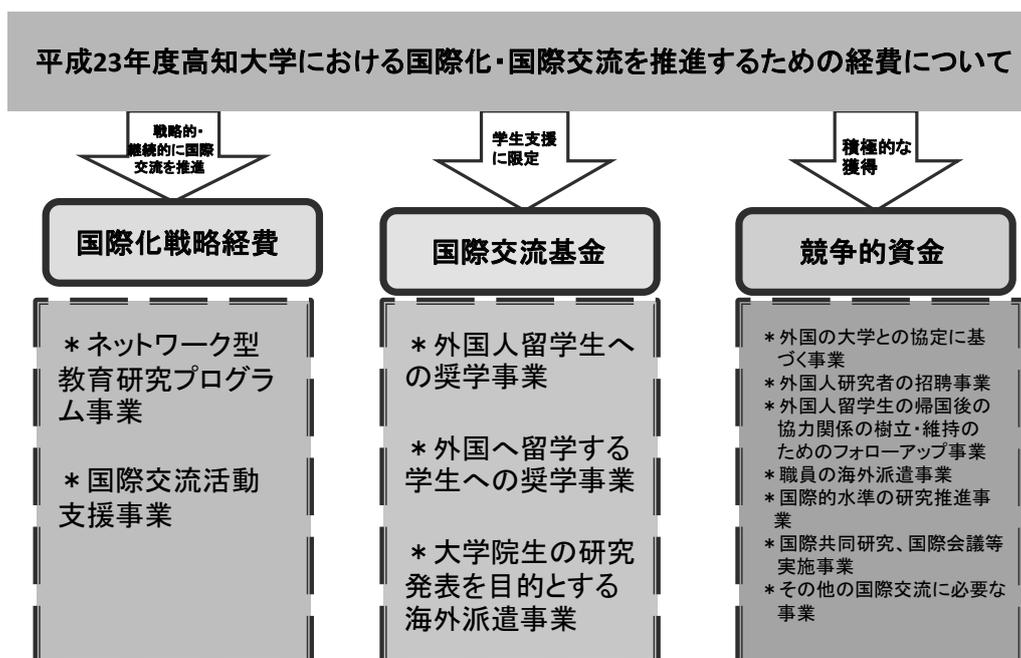
申請者所属	申請者等	研究課題
医学部	宇高 恵子	悪性腫瘍に関するペプチド免疫療法の開発
	菅沼 成文	職業性呼吸器疾患発症におけるセレンウムの役割
小計		2名

日本学術振興会（J S P S）二国間交流事業（平成 24 年度分）

申請者所属	申請者等	相手国等	研究課題
理学部	小槻 日吉三	フランス（C N R S）との共同研究	超高压条件下での多成分連結縮合反応の開発
小計			2名

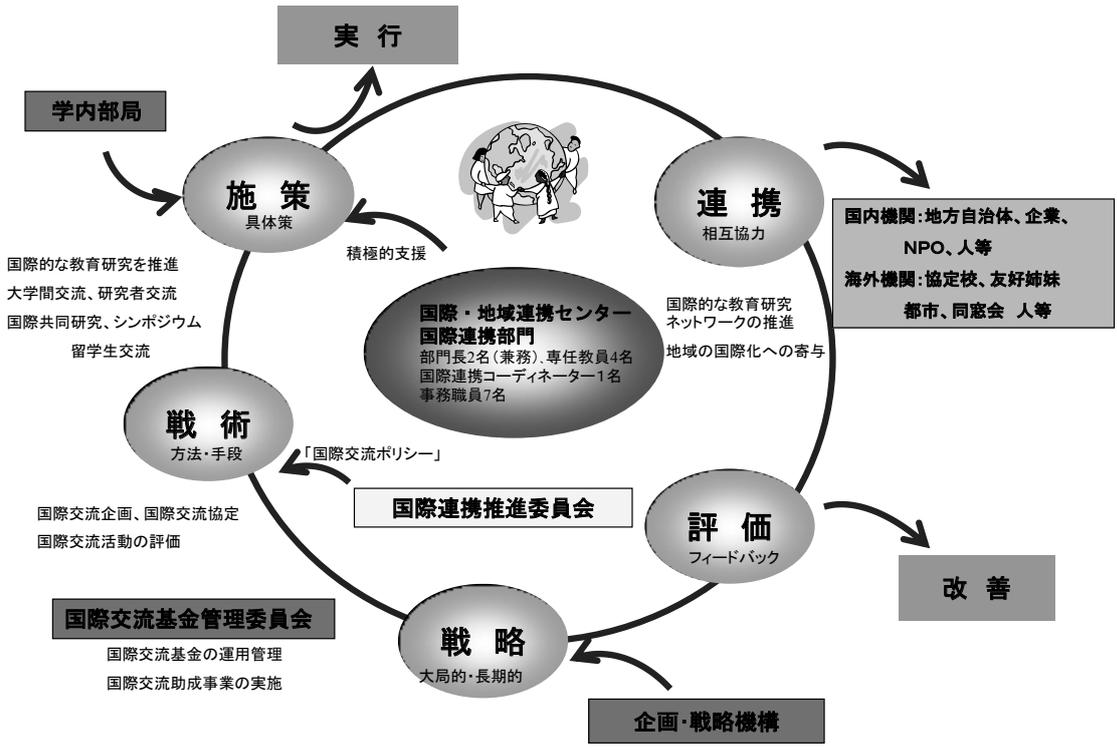
日本学術振興会（J S P S）論文博士号取得希望者に対する支援事業（平成 24 年度分）

申請者所属	申請者等	博士号取得希望者国籍
医学部	吾妻 健	インド
	吾妻 健	中華人民共和国
	吾妻 健	フィリピン
小計		3名



4 国際交流のスキーム及びポリシー

高知大学における国際交流活動のスキーム



高知大学における国際交流ポリシー

平成 18 年 4 月 12 日
役員会決定

高知大学は「地域の大学」として、国際交流を通じ教育研究活動を活性化すると共に、アジア・太平洋地域を始め、世界の国々、特に発展途上国との教育研究協力活動を推進します。これらの国々の大学と研究交流、学生交流活動を推進する中で、世界の文化の発展に貢献することを目標としています。この目標の達成のために、次の7つの原則を定めます。

1. 量と共に質の充実

従来、留学生を通じての交流や研究交流などの交流実績は、数によって評価されてきました。今後は、量の確保と共に質の充実を目指し、帰国元留学生のフォローアップとネットワーク化を進め、多国間交流の促進に努めます。

2. 個人ベースから組織ベースへ

従来は各部局の計画に基づいた交流を、個人単位の活動で支えていく傾向にありました。今後は、高知大学の国際戦略を明確にし、目的遂行にむけ全学的組織として取り組みます。

3. 分散から一元化へ

従来、国際交流の実務は個人、部局、国際・研究協力課等で行われてきました。今後は、限られた人的資源で最大限の効果をあげるため、国際交流部門の統括のもとに国際交流の一元的な実務体制を作り、実務を遂行します。

4. 横並びから重点化へ

従来は国際交流においても一般的に、資源を均等に配分する傾向にありました。しかし今後は、国際戦略に則って重要と思われる事業に資源を重点的に配分します。

5. ローカルな体制からグローバルな体制へ

国際交流に関して、それぞれの大学の制度や運営方法を可能な限り把握し、世界各国のそれぞれの大学と協調して、交流が容易となるように制度や運営方法等の体制を改めていきます。

6. 受入れ中心から相互交流へ

現在、本学から海外に留学する学生は少数に留まっています。学生の国際性を養うために、学内環境を整えて、海外へ留学・研修する学生の数を増やすことに努めます。

7. 国際交流促進のための企画力増強

国際交流推進のために大学としての企画力を増し、JICAなどの国際協力組織との積極的な連携を図ると共に、国際交流の推進に向けて資金獲得に努めていきます。

5 国際交流協定締結校・国際交流活動

大学間交流協定一覧表

平成24年4月1日現在

No.	大学名	国名	締結年月日	内容	中心部局
1	クイーンズランド大学	オーストラリア連邦	昭和55年10月1日	学生交流	国際・地域連携センター
			昭和55年11月7日	学術交流	
2	佳木斯大学	中華人民共和国	昭和60年10月22日	学術交流及び学生交流	医学部
3	カリフォルニア州立大学フレズノ校	アメリカ合衆国	平成元年4月1日	学術交流及び学生交流	国際・地域連携センター
4	陝西科技大学	中華人民共和国	平成6年7月26日	学術交流及び学生交流	理学部
5	揚州大学	中華人民共和国	平成9年3月10日	学術交流及び学生交流	農学部
6	コンケン大学	タイ王国	平成9年3月27日	学術交流及び学生交流	農学部
7	中国海洋大学	中華人民共和国	平成9年5月28日	学術交流及び学生交流	農学部
8	南ボヘミア大学	チェコ共和国	平成11年6月23日	学術交流及び学生交流	教育学部
9	チェコ科学アカデミー昆虫学研究所	チェコ共和国	平成11年6月24日	学術交流及び学生交流	教育学部
10	カセサート大学	タイ王国	平成12年5月1日	学術交流及び学生交流	農学部
11	徳成女子大学	大韓民国	平成12年12月18日	学術交流及び学生交流	人文学部
12	コウチ科学技術大学	インド	平成14年2月26日	学術交流及び学生交流	理学部
13	上海交通大学	中華人民共和国	平成14年3月28日	学術交流及び学生交流	農学部
14	安徽大学	中華人民共和国	平成14年5月21日	学術交流及び学生交流	教育学部
15	ハノイ科学工業大学(旧 ハノイ工科大学)	ベトナム社会主義共和国	平成14年7月2日	学術交流及び学生交流	農学部
16	ハノイ科学大学	ベトナム社会主義共和国	平成14年7月2日	学術交流及び学生交流	農学部
17	ブラビジャヤ大学	インドネシア共和国	平成15年2月28日	学術交流及び学生交流	人文学部
18	漢陽大学校	大韓民国	平成15年6月26日	学術交流及び学生交流	人文学部
19	韓瑞大学校	大韓民国	平成15年7月23日	学術交流及び学生交流	人文学部
20	国立ポリテク工科大学応用研究所, サルティジョ校	メキシコ合衆国	平成15年9月8日	学術交流及び学生交流	理学部
21	サルティジョ工科大学	メキシコ合衆国	平成15年9月9日	学術交流及び学生交流	理学部
22	ソウル社会福祉大学院大学校	大韓民国	平成15年9月21日	学術交流及び学生交流	教育学部
23	チェンデラワシ大学	インドネシア共和国	平成16年9月28日	学術交流及び学生交流	医学部
24	瀋陽薬科大学	中華人民共和国	平成17年5月12日	学術交流及び学生交流	農学部
25	フィリピン大学	フィリピン共和国	平成17年11月24日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
26	ハノイ教育大学	ベトナム社会主義共和国	平成18年1月6日	学術交流及び学生交流	農学部
27	イエーテボリ大学	スウェーデン王国	平成18年2月27日	学術交流及び学生交流	教育学部
28	ピコール大学	フィリピン共和国	平成18年3月31日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
29	河南大学	中華人民共和国	平成18年4月10日	学術交流及び学生交流	教育学部
30	常州大学	中華人民共和国	平成18年12月20日	学術交流及び学生交流	理学部
31	天津師範大学	中華人民共和国	平成18年12月28日	学術交流及び学生交流	教育学部
32	ボゴール農業大学	インドネシア共和国	平成19年3月1日	学術交流及び学生交流	農学部
33	マレーシアプトラ大学	マレーシア	平成19年5月18日	学術交流及び学生交流	農学部
34	国立中山大学	台湾	平成19年5月14日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
35	東海大学	台湾	平成19年10月18日	学術交流及び学生交流	教育学部
36	スリウィジャヤ大学	インドネシア共和国	平成20年3月11日	学術交流及び学生交流	農学部
37	金剛大学校	大韓民国	平成20年12月9日	学術交流及び学生交流	人文学部
38	南京航空航天大学	中華人民共和国	平成21年11月12日	学術交流及び学生交流	理学部
39	マレーシアサラワク大学	マレーシア	平成21年11月24日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
40	ハルオレオ大学	インドネシア共和国	平成21年12月16日	学術交流及び学生交流	農学部
41	中国文化大学	台湾	平成22年1月10日	学術交流及び学生交流	農学部
42	タンジュンブラ大学	インドネシア共和国	平成22年2月1日	学術交流及び学生交流	黒潮圏
43	白石大学校(旧天安大学校)	大韓民国	平成22年3月25日	学術交流及び学生交流	人文学部
44	上海海洋大学	中華人民共和国	平成22年10月15日	学術交流及び学生交流	農学部
45	カンボジア工科大学	カンボジア王国	平成23年9月9日	学術交流及び学生交流	農学部
46	国立嘉義大学	台湾	平成24年1月19日	学術交流及び学生交流	農学部
47	南マットグロッソ連邦大学	ブラジル連邦共和国	平成24年3月13日	学術交流	医学部

部局間交流協定一覧表

No.	大学名	国名	締結年月日	内容	担当部局
1	ラ・パス大学理学部	ボリビア共和国	平成4年9月9日	学術交流	理学部
2	タイ 農林水産省水産庁	タイ王国	平成13年11月26日	学術交流	農学部
3	首都医科大学口腔医学院	中華人民共和国	平成16年10月28日	学術交流及び学生交流	医学部
4	インドネシア科学技術省技術評価応用庁	インドネシア共和国	平成18年11月28日	学術交流	農学部
5	釜山外国語大学校日本語大学	大韓民国	平成19年3月8日	学術交流及び学生交流	人文学部
6	フィリピン農業省漁業・水産資源局第2地域支所	フィリピン共和国	平成19年8月24日	学術交流	黒潮圏
7	韓国地質資源研究院石油海洋資源部	大韓民国	平成19年8月8日	学術交流及び学生交流	海洋コア
8	東国大学校文科大学	大韓民国	平成20年2月12日	学術交流及び学生交流	人文学部 教育学部
9	ハバナ大学海洋研究所	キューバ共和国	平成20年3月24日	学術交流	黒潮圏
10	天津科技大学経済与管理学院	中華人民共和国	平成20年4月4日	学術交流	人文学部
11	中央研究院地球科学研究所	台湾	平成20年6月18日	学術交流及び学生交流	海洋コア
12	ロモノソフ初等中等高等学校	ベトナム社会主義共和国	平成20年12月1日	学術交流及び学生交流	教育学部
13	国立忠北大学校農業生命環境大学	大韓民国	平成21年6月18日	学術交流及び学生交流	農学部
14	中国科学院地球環境研究所	中華人民共和国	平成21年9月29日	学術交流及び学生交流	海洋コア
15	国立慶尚大学校農業生命科学大学	大韓民国	平成22年1月9日	学術交流及び学生交流	農学部
16	バドバ大学理学部	イタリア共和国	平成22年1月20日	学術交流及び学生交流	理学部
17	ハワイ大学医学部	アメリカ合衆国	平成22年2月10日	学術交流及び学生交流	医学部
18	モナッシュ大学グリーンケミストリー研究センター	オーストラリア連邦	平成22年8月9日	学術交流及び学生交流	理学部
19	タマサート大学科学技術学部	タイ王国	平成22年9月6日	学術交流及び学生交流	理学部
20	スウェーデン王国オイレシヨー特別学校	スウェーデン王国	平成23年2月15日	学術交流及び学生交流	教育学部
21	浙江大学生物系統工程及び食品科学学院	中華人民共和国	平成23年4月18日	学術交流及び学生交流	農学部
22	国立台湾大学医学部	台湾	平成23年10月11日	学術交流及び学生交流	医学部

2012 年度海外協定校交流実績一覧

派遣実績

国・地域名	オーストラリア	スウェーデン	中華人民 共和国	台湾	大韓民国				
協定校名	クイーンズラ ンド大学	イエーテボリ 大学	安徽 大学	東海 大学	白石 大学校	釜山外国 語大学校	金剛 大学校	東国 大学校	計
2012	1	3	1	2	1	1	2	1	12

受入れ実績

国・地域名	スウェーデン	中華人民共和国						台湾	大韓民国				タイ王国		
協定校名	イエーテボリ 大学	安徽 大学	佳木斯 大学	常州 大学	天津師 範 大学	上海 海洋 大学	南京航 空航 天 大学	東海 大学	中国 文化 大学	白石 大学	釜山外国 語 大学	金剛 大学	東国 大学校	カセサー ト大学	計
2012	3	8	3	4	3	1	8	3	3	7	1	1	3	1	49

派遣に係る奨学金受給状況

奨学金名	支給団体名	採用人数
高知大学 国際交流基金	高知大学	3
留学生交流支援制度 (短期派遣)	日本学生支援機構	1

受入れに係る奨学金受給状況

奨学金名	支給団体名	採用人数
留学生交流支援制度 (短期受入れ)	日本学生支援機構	1

平成24年度留学生交流支援制度(ショートステイ、ショートビジット)採択一覧

プログラム名	担当者	区分	参加学生数	
			SS	SV
「コミュニティ再生・防災」を担う 自立協働型人材育成国際教育ネットワーク事業～高知大学「グローバルな ローカル大学への挑戦」2012	大槻 知史	SS&SV	4	4

留学生数

平成 24 年 5 月 1 日現在

項目 国名・地域名		国費						私費						計		合計						
		学部		修士		博士		研究生等		学部		修士		博士			研究生等					
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女				
アジア	インドネシア					1			1	1	1	1			1			5	2	4	6	
	スリランカ					1			1												1	1
	タイ					1			1				3					3	3	1	4	
	韓国					1		1	1				1		3	4	11	9	4	13		
	中国			2			2			4	13	17	5	12	2	2	8	8	67	30	41	71
	台湾									4					2		4	1	7	4	3	7
	ネパール												1					1	1		1	1
	パキスタン													1				1			1	1
	バングラデシュ			1		2				3				1	3	2		6	6	3	9	
	フィリピン				1					1						1		1			2	2
	ベトナム						1			1	2	1	1	1	1			6	4	3	7	
	マレーシア			1						1		3						3	1	3	4	
	モンゴル										1							1	1		1	1
	ラオス					1				1										1		1
ヨーロッパ	スウェーデン															1		1	1		1	
アフリカ	エチオピア						1		1										1		1	
	ガーナ				1				1											1	1	
	ケニア					1			1											1	1	
	コンゴ民主共和国														1			1	1		1	
オセアニア	サモア												1					1		1	1	
	ニュージーランド					1			1										1		1	
	パプアニューギニア														1			1	1		1	
中南米	アルゼンチン					1			1										1		1	
総計				4	2	7	6	2	21	20	22	8	19	12	6	16	13	116	69	68	137	
項目 所属		国費						私費						計		合計						
		学部		修士		博士		研究生等		学部		修士		博士			研究生等					
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女				
人文学部									7	12					6	4	29	13	16	29		
教育学部						1			2	3					9	5	19	12	8	20		
理学部									8	3						3	14	8	6	14		
医学部									1								1	1		1		
農学部									2	3							5	2	3	5		
土佐さがけプログラム										1							1		1	1		
総合人間自然科学研究科 人文社会科学専攻												2	4				6	2	4	6		
総合人間自然科学研究科 教育学専攻													7				7		7	7		
総合人間自然科学研究科 理学専攻						1		1			2	2					4	3	2	5		
総合人間自然科学研究科 医科学専攻													1			1	1	3	1	2	3	
総合人間自然科学研究科 看護学専攻													1				1		1	1		
総合人間自然科学研究科 医学専攻					2			2					3	2			5	5	2	7		
総合人間自然科学研究科 農学専攻			4	2				6			4	4					8	8	6	14		
愛媛大学大学院 連合農学研究科					5	6		11					8	3			11	13	9	22		
総合人間自然科学研究科 黒潮圏総合科学専攻														1	1		2	1	1	2		
総計				4	2	7	6	2	21	20	22	8	19	12	6	16	13	116	69	68	137	

資 料

高知大学国際・地域連携センター規則

平成17年7月1日

規則 第525号

最終改正 平成25年12月10日規則第57号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人高知大学組織規則第27条第2項の規定に基づき、高知大学国際・地域連携センター（以下「センター」という。）における組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、高知大学における教育研究の進展に寄与し、高知大学の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域との緊密な連携を推進することにより、地域における人材の育成、地域イノベーションの創出、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、地域の振興と維持・発展に資することを目的とする。また、アジア・太平洋地域を中心とした世界の国々との学術交流を通じた教育研究活動の活性化に資するとともに、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、積極的な支援等を行うことにより、国際社会への貢献及び地域の国際化に寄与することを目的とする。

(分室)

第3条 岡豊キャンパス及び物部キャンパスに、それぞれ岡豊分室及び物部分室を置く。

(組織)

第4条 センターに、運営戦略室、地域連携・再生部門、産学官連携部門、知的財産部門及び国際連携部門を置く。

2 センターに、国立大学改革強化推進補助金事業「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」の共同実施に関する協定書第2条に定める「四国産学官連携イノベーション共同推進機構（以下「四国共同機構」という。）の構築」事業に係るサテライトオフィス（以下「四国共同機構サテライトオフィス」という。）を置く。

3 地域連携・再生部門に、高知大学インサイド・コミュニティ・システム化事業を実施するための高知市地域、嶺北地域、物部川地域、安芸地域、仁淀川地域、高幡地域及び幡多地域サテライトオフィス（以下「KICSサテライトオフィス」という。）を置く。

4 地域連携・再生部門は、専任担当教員又は兼務教員で組織する。

5 産学官連携部門は、専任担当教員又は兼務教員で組織する。

6 知的財産部門は、専任担当教員又は兼務教員で組織する。

- 7 国際連携部門は、専任担当教員又は兼務教員で組織する。
- 8 四国共同機構サテライトオフィスは、四国共同機構アソシエイトで組織する。
- 9 K I C Sサテライトオフィスは、高知大学国際・地域連携センター地域コーディネーター（以下「U B C」という。）で組織する。

（業務）

第5条 センターは、役員会の意を受け、次の各号に掲げる業務を行なう。

(1) 地域連携・再生部門

- ア 地域との連携に係る企画立案及び推進に関すること。
- イ 地域のニーズに応じた地域貢献に関すること。
- ウ 地域の人材育成に関すること。
- エ 地域に係る学術研究調査の実施に関すること。
- オ 地域の諸活動に対する専門的支援に関すること。
- カ 地域における社会人教育・生涯教育に係る調査・研究に関すること。
- キ 公開講座開設及び大学教育開放事業の実施に関すること。
- ク 生涯学習に係る資料の収集、情報の提供及び相談に関すること。
- ケ その他地域連携・再生に関すること。

(2) 産学官連携部門

- ア 地域イノベーションの創出に係る企画立案及び推進に関すること。
- イ 企業、研究機関等との共同研究及び受託研究の受入れに関すること。
- ウ 企業、研究機関に対する学術情報の提供に関すること。
- エ 学内及び他大学との共同研究及び連携に関すること。
- オ 企業、研究機関等からの科学・技術相談に関すること。
- カ 企業、研究機関等の技術者に対する技術教育及び研修に関すること。
- キ その他産学官連携に関すること。

(3) 知的財産部門

- ア 知的財産に係る施策の策定に関すること。
- イ 知的財産に係る教育活動及び啓発活動の企画立案・実施に関すること。
- ウ 知的財産に係る情報収集及び広報に関すること。
- エ 知的財産の相談に関すること。
- オ 特許等の調査に関すること。
- カ 特許等の出願、権利化、維持に関すること。

- キ 知的財産の各種契約に関すること。
 - ク 知的財産の法務・紛争（訴訟を含む。）に関すること。
 - ケ 知的財産の活用に関すること。
 - コ 研究成果の技術移転に関すること。
 - サ その他知的財産に関すること。
- (4) 国際連携部門
- ア 国際交流に係る企画・立案及び実施に関すること。
 - イ 国際交流に係る情報、資料の収集及び情報の提供に関すること。
 - ウ 外国の大学等との交流協定の締結及び交流推進に関すること。
 - エ 地域の国際化の推進に関すること。
 - オ 国際交流に係る競争的資金の獲得に関すること。
 - カ 国際交流の評価に関すること。
 - キ 留学生の受入れに関すること。
 - ク 留学生に対する日本語及び日本事情等の教育に関すること。
 - ケ 留学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること。
 - コ 留学希望者の支援に関すること。
 - サ その他国際交流・連携推進に関すること。
- (5) 四国共同機構サテライトオフィス
- ア 四国共同機構に関すること。
- (6) K I C Sサテライトオフィス
- ア 高知大学インサイド・コミュニティ・システム化事業に関すること。

(職員)

第6条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 分室長
- (3) 専任担当教員
- (4) 四国共同機構アソシエイト
- (5) U B C
- (6) 兼務教員
- (7) その他必要な職員

2 センターの教員人事については、センター長は、欠員補充の可否を学長に協議した上

で、高知大学センター連絡調整会議の議を経て、発議を行うものとする。

(センター長)

第7条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 センター長は、学長が指名する。

3 センター長の任期は、当分の間、学長が定める。

(分室長)

第8条 分室長は、センター長の下に各キャンパスの業務を掌理する。

2 分室長は、センター長の推薦により、学長が任命する。

(副センター長)

第9条 センターには、必要に応じて副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、センター長が指名する。

(部門長)

第10条 センターの各部門に、部門長を置く。

2 部門長は、センター長の職務を助け、部門の業務を統括する。

3 部門長は、部門所属の教員からセンター長が指名する。

(専任担当教員及び兼務教員)

第11条 専任担当教員及び兼務教員は、部門長の職務を助け、センターの業務を処理する。

(四国共同機構アソシエイト)

第12条 四国共同機構アソシエイトは、センター長の業務を助け、四国共同機構サテライトオフィスの業務を処理する。

2 四国共同機構アソシエイトは、本学職員から学長が指名する。

(U B C)

第13条 U B Cは、K I C Sサテライトオフィスの業務を処理する。

(高知大学国際連携推進委員会)

第14条 センターに、本学における国際交流に関する事項を審議するため、高知大学国際連携推進委員会を置く。

2 高知大学国際連携推進委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第15条 センターの事務は、研究国際部地域連携課において処理する。

(雑則)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成17年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月12日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則（平成18年7月12日規則第18号）

この規則は、平成18年7月12日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則（平成20年3月26日規則第127号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成22年3月31日規則第124号）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成23年3月24日規則第88号）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年6月28日規則第11号）

この規則は、平成23年7月1日から施行する。

附 則（平成24年12月28日規則第50号）

この規則は、平成25年1月1日から施行する。

附 則（平成25年9月3日規則第37号）

この規則は、平成25年10月1日から施行する。

附 則（平成25年12月10日規則第57号）

この規則は、平成25年12月10日から施行し、平成25年12月1日から適用する。

○ 高知大学国際・地域連携センター 職員等（平成24年度）

国際・地域連携センター

- ・副学長 センター長 受田 浩之 兼務
- ・ 副センター長 石塚 悟史 兼務
- ・岡豊分室長 山本 哲也 兼務
- ・物部分室長 藤原 拓 兼務
- ・地域連携課長 須藤 晴夫
- ・同 課長補佐 小松 俊彦

《地域連携・再生部門》

- ・部門長 特任講師 吉用 武史
- ・地域連携・再生係
係 長 立花 裕
- 事務職員 菊川 祐輔

《産学官連携部門》

- ・部門長 准教授 石塚 悟史
- ・ 客員教授 兵頭 正洋
- ・産学官連携係（総務担当）
係 長 伊藤 誠彦
- 主 任 知名 桂
- 事務補佐員 市川 幸
- ・土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業
特任教授 沢村 正義
- 特任教授 樋口 慶郎
- 特任教授 浜口 忠信
- 特任講師 吉金 優
- 事務補佐員 坂本 香織
- 教務補佐員 高田 順子

《知的財産部門》

- ・部門長 副学長 受田 浩之 兼務
- ・ 客員教授 兵頭 正洋
- ・知的財産係
係 長 武内 智之
- 事務職員 野上 紗代

《国際連携部門》

- ・部門長 教授 菊地るみ子 兼務
- ・部門長 教授 谷口 雅基 兼務
- ・ 准教授 神崎道太郎
- ・ 准教授 林 翠芳
- ・ 准教授 大塚 薫
- ・ 助教 GARCIA DEL SAZ EVA
- ・ 特任教授 菊地 智徳
- ・ 客員講師 王 永東
- ・ 客員助教 井上 智子
- ・国際連携室
室 長 北岡由三子
- 専門職員 都築 正子
- ・国際連携係
係 長 山本 禎司
- 係 員 吉本 昌代
- 係 員 溝渕 菜美
- 事務補佐員 岩郷 晴美

○ 高知大学国際・地域連携センター 職員等 (平成 25 年度)

国際・地域連携センター

- ・副学長 センター長 受田 浩之 兼務
- ・ 副センター長 石塚 悟史 兼務
- ・岡豊分室長 山本 哲也 兼務
- ・物部分室長 藤原 拓 兼務
- ・地域連携課長 須藤 晴夫
- ・同 課長補佐 藤原 眞一
- ・国際交流課長 永野 秀美
- ・同 課長補佐 北岡 由三子

≪地域連携・再生部門≫

- ・部門長特任講師 吉用 武史
- ・特任講師 赤池 慎吾 (地域コーディネーター)
- ・特任助教 大崎 優 (地域コーディネーター)
- ・地域連携・再生係
- 係 長 立花 裕
- 事務職員 佐藤 宏之
- ・専門職員 (地域連携担当) 小島 真一

≪産学官連携部門≫

- ・部門長 准教授 石塚 悟史
- ・産学官連携係 (総務担当)
- 係 長 伊藤 誠彦
- 主 任 知名 桂
- 事務補佐員 市川 幸
- ・土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業
- 特任教授 沢村 正義
- 特任教授 樋口 慶郎
- 特任准教授 吉金 優
- 特任講師 中島 悦子
- 特任専門員 浜口 忠信
- 事務補佐員 長吉 智子
- 教務補佐員 高田 順子

≪知的財産部門≫ (四国共同機構担当)

- ・部門長 副学長 受田 浩之 兼務
- ・ 特任助教 下方 晃博 (四国共同機構アソシエイト)
- ・知的財産係
- 係 長 岡本 優
- 事務職員 谷内 紗代

≪国際連携部門≫

- ・部門長 教授 菊地 るみ子 兼務
- ・部門長 教授 谷口 雅基 兼務
- ・ 准教授 神崎 道太郎
- ・ 准教授 林 翠芳
- ・ 准教授 大塚 薫 (安徽大学日本語センター)
- ・ 助教 GARCIA DEL SAZ EVA
- ・ 特任教授 新納 宏
- ・ 特任准教授 唐 千友
- ・国際企画係
- 係 長 矢田 裕美
- 係 員 秋田 雅代
- ・国際連携係
- 係 員 山本 禎司
- 係 員 山脇 由子
- 事務補佐員 岩郷 晴美

高知大学国際・地域連携センター運営戦略室規則

平成 23 年 6 月 28 日
規則 第 12 号

最終改正 平成 24 年 12 月 28 日規則第 50 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、高知大学国際・地域連携センター（以下「センター」という。）規則（平成 17 年規則第 525 号）第 4 条の規定に基づき、高知大学国際・地域連携センター運営戦略室（以下「運営戦略室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 運営戦略室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 岡豊分室長及び物部分室長
- (3) 地域連携・再生部門長、産学官連携部門長、知的財産部門長及び国際連携部門長
- (4) 研究国際部長
- (5) その他センター長が必要と認めた者

(業務)

第 3 条 運営戦略室は、次の業務を行う。

- (1) 企画・戦略及び運営・評価に関する事項
- (2) 中期目標・中期計画及び年度計画に関する事項
- (3) 各部門の事業計画及び実施に関する事項
- (4) 財務に関する事項
- (5) 人事に関する事項
- (6) 規則の制定・改廃に関する事項
- (7) その他センターの業務に関する必要な事項

(運営戦略室会議)

第 4 条 運営戦略室に、前条の業務を行うため、運営戦略室会議を置く。

2 運営戦略室会議に関し必要な事項は、別に定める。

(専門委員会等)

第 5 条 センターの業務に係る必要な事項を審議するため、必要に応じて専門委員会等を置くことができる。

2 専門委員会等に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第 6 条 運営戦略室の事務は、研究国際部地域連携課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成 23 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 12 月 28 日規則第 50 号）

この規則は、平成 25 年 1 月 1 日から施行する。

高知大学国際・地域連携センター運営戦略室名簿（24年度）

平成24年7月1日

組 職	部局・職名	氏 名	備 考
センター長	副学長・本センター長	受 田 浩 之	
岡豊分室長	教育研究部医療学系 臨床医学部門	山 本 哲 也	
物部分室長	教育研究部自然科学系 農学部門	藤 原 拓	
地域連携・再生部門長	本センター特任講師	吉 用 武 史	
産学官連携部門長 (副センター長)	本センター准教授	石 塚 悟 史	教育研究部総合科学系 黒潮圏科学部門
知的財産部門長	副学長・本センター長	受 田 浩 之	
国際連携部門長	教育研究部人文社会科学系 教育学部門	菊 地 るみ子	
国際連携部門長	教育研究部人文社会科学系 教育学部門教授	谷 口 雅 基	
研究協力部長	研究協力部長	柴 田 正 紀	
センター長が必要と 認めた者	理事 (地域（社会）連携担当)	森 下 勝 彦	

高知大学国際・地域連携センター運営戦略室名簿（25年度）

平成25年7月1日

組 職	部局・職名	氏 名	備 考
センター長	副学長・本センター長	受 田 浩 之	
岡豊分室長	教育研究部医療学系 臨床医学部門	山 本 哲 也	
物部分室長	教育研究部自然科学系 農学部門	藤 原 拓	
地域連携・再生部門長	本センター特任講師	吉 用 武 史	
産学官連携部門長 (副センター長)	本センター准教授	石 塚 悟 史	教育研究部総合科学系 黒潮圏科学部門
知的財産部門長	副学長・本センター長	受 田 浩 之	
国際連携部門長	教育研究部人文社会科学系 教育学部門	菊 地 るみ子	
国際連携部門長	教育研究部人文社会科学系 教育学部門教授	谷 口 雅 基	
研究国際部長	研究国際部長	石 井 康 雄	
センター長が必要と 認めた者	理事 (地域（社会）連携担当)	森 下 勝 彦	

高知大学国際連携推進委員会規則

平成18年4月12日
規則 第 4 号

最終改正 平成25年12月10日規則第57号

(趣旨)

第1条 この規則は、高知大学国際・地域連携センター規則第14条第2項に基づき、高知大学国際連携推進委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 国際交流及び国際交流企画に関する事項
- (2) 国際交流活動の評価に関する事項
- (3) 国際交流協定に関する事項
- (4) 大学間等協定に基づく学生の派遣・受入れに関する事項
- (5) 外国人留学生の受入れ・支援に関する事項
- (6) 外国人留学生に対する修学、社会生活上の指導助言等に関する事項
- (7) その他国際交流・留学支援に関して必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長（国際・地域連携担当）
- (2) 国際・地域連携センター長
- (3) 総合教育センター長
- (4) 総合研究センター長
- (5) 国際・地域連携センター国際連携部門長
- (6) 国際・地域連携センター特任教員（国際連携部門）
- (7) 各学部、黒潮圏総合科学専攻及びセンター連絡調整会議から選出された教員 各1人
- (8) 土佐さきがけプログラムから選出された教員 1人
- (9) 国際・地域連携センター国際連携部門から選出された教員 1人
- (10) 研究国際部長
- (11) その他委員長が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条第7号及び第8号の委員の任期は2年、並びに第9号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、第3条各号の委員のうち理事（総務担当）が指名する者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の2分の1以上が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(留学生専門委員会)

第8条 委員会に、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に関する事項を審議するため、留学生専門委員会を置く。

2 留学生専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第9条 委員会の事務は、研究国際部国際交流課において処理する。

(雑則)

第10条 委員会は、必要に応じてワーキンググループを置くことができる。

2 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成18年4月12日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

2 高知大学国際交流委員会規則（平成16年4月1日規則第354号）は、廃止する。

附 則（平成20年3月26日規則第127号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年6月12日規則第18号）

この規則は、平成20年6月12日から施行する。

附 則（平成23年4月18日規則第2号）

この規則は、平成23年4月18日から施行する。

附 則（平成23年6月29日規則第15号）

この規則は、平成23年7月1日から施行する。

附 則（平成24年11月26日規則第48号）

1 この規則は、平成24年11月26日から施行する。

2 改正後、最初に任命される第3条第8号及び第9号に定める委員の任期は、第4条の規程にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則（平成24年12月28日規則第50号）

この規則は、平成25年1月1日から施行する。

附 則（平成25年10月17日規則第48号）

この規則は、平成25年10月17日から施行し、平成25年10月1日から適用する。

附 則（平成25年12月10日規則第57号）

この規則は、平成25年12月10日から施行し、平成25年12月1日から適用する。

高知大学国際・地域連携センター自治体連携室利用内規

平成 23 年 7 月 1 日

(設置)

第 1 条 地域との連携を推進するため、高知大学国際・地域連携センター規則（平成 17 年 7 月 1 日施行）第 16 条の規定に基づき、高知大学国際・地域連携センター（以下「センター」という。）に自治体連携室を置く。

(利用の原則)

第 2 条 自治体連携室の利用は、自治体との情報共有・情報交換等の交流や協議・打合せ等を行う場合、連携協定を締結する自治体が一時的な活動の拠点とする場合及び地域との連携に資するためセンターが必要と認める場合とする。

(利用の手続)

第 3 条 連携協定を締結する自治体が一時的な活動の拠点として自治体連携室を利用する際には、別に定める書面をもって、使用の手続きを行うものとする。

2 前項の手続きを経て使用する場合は、使用料は徴収しないものとする。

(利用時間)

第 4 条 自治体連携室の利用時間は、平日 8 時 30 分～17 時 15 分とする。ただし、事前にセンター長が認めたときは、22 時まで延長することができる。

(管理)

第 5 条 自治体連携室の管理は、地域連携課地域連携・再生係において行う。

(雑則)

第 6 条 この要領に定めるもののほか、自治体連携室に関し必要な事項はセンターが別に定める。

附 則

この規則は、平成 23 年 7 月 1 日から施行する。

高知大学国際・地域連携センターに設置する
高知大学中国語センターの運営に関する取扱い

平成 24 年 3 月 22 日
国際・地域連携センター運営戦略室会議

(趣旨)

第 1 高知大学（以下「本学」という。）と安徽大学が双方の協力を通じて、両大学の連携と交流を深化させるため、高知大学国際・地域連携センターに設置した「高知大学中国語センター」（以下「センター」という。）の運営について、次のとおり取り扱うものとする。

(構成)

第 2 センターに「国立大学法人高知大学と安徽大学との間の中国語センター開設に関する覚書」に基づき、安徽大学から派遣される教員を置く。
2 センターに統括管理者を置き、国際・地域連携センター長が委嘱する。

(業務)

第 3 センターは、次の業務を行う。
① 本学教職員、学生及び地域住民の中国語能力の養成に関すること。
② 中国学生・教員の受入れ及び支援に関すること。
③ 安徽大学への本学学生・教員の派遣及び支援に関すること。
④ その他、中国との交流、連携及び連絡に関すること。

(受入れ教員の処遇)

第 4 第 2 の第 1 項により受け入れる安徽大学からの派遣教員の処遇については、別に作成する書面により周知するものとする。

(事務)

第 5 センターに関する事務は、国際交流課において処理する。

(雑則)

第 6 この取扱いに定めるもののほか、センターに関し必要な事項は国際・地域連携センター運営戦略室会議において別に定める。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

教育組織図

Educational Organization

高知大学
Kochi University



平成 年 月 日

科学・技術相談申込書

(講師紹介・委員会や研修会等にも対応します!)

高知大学国際・地域連携センター 御中

(Tel : 088-844-8555 Fax : 088-844-8556 E-mail : kt04@kochi-u.ac.jp)

〒780-8073 高知市朝倉本町2-17-47

*受付番号: CRIC-

高知大学HP: <http://www.kochi-u.ac.jp/JA/>

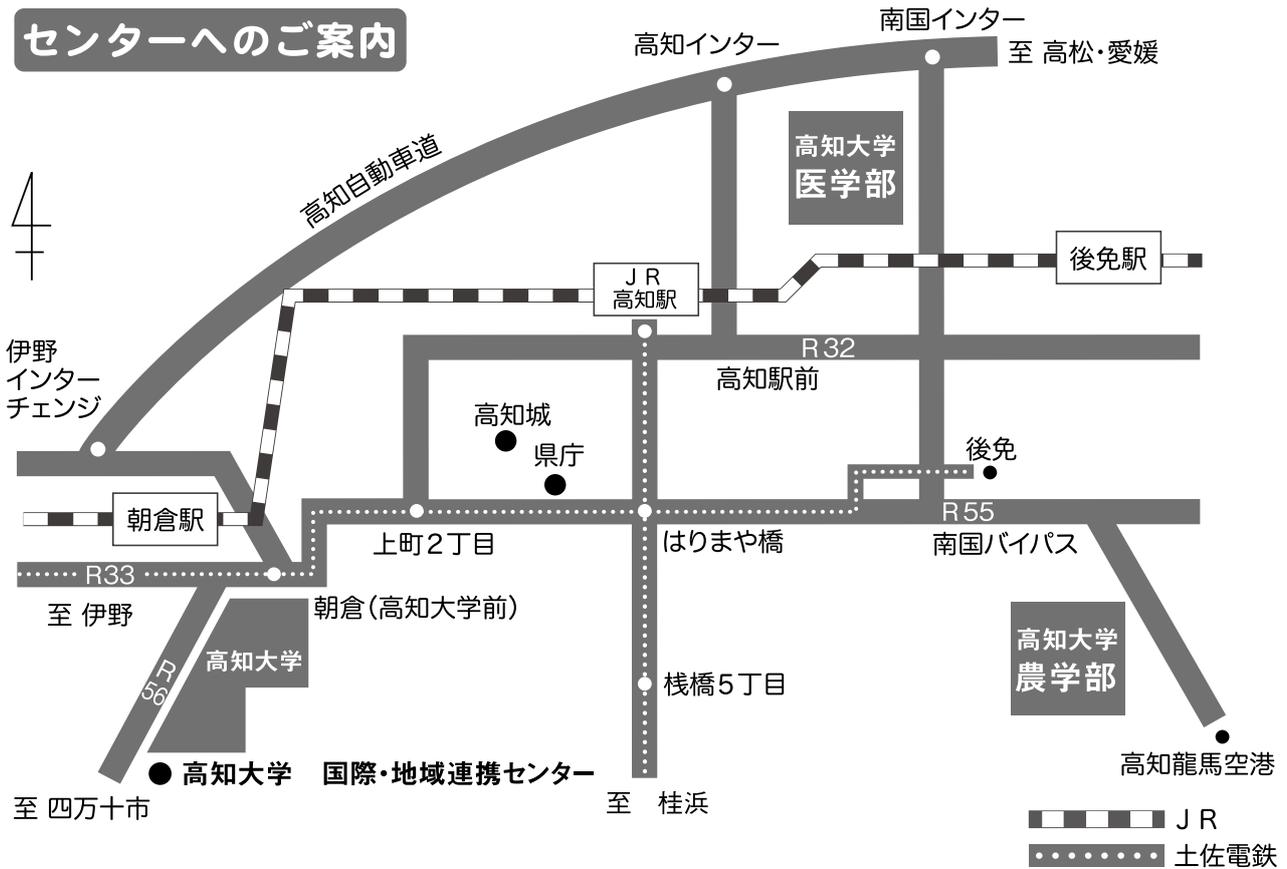
*事務受付日: 平成 年 月 日

*事務受付担当:

	紹介機関・者	Tel ()		
申 込 者	機関名			
	所属・役職		氏名	
	連絡先	〒		
	Tel		Fax	
	E-mail			
相 談 内 容	・相談事 相談内容 (書 - -)			
* 相談担当者 (大学)	所属・役職		氏名	
	Tel		Fax	
	E-mail			

・ 相談内容 E-mail Fax (-)

● 交通アクセス



● 高知大学周辺地図



車での所要時間

- 高知空港から約 45 分
- 伊野インターチェンジから約 5 分
- 高知駅から約 20 分



高知大学 国際・地域連携センター 年報 2013

発行日：2013年10月

発行：国立大学法人高知大学 国際・地域連携センター

〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47

TEL：088-844-8555 FAX：088-844-8556

<http://www.kochi-u.ac.jp/JA/>

印刷：株式会社 南の風社